平成27年度文部科学省
「大学教育再生加速プログラム(AP)」採択事業

長期学外学修プログラム

平成29年度報告書

文化学園大学

Bunka Gakuen University

平成27年度文部科学省
「大学教育再生加速プログラム（AP）」採択事業

長期学外学修プログラム

平成29年度報告書

文化学園大学

文部科学省
大学教育再生加速プログラム（AP）
テーマⅣ
長期学外学修プログラム（ギャップイヤー）
報告書発刊にあたり

ご挨拶

この度、長期学外学修プログラムの平成29年度事業活動の報告書をまとめました。

本学では、建学の精神である「新しい美と文化の創造」のもと、国内のみならずグローバルにファッション分野で活躍できる人材育成を目指しております。本学のプログラム実施は2月から3月にかけて梅春学期を新設し、1・2年生を対象に科目を開講致しました。本格的実施となる平成29年度から造形学部を加えて全学部を対象に開講科目数を大幅に増やして取り組んでおります。

本プログラムは、低学年次に長期間にわたり海外での異文化交流、国内での企業研修等の体験を行うことで、主体性や幅広い視野とグローバル創造力を身につけることを目的とするものです。さらに、高学年次の3年生を対象に海外・国内で1ヶ月から2ヶ月間の長期にわたりファッションクリエイション領域とファッションマーケティング領域での科目を開講致しました。学生はニューヨーク、ブリスベン、シドニー、香港、ロンドン、東京で8週間のインターンシップに参加することで、「グローバル創造力」の涵養につとめております。

本報告書は、その成果を学生自身が振り返る契機となることを意図しております。

最後に、本プログラム実施に当たり、ご協力、ご支援いただいた様々な企業、自治体、学校の皆さまに、心より御礼申し上げます。

平成30年4月
文化学園大学
学長　濱田 勝宏

長期学外学修プログラム報告書 目次 CONTENTS

扉 …… P.1
ご挨拶 …… P.2
目次 …… P.3
事業概要 …… P.5
平成29年度　活動実績 …… P.7
国際シンポジウム実施概要 …… P.9
プログラム一覧　梅春科目　海外 …… P.11
プログラム一覧　梅春科目　国内　3年次科目 …… P.12

国内プログラム

＜梅春＞和紙と漆でものづくり（飯山）
～日本の伝統工芸を見て、知って、体験する～ …… P.13
01　現代文化学部　国際ファッション文化学科 …… P.14

＜梅春＞素材からの商品企画（東京・新潟）
～素材から学ぶ服作り～ …… P.15
01　服装学部　ファッションクリエイション学科 …… P.16
02　服装学部　ファッションクリエイション学科 …… P.17
03　服装学部　ファッションクリエイション学科 …… P.18
04　服装学部　ファッションクリエイション学科 …… P.19
05　服装学部　服装造形学科 …… P.20

＜梅春＞染めによる着物デザイン（新潟）
～着物の総合加工技術を学ぶ～ …… P.21
01　現代文化学科　国際ファッション文化学科 …… P.22
02　現代文化学科　国際ファッション文化学科 …… P.23
03　服装学部　ファッションクリエイション学科 …… P.24
04　現代文化学科　国際ファッション文化学科 …… P.25

＜梅春＞オーダーファッション（東京・岩手）
～個対応の服づくり、店頭と工場～ …… P.26
01　服装学部　ファッションクリエイション学科 …… P.27
02　現代文化学科　国際ファッション文化学科 …… P.28
03　現代文化学科　国際ファッション文化学科 …… P.29

＜梅春＞カットソーの製造現場（東京・山形）
～カットソーの先端技術を学ぶ～ …… P.30
01　服装学部　ファッションクリエイション学科 …… P.31
02　服装学部　ファッションクリエイション学科 …… P.32
03　服装学部　ファッションクリエイション学科 …… P.33
04　服装学部　ファッションクリエイション学科 …… P.34

＜梅春＞ハイブランドの製造現場（千葉）
～高級フォーマルウェアの仕立て技術を学ぶ～ …… P.35
01　現代文化学科　国際ファッション文化学科 …… P.36

＜梅春＞ファクトリーブランド（東京・山梨）
～工場がつくったブランドの全貌～ …… P.37
01　服装学部　ファッションクリエイション学科 …… P.38
02　服装学部　ファッション社会学科 …… P.39
03　服装学部　ファッションクリエイション学科 …… P.40
04　服装学部　ファッションクリエイション学科 …… P.41
05　服装学部　ファッション社会学科 …… P.42

＜梅春＞ハイブランドの製造現場（東京）
～高級既製品の仕立て技術を学ぶ～ …… P.43
01　服装学部　ファッションクリエイション学科 …… P.44
02　服装学部　ファッションクリエイション学科 …… P.45
03　服装学部　ファッションクリエイション学科 …… P.46

＜梅春＞メイドイントウキョウのものづくり
～OEMの製造現場で考える（東京）～ …… P.47
01　服装学部　ファッションクリエイション学科 …… P.48
02　服装学部　ファッションクリエイション学科 …… P.49
03　服装学部　服装社会学科 …… P.50
04　服装学部　ファッションクリエイション学科 …… P.51

＜梅春＞ファッション企業研修（東京）
～ファッション企業の現場を学ぶ～ …… P.52
01　服装学部　ファッション社会学科 …… P.53
02　服装学部　服装社会学科 …… P.54
03　服装学部　ファッション社会学科 …… P.55
04　現代文化学部　国際ファッション文化学科 …… P.56
05　服装学部　ファッションクリエイション学科 …… P.57
06　現代文化学部　国際ファッション文化学科 …… P.58

07　服装学部　ファッションクリエイション学科 P.59
08　服装学部　服装社会学科 P.60
09　服装学部　ファッションクリエイション学科 P.61
10　服装学部　ファッションクリエイション学科 P.62

海外プログラム

＜梅春＞ブリスベン研修
～語学研修&スタディツアー～ P.63
01　服装学部　ファッション社会学科 P.64
02　現代文化学部　国際ファッション文化学科 P.65
03　服装学部　ファッション社会学科 P.66

＜梅春＞香港研修
～語学研修&スタディツアー～ P.67
01　服装学部　ファッション社会学科 P.68
02　現代文化学部　国際ファッション文化学科 P.69

＜梅春＞ニューヨーク研修
～語学研修、企業研修、NYコレクション見学～ P.70
01　服装学部　ファッション社会学科 P.71
02　服装学部　ファッションクリエイション学科 P.72
03　現代文化学部　国際ファッション文化学科 P.73
04　服装学部　ファッション社会学科 P.74
05　現代文化学部　国際ファッション文化学科 P.75
06　服装学部　ファッション社会学科 P.76
07　現代文化学部　国際ファッション文化学科 P.77
08　現代文化学部　国際ファッション文化学科 P.78
09　服装学部　ファッションクリエイション学科 P.79
10　服装学部　ファッション社会学科 P.80
11　服装学部　ファッション社会学科 P.81

＜梅春＞イタリアインターンシップ実地研修
～生地メーカーで生産から営業までを学ぶ～ P.82
01　服装学部　ファッション社会学科 P.83

＜梅春＞ハワイ研修
～語学研修&スタディツアー～ P.84
01　服装学部　ファッション社会学科 P.86
02　造形学部　デザイン・造形学科 P.87
03　造形学部　建築・インテリア学科 P.88
04　現代文化学部　国際ファッション文化学科 P.89
05　現代文化学部　国際ファッション文化学科 P.90
06　造形学部　デザイン・造形学科 P.91
07　造形学部　デザイン・造形学科 P.92
08　現代文化学部　国際ファッション文化学科 P.93
09　服装学部　ファッション社会学科 P.94

グローバルファッションマネジメント実習 P.95
01　服装学部　服装社会学科　GFMコース P.96
02　服装学部　服装社会学科　GFMコース P.97
03　服装学部　服装社会学科　GFMコース P.98
04　服装学部　服装社会学科　GFMコース P.99
05　服装学部　服装社会学科　GFMコース P.100
06　服装学部　服装社会学科　GFMコース P.101
07　服装学部　服装社会学科　GFMコース P.102
08　服装学部　服装社会学科　GFMコース P.103
09　服装学部　服装社会学科　GFMコース P.104
10　服装学部　服装社会学科　GFMコース P.105
11　服装学部　服装社会学科　GFMコース P.106
12　服装学部　服装社会学科　GFMコース P.107

ニューヨークパターン研修 P.108
01　服装学部　服装造形学科　テキスタイル企画コース P.109
02　服装学部　服装造形学科 P.110

文部科学省
大学教育再生加速プログラム（AP）
テーマⅣ
長期学外学修プログラム（ギャップイヤー）
事業概要

クリエイティブ・ファッション分野はグローバル化が急がれる領域です。本学は、「新しい美と文化の創造」を建学の精神とし、日本国内にとどまらずグローバルに活躍できる人材の育成を目指しています。

このためには、グローバル意識を持たせるような教育が不可欠であり、大学入学後早期（1・2年次）に中長期にわたる異文化を知る海外学外学修や我が国の伝統や文化を理解する国内学外研修が有効だと考えられます。しかし、中長期間をとってカリキュラム化することは現在の学事暦では困難です。

そこで、学事歴を考慮した上で、平成28年度から、後期試験終了後（2月中旬）から春期休暇（3月中旬）までの期間の約1カ月を「梅春学期」として新設しました。

1年次及び2年次を中心に集中的な学外体験プログラム（「梅春科目」）を開講し、さらに、3年次により専門的な学外学修プログラムを提供することで、ファッション分野における「グローバル創造力」の養成をすすめています。

平成29年度 活動実績

前期	
4月	「梅春科目」説明会
5月	「梅春科目」面接（※科目毎に実施）
6月	「GFM実習」（3年次）面接
	「NYパターン研修」（3年次）面接
8月～9月	「NYパターン研修」（3年次）実施
後期	
10月～11月	「GFM実習」（3年次）実施
11月	国際シンポジウム開催
2月上旬	「GFM実習」（3年次）報告会
	「梅春科目」国内プログラム合同事前研修
梅春学期	
2月中旬～3月上旬	「梅春科目」実施
3月中旬	「梅春科目」合同報告会

文部科学省 AP事業　テーマⅣ−長期学外学修プログラム−

国際シンポジウム実施概要

▶ 開催の目的

・本プログラムは、海外研修での異文化体験、異文化交流を通じて、及び国内研修でのわが国の伝統文化や製造現場でのモノづくりの理解を深め、学生が広い視野で物事を捉える「グローバル創造力」を養うことを目的とした
・シンポジウムでは、海外提携校教員および受け入れ先担当者を招いて、交流事業の意義についての基調講演や取り組みの事例発表を行い、長期学外学習プログラムのこれからの方向性や可能性について意見交換を行った

▶ 開催日

2017年11月4日（土） 13時00分 − 16時00分

▶ 会場

文化学園大学　A201

▶ プログラム

司会進行　田中直人(文化学園大学)

1. 開会挨拶　文化学園大学　学長　濱田勝宏
2. 基調講演　テーマ “Adaptation” ～グローバル化における適応～

Prof. Nicholas Comino（Raffles College of Design and Commerce Program Director of Fashion Design and Fashion Marketing）

- 文化学園大学のAP事業取組内容　須山憲之（文化学園大学）
- 事例発表

・シドニー Raffles College of Design and Commerce / Bunka Gakuen University：ファッションワークショップ
　加々美 里奈【服装学部3年】
　Mo Yeongwon【服装学部3年】
・長野県飯山市：伝統工芸研修プログラム
　稲葉 一起【造形学部2年】
・海外長期インターンシップ：オーストラリア ブリスベン
　鯉沼 杏実【服装学部4年】
・国内長期インターンシップ：東京
　平井 綾【服装学部4年】

- パネルディスカッション

～ APプログラムの意義と今後の展望　～学びの環境の確立に向けて

（コーディネーター）栗山丈弘（文化学園大学）
（パネリスト）Crystal Tsoi（Raffles College of Design and Commerce　Assistant Program Director）
　森山直明（一般社団法人信州いいやま観光局事務局長）
　須山憲之（文化学園大学）
　田中直人（文化学園大学）

文化学園大学　2017 年度
BUNKA GAKUEN UNIVERSITY

AP 国際シンポジウム
International Symposium

「グローバル創造力」の養成を目指して！！
Cultivating “Global Creativity”

日　時　2017 年 11 月 4 日（土）13:00 ～ 16:00

会　場　文化学園大学　A201 教室（A 館 20 階）

◆ プログラム ◆

13:00 開会挨拶
濱田 勝宏【文化学園大学 学長】

13:05 基調講演
“Adaptation” ～グローバル化における適応～
Prof. Nicholas Comino （ニコラス コミノ）
【Program Director of Fashion Design and Fashion Marketing, Raffles College of Design and Commerce】

オーストラリアのクイーンズランド工科大学にて、建築学及び工業製品デザインを、イギリスのリーディング大学にて、芸術および芸術史を学ぶ。その後、クイーンズランド工科大学にて、美術を専攻し修士号を取得。
教育者であり、デザイナー、芸術家であり、世界各国で様々な芸術とデザインに関するプロジェクトに携わってきた。
また、ファッション芸術財団のオーストラリア代表でもある。

13:55 文化学園大学APプログラム 中間報告
須山 憲之【文化学園大学 准教授】

14:05 事例発表 （2016年度実施）
★シドニー Raffles College of Design and Commerce / Bunka Gakuen University
・ファッションワークショップ 加々美 里奈【服装学部3年】
Mo Yeongwon【服装学部3年】
★長野県飯山市
・伝統工芸研修プログラム 稲葉 一起【造形学部2年】
★海外・国内 長期インターンシップ
・海外：オーストラリア ブリスベン 鯉沼 杏実【服装学部4年】
・国内：東京 平井 綾【服装学部4年】

14:35 休憩

14:45 パネルディスカッション
～APプログラムの意義と今後の展望～ “学びの循環の確立に向けて”
【パネリスト】
Crystal Tsoi （クリスタル ツォイ）
【Assistant Program Director, Raffles College of Design and Commerce】

2014年に同校のファッションデザイン学科のアシスタントプログラム責任者に就任。
自身のブランドビジネス及び複数の海外とのプロジェクト経験により得られた知見を持って、デザインとファッションビジネスの教育にあたっている。
APシドニープログラム統括の中心的人物である。

森山 直明
【一般社団法人信州いいやま観光局 事務局長】

飯山市役所における農林、税務、総務、教育などの部署を経て2016年より現職。「観光には地域資源のみならずありとあらゆるものを活用すべき」が信条で、スポーツやロックも活かせないかと考えている。
本学と同市との連携事業では現地訪問学生を積極的にサポートしている。

須山 憲之【文化学園大学 准教授】
田中 直人【文化学園大学 准教授】

【モデレーター】
栗山 丈弘【文化学園大学 准教授】

16:00 閉会

◆ Schedule of Program ◆

13:00 Opening Remarks
Katsuhiro Hamada　President, Bunka Gakuen University

13:05 Keynote Address
“Adaptation”
Prof. Nicholas Comino
【Program Director of Fashion Design and Fashion Marketing, Raffles College of Design and Commerce】

Nicholas Comino studied Architecture and Industrial Design at the Queensland University of Technology, and Fine Art and Fine Art History at Reading University.
He holds a Masters of Fine Art from Queensland University of Technology. He is a passionate educator, designer and artist committed to interdisciplinary and collaborative creative practice.
He has worked on many Art and Design projects in Australia and many other countries. He is also the Australian representative for the Arts of Fashion Foundation.

13:55 Interim Report on the Bunka Gakuen University AP program
Noriyuki Suyama , Associate Professor, Bunka Gakuen University

14:05 Project Presentations (2016 AP Program)
★Sydney: Raffles College of Design and Commerce / Bunka Gakuen University
・Fashion collaboration workshop　Rina Kagami【Faculty of Fashion Science(3rd)】
Yeongwon Mo【Faculty of Fashion Science(3rd)】
★Iiyama City, Nagano
・Traditional Japanese arts and crafts training　Itsuki Inaba【Faculty of Art and Design (2nd)】
★Domestic and Overseas Long-term Internship Program
・Brisbane, Australia : Ami Koinuma【Faculty of Fashion Science(4th)】
・Tokyo, Japan : Aya Hirai【Faculty of Fashion Science(4th)】

14:35 Break

14:45 Panel Discussion
～The meaning of the AP program and its future prospects ～
“For the Sustainability of Learning”
【Panelists】
Crystal Tsoi
【Assistant Program Director, Raffles College of Design and Commerce】

Crystal Tsoi is originally from Hong Kong and has been an Assistant Program Director of the Fashion Design Department since 2014.
She has extensive experience in the fashion industry from building her own brand as well as from working on multiple projects overseas.
She has played a key role in organizing the Raffles/Bunka collaboration program.

Naoaki Moriyama
【Director, Shinshu Iiyama Tourism Bureau】

Naoaki Moriyama has worked at the Department of Agriculture and Forestry, Taxation, General affairs, and Education at Iiyama city office and has been assigned to the Shinshu Iiyama Tourism Bureau as Director since 2016.
His motto is “we should consider all possibilities, conventional and unconventional, when it comes to promoting tourism.”
He has been actively supporting Bunka students through collaboration programs

Noriyuki Suyama 【Associate Professor】
Naoto Tanaka 【Associate Professor】

【Moderator】
Takehiro Kuriyama 【Associate Professor】

16:00 Closing

◆ 文化学園大学APプログラム ◆【概要】

●事業全体の概要●
梅春学期の新設とその展開
－ファッション分野における「グローバル創造力」を持った人材育成のためのプログラム－

背景：
ファッション産業と本学を取り巻く環境の変化
▸国内市場の飽和と海外市場進出
▸自国の伝統や文化を理解できる人材育成
▸グローバルマインドを持った人材育成

世界で活躍できる「グローバル創造力」人材育成の必要性
本学を取り巻く環境に対応するためには、「グローバル創造力」を持った人材の育成が必要であり、そのためには入学後早期段階での教育が重要である。本事業の目的は、この段階で体系的に中長期の学外学修プログラムを提供し、グローバル人材育成に寄与することにある。

●学事歴と梅春学期の新設●
・後期試験終了後（2月中旬）から春期休暇（3月中旬）までの1カ月余を「梅春学期」として新設

●1・2年次 学外学修プログラム●
①海外学修プログラム
1）ファッションワークショップ
2）グローバルファッション授業体験
②国内学修プログラム
1）伝統・文化企業インターンシップ

●3年次 学外学修プログラム●
①ファッションクリエイション分野
1）ファッションショー企画参加
2）ファッションショー・文化体験
②海外・国内企業でのインターンシップ
1）海外インターンシップ
2）国内インターンシップ
（海外語学研修含む）

●グローバル創造力●
①コミュニケーション力
（語学力＋デザイン表現力）
②伝統・文化理解力
③グローバルキャリア
デザイン志向

本事業の実施体制

【期待される事業による効果】
本事業では、段階的かつ体系的に海外、国内で学外学修することによって「グローバル創造力」が醸成されることが期待される。このモデルはファッション分野に限定されるものではなく、デザインやクリエイティブ分野にも応用することが可能であり、全学的に波及効果があるだけではなく、多くの分野におけるモデルケースとなるはずである。本事業はファッション産業だけではなく、クリエイティブ分野のグローバル市場の活性化を担うものである。

◆ 文化学園大学APプログラム ◆【実績】

2016年度 （参加学生数：21名）
1・2年次科目
「和紙と漆でものづくり(飯山)」、「オーストラリア・シドニー研修」
3年次科目
「グローバルファッションマネージメント実習」(東京、シドニー、ブリスベン、パース、香港)

2017年度 （参加予定学生数：85名）
1・2年次科目（梅春科目）
国内10科目
「〈梅春〉和紙と漆でものづくり(飯山)」、「〈梅春〉素材からの商品企画（東京新潟）」、
「〈梅春〉染めによる着物デザイン(新潟)」、「〈梅春〉オーダーファッション（東京岩手）」
「〈梅春〉カットソーの製造現場（東京山形）」、「〈梅春〉ハイブランドの製造現場(千葉)」
「〈梅春〉ファクトリーブランド（東京山梨）」、「〈梅春〉ハイブランドの製造現場(東京)」
「〈梅春〉メイドインウキョウのものづくり」、「〈梅春〉ファッション企業研修(東京)」
海外5科目
「〈梅春〉ブリスベン研修」、「〈梅春〉香港研修」、「〈梅春〉イタリアインターンシップ実地研修」
「〈梅春〉ニューヨーク研修」、「〈梅春〉ハワイ研修」

3年次科目
「ニューヨークパターン研修」
「グローバルファッションマネージメント実習(東京、ロンドン、シドニー、ブリスベン、香港)」

梅春科目

海外

梅春

■イタリア インターンシップ実地研修−生地メーカーで生産から営業までを学ぶ

■ブリスベン研修−語学研修&スタディツアー

■シドニー研修−現地学生と共同作業で作品制作に挑戦

■香港研修−語学研修&スタディツアー

■ハワイ研修−語学研修&スタディツアー

■ニューヨーク研修−語学研修、企業研修、NYコレクション見学

国内

梅春

■和紙と漆でものづくり（飯山）－日本の伝統工芸を見て、知って、体験する

■オーダーファッション（東京岩手）－個対応の服づくり、店頭と工場

■ファクトリーブランド（東京山梨）－工場がつくったブランドの全貌

■カットソーの製造現場（東京山形）－カットソーの先端技術を学ぶ

■染めによる着物デザイン（新潟）－着物の総合加工技術を学ぶ

■素材からの商品企画（東京新潟）－素材から学ぶ服作り

■ハイブランドの製造現場（千葉）－高級フォーマルウェアの仕立て技術を学ぶ

■メイドイントウキョウのものづくり－OEMの製造現場で考える（東京）

■ハイブランドの製造現場（東京）－高級既製服の仕立て技術を学ぶ

■ファッション企業研修（東京）－ファッション企業の現場を学ぶ

3年次科目

ニューヨークパターン研修―大丸製作所でのパターンインターンシップ
グローバルファッションマネジメント実習

〈梅春〉和紙と漆でものづくり　飯山

日本の伝統工芸を見て、知って、体験する

授業概要

長野県飯山市は日本のふるさとの原風景が色濃く残る地域であり、飯山市には「内山紙」と「飯山仏壇」の二つの伝統工芸品がある。この授業では、紙漉きや仏壇づくりに用いられる漆芸、蒔絵、彫金といった伝統工芸の技法を職人に直接指導してもらうとともに、これらの技法を用いた商品等のデザインにチャレンジする。

伝統の技や職人のものづくりに対する考えに触れ、グローバル化が進む中で「COOL JAPAN」を世界にむけて発信できる力を身につけたい。

到達目標

本学の長期学外学修プログラムはコミュニケーション力、伝統・文化理解力、グローバルキャリアデザイン志向をもった「グローバル創造力」の育成を目的としている。

(1)「内山紙」の紙漉き体験を通して、和紙がどのようにできるのかを理解するとともに、和紙職人のものづくりに対する思いを感じることができる。
(2)「飯山仏壇」の彫金、蒔絵、漆芸、木彫などの体験を通して仏壇がどのようにできるのかを理解するとともに、仏壇職人のものづくりに対する思いを感じることができる。
(3) 伝統の技や職人のものづくりに対する考えに触れた上で、「COOL JAPAN」を世界にむけて発信できるデザイン企画をすることができる。
(4) 自分の企画についてプレゼンテーションすることができる。
(5) 自分自身のキャリアデザインを考慮し目的意識をもって参加することができる。
(6) APプログラムでの経験を通じて今後の大学生活での学びへの応用や卒業後のキャリアについて考えることができる。

期間／スケジュール

一週目 都内研修	2/13(火)	合同事前授業　国内プログラム参加者11名 午前:シェアアトリエcoromoza見学(講師　西田拓志氏) 午後:講義とディスカッション(大学にて)
	2/14(水)	合同事前授業 午後:文化ファッションテキスタイル研究所(八王子)にて講義
	2/15(木)	飯山事前授業 午前:紙の博物館　見学(王子)　入館料300円 午後:浅草仏壇通り見学(上野)　銀座ながの見学
	2/16(金)	事前授業のまとめと現地研修にむけた準備 10:00〜16:00 大学にて
二週目 飯山研修	2/19(月)	移動日　自宅→飯山 集合　13:15　新幹線飯山駅 改札前 現地案内　北竜館へチェックイン
	2/20(火)	仏壇技術研修　10:00〜16:00 【箔押し体験】上海本店
	2/21(水)	仏壇技術研修　10:00〜16:00 【彫金体験】三ツ井金具製作所
	2/22(木)	仏壇技術研修　10:00〜16:00 【蒔絵体験】藤沢蒔絵
	2/23(金)	仏壇技術研修　10:00〜16:00 【木彫体験】森彫刻
	2/24(土) 〜25(日)	自由行動

三週目 飯山研修	2/26(月)	内山紙研修　10:00〜16:00 【紙漉き体験】阿部製紙
	2/27(火)	内山紙研修　10:00〜16:00 【紙漉き体験】阿部製紙
	2/28(水)	内山紙研修　10:00〜16:00 【紙漉き体験】飯山手すき和紙体験工房
	3/1(木)	企画づくり　10:30〜16:00 飯山手すき和紙体験工房にて
	3/2(金)	企画プレゼンテーション　10:30〜12:00 飯山手すき和紙体験工房にて
	3/3(土)	移動日　飯山→自宅
四週目 都内研修	3/5(月)	現地学習のふりかえりと報告書の作成 10:30〜16:00　大学にて
	3/6(火)	現地学習のふりかえりと報告書の作成 10:30〜16:00　大学にて
	3/7(水)	現地学習のふりかえりと報告書の作成 10:30〜16:00　大学にて
	3/8(木)	合同報告会（長野・千葉・新潟・岩手・ハワイ） 10:30〜12:00　事前学習に対する意見交換 13:00〜14:30　各プログラムからの報告

成果と課題

参加学生は、飯山仏壇、内山紙といった伝統工芸を職人(伝統工芸士)から直接指導してもらう体験を通じて、技術の高さを知るだけでなく、人柄の温かさに触れ、また、対話することで、ものづくりに対する想いを感じるとともに伝統工芸の置かれている状況や諸問題(ライフスタイルの変化や後継者不足等)についても理解することができた。そこから、自分自身のものづくりに対する考えを整理し、商品企画という形にまとめ提案することができたことから、本研修の到達目標は概ね達成できたと考えている。

昨年度課題としてあげた宿泊、食事、移動等の日常生活面での不便さに関しては、滞在施設を本学園のセミナーハウスに変え、職員が学生とコミュニケーションをはかりながらケアすることで概ね改善された。しかしながら、参加学生が1名であったため、飯山での現地学習の中で学生同士の学び合いが図れなかった点は残念である。ただ都内での事前、事後学習では他のプログラム参加学生と意見交換することで学びを相対化する機会を設けることはできたと考えている。複数の参加学生を確保し、学びが深まる体制づくりが課題である。

所属学部学科 | 現代文化学部　国際ファッション文化学科

▶ 履修の目的･目標

ファッションに関する学びはファッションとは全く異なる分野からも得られる。興味を持ったあらゆることについて掘り下げてみようと思い、履修した。ここで学んだことが直接将来の仕事に結びつかなくとも、自身のキャリアデザインにつながることを見つけることが大切であると考えており、その発見を本プログラム履修の目的・目標とした。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

まず、伝統工芸を学ぶことを通じて、土地で働く人々との繋がりを実感できたことである。体験でお世話になった方々はみな親切で、職人と聞いて思い浮かべるようなとっつきにくさは無かった。お菓子やお茶を出していただいたり、お土産を沢山もらったり、一緒に昼食後に仮眠をとることもあった。次に伝統工芸を支える地域特性を理解できたことがある。飯山の伝統工芸は、雪に覆われ農業のできない冬の時期に農家の副業として始まったものである。和紙を白くするための技術として、原料の楮を雪の上で日光にさらす技があるが、これは雪に覆われる土地ならではのものであることを学んだ。また、これら技術の魅力をより引き出すためには何が必要かを考えることができたことも印象深い。すでにあるもののなかで競争することには限界があるが、「欲しかったけど、なかったもの」を補うことで新しい製品や仕事がうまれていけば良いと思った。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

飯山の伝統工芸である、仏壇･和紙の技術を学び、最終的にそれを活かした商品企画をするまでが今回の授業課題であった。そのため、はじめて『多くの人が欲しいもの』とはなんだろうと考えたが、全くわからなかった。また、なるべく沢山の人が手に取るであろうモノを考えると、自分が欲しいものではなくなっていく。その時に、商品企画の際にお世話になった方に、「自分の欲しいものでいいんだよ」と言われ、納得した。結局、『自分が欲しいもの』でなければ、自信を持ってＰＲすることもできなければ、同じように欲しいと考える人が現れるわけもない。自分が一番に欲しいと思うものを全力で作り、それを自信を持って発信することでそれに同調してくれる人が現れたら、それほど幸せなこともないということに気づいた。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

ファッションを含む娯楽品はそれが無くても生きていけるものである。だが、私たちがそれら娯楽品市場の中で今後も生きていくだろうことは間違いない。そうした娯楽品を扱う分野において、今後自分が作ったもので収益を上げて生活できるかどうか、今はまったくわからない。そもそも、生活することで精いっぱいになり、ものづくりがおろそかになることだって考えられる。しかし、今回のプログラムに参加して、職人さんの生活を垣間見る中で、これはもしかして、「抜け道」かもしれないと思った。ものづくりを続けるゆとりを持って生活したいのなら、この職人さんたちのようにそれが可能となるよう知恵を絞らねばならない。学生のうちはまず『自分の欲しいもの』から『自分と、友人など近しい人が欲しいもの』というように対象となる範囲を広げていき、最終的には『少数でも、欲しい人が確実にいるものをつくること』を目指そうと考えている。

〈梅春〉素材からの商品企画

東京
新潟

素材から学ぶ服作り

授業概要

本講座では、アパレル業界における布地の製造、企画、生産、販売までの一連の流れについて、実際の現場を学び体験し、その成果としてオリジナルのテキスタイルで商品企画を行う。まずはマツオインターナショナル株式会社(東京)で、企画書や生産のプロセスを学び、また販売方法や戦略などについて実店舗で見学を行う。特に布地の製造にていては、株式会社匠の夢(新潟)で素材から学び、実際に布地が織られる現場を見学する。また、織機を用いてオリジナルのテキスタイルを製作する。その他に、新潟県見附市でニットの製造工場や布地の整理加工業などの工場見学から産地を学ぶ。最後に、学んだ知識を生かし、オリジナルテキスタイルから商品の企画書、商品製作、最終プレゼンテーションを行うことで実際のアパレル業界の流れと、もの作りの現場を理解する。

到達目標

商品企画、生産、販売の現場について研修や実店舗見学などから商品プロセスをより深く理解する。織物について、素材からテキスタイルデザインまでを深く学び、伝統的な技術から最先端の見せる生産現場を視察する。また、研修で得られた知識や体験を生かし、商品企画、製作、最終プレゼンテーションを行う。この一連の流れから、日本のモノづくりの現場を理解し、自らの思いや考えをまとめ、発信する力を養成する。

期間／スケジュール

第1週：マツオインターナショナル株式会社(東京)で企業、ブランドについての概要説明、企画・生産・営業・管理部門についての研修、また実店舗見学を行い、アパレル企業の仕事内容や販売の現場を知る。

第2週：株式会社匠の夢(新潟)で素材からテキスタイルに関する講義や、実際に布地が織られている現場を見学し、糸から反物への製造過程を学ぶ。また、オリジナルでデザインした布地を製作する。産地である新潟県のニットの製造業や整理加工専門の企業等、工場見学を行う。

3・4週：マツオインターナショナル株式会社(東京)で実際に商品企画を行い、企画書、商品製作、プレゼンテーション資料の作成を行う。商品企画では、ディスカッションを繰り返し、商品の改良や人に伝わるプレゼンテーションスキルを学ぶ。また、アパレルに関する全般の内容について課題を取り上げ、ディスカッション形式で自ら考え、人に意見を伝えるという姿勢を学ぶ。最後に研修の集大成として、商品企画プレゼンテーションを行い、企業の方等に意見を頂き総まとめを行う。

成果と課題

企業研修を終え、学生から以下のような学びや感想が挙げられた。

・研修を終え、自分の将来について考えることに現実味が増したように思う。また、世の中の動きに敏感であることの必要性や自分で考えることの大切さを感じた。この研修で得た感動を持続したい。また､積極的に人と関わりを持ち､自分の幅を広げていきたい。
・アイディは身の回りにあふれており、１つ１つの物事に興味を持ち、受け身ではなく主体的に学ぶことが大切だと気付いた。
・商品企画では、普段学校での製作とは違い、企業のモノづくりと同じプロセスで企画し、上代・原価率・輸送費・売れるデザインなのかなど考えながら製作することができた。また、自分の好きなものを作るだけではなく、誰かにいいなと思ってもらえるように、相手の立場に立って明確なターゲットを考える必要がある。自分の好きなものや自分の軸を持つことの大切さを知り、そしてそれをどう広げていくか、考えていくか、表現していくかが大切だと気付いた。
・実店舗見学で、陳列方法、レイアウト、配色、品数を見るなど今までとは違った見方ができるようになった。売り方を考えることで売り上げが変わり、店舗の有り方に可能性を感じた。作り手や売り手の気持ちをくみ取って商品を見ていきたい。
・新潟研修では、現場を見ることができ、「現地に足を運んで実際に自分の目で見る」ことの大切さを知った。産地の方の想いを直接聞き、産地を今後も存続させていくために自分たちが考えなくてはいけないと感じた。素材の大切さや奥深さを感じた。服のデザインは形だけでなく生地そのものもデザインになるということに気付いた。
・プレゼンテーションでは要点を伝え相手に関心を持たせ心に訴えるような話し方や段取り、準備が必要だと学んだ。また、人の発表でお互い指摘して気づくことが多く自分の意見を伝えるむずかしさを感じた。

以上のように、この研修を通して、実際のアパレル企業の現場を知るという実体験は学生にとって大きな教育効果が得られた。また、将来を具体的に考えるきっかけになった。今後の課題としては、自分で考える力を養い、それを発信していく能力を高める教育を強化する必要があると考える。

所属学部学科 | 服装学部　ファッションクリエイション学科

▶ 履修の目的･目標

私はこのプログラムで、人に自分の考えていることやイメージ、意見などをしっかり伝えられるようになることと、そのイメージを表現、デザインして企画や製作、発表するまでの流れを学びたいと思い参加しました。さらにそこで自分の得意なことと苦手なところや足りないところを発見してこれからの生活に生かしていきたいと思いました。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

商品を企画してものをつくるということはただ自分の好きなものをつくるだけではいけなくて、それを誰かにいいなと思ってもらわなければいけなくて、相手の立場、消費者の立場に立って考えなければならないということがとても印象に残りました。サンプルを製作する前に自分の企画をみんなにプレゼンし、意見をもらうこともとても大切で自分では気付かない点など客観的に見ることができてもっと良いものができると感じました。意見交換をしてサンプルをつくって、また修正してを繰り返して良いものが出来上がるのだなと実感できました。 ファッションとはとても幅広いもので、もっと色々なものを見て触れていくことが必要で本当にたくさんの要素が詰まっていることが分かりました。そしてそれを自分で考え、誰かと共有することで自分の考えが良くなるのだと思います。 さらに、私は織物工場に行くことは初めてだったのですが思っていた工場、働き方とは全く違っていました。人も少なく機械だけがただ動いているものだと思っていましたが、たくさんの人が関わっていて手作業の工程があったり言葉だけで聞いて理解してたと思っていたことも実際に現場を見るとより理解が深まったり発見があったりしました。本当に自分の目で実際に見るということは大切だと思いました。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

自分の好きなものや自分の軸があることは大切で、それからどう広げていくか考えいくかが重要であると思いました。このように自分の考えた企画を誰かに伝えることはただただ説明をするだけでは魅力は伝わらなくて、大変だった思いなど自分の思いを加えないと人の心は動かすことができないのだということを学びました。誰かに共感してもらったり、誰かが自分の思いに寄り添ってくれることで自分のつくったものが手に取ってもらえるのではないかと思います。自分のイメージしたものをいざ布を使って型にしようとする難しくて、サンプルつくって問題点を修正してを繰り返すことで良いものがつくれるのだと分かりました。大変だけれどその問題点が解決されて納得のものができた時、嬉しくてそれがものづくりの楽しさなのだろうと感じました。そして、なにごとも前向きに考えることが大切であり、目標は手に届くものでは努力をしないし成長もしないけれど高い目標をたてればそれに向かってどうするのか考えたり努力したり成長ができると教えていただきました。少しずつでもなにかに挑戦してやってみるという大切さを改めて感じることができました。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

私にとってこのプログラムは将来やりたいことを改めて考える、再確認できるきっかけとなりました。小さい頃から好きなものは変わらないし、やりたいことは変わらないのだと思うことができたので、自分の好きなことは大切にしていきたいです。まだ知らないことや分からないことがたくさんあると思いますが、知らないということをマイナスに考えずに知らない世界がたくさんある、もっと学ぶことのできる世界があるとプラスに考えてもよいのではないかと思いました。なのでもっと積極的に人と関わってたくさんのものを見て考えて、それを自分の力で表現できて人に伝えることがしたいと思いました。自分の興味のないことを避けず、そこにもなんらかのヒントがあるかもしれないし新しい発見があるかもしれない、そうやって前向きに楽しく何事もやっていけば力になっていくと思うしその姿勢をいつまでも続けていきたいです。

所属学部学科 | 服装学部　ファッションクリエイション学科

▶ 履修の目的･目標

アパレルのブランドがどのようなことをしているのか、どんなビジネスをしているのかを知りたかったから。
また、素材から商品企画までを最初から最後まで、一貫して知ることができると思ったため。社会人になるためのマナーや実際に働いている人の空気感を学ぶこと。自分自身の得意と苦手を見つけるとこ。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

最も印象に残っていることを1つに絞ることができないくらいとても充実した研修だった。やはり印象に残ってるという面では新潟での工場見学だと思う。普段の生活では見ることのできないリアルな現場を見ることができた。現地に足を運んで実際に自分の目で見ることがどれほど大切なことであるかを知った。目で見て、産地の方々の想いを直接聞いて産地を残すために私達が今後何をして行けばいいのかを考えさせられた。もっと学生にも産地に足を運ぶ機会が増えたらいいと思った。また素材の大切さや奥深さにも気づくことができた。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

今回の研修で1番に学んだことは、「考える力」だ。慣れていないと最初は難しいが、頭を柔らかくして考えることが大切であると学んだ。また世の中のことをもっと知る必要があると感じた。新聞や本を読んでもっと世の中の動きに敏感になっていこうと考えた。考え方の一つとして、「ポジティブに考えること」というのがあった。最初からできないと諦めるのではなく、まずやってみよう！と思うことも大切であると気づくことができた。このような考え方を精神面のこと以外でも素材のことについてなど発見の連続だった。今まで服のデザインというものは「服の形」つまりはパターンなどによる操作や縫製でのデザインというイメージであった。しかし、今回の研修で素材、生地、ニットそのものがデザインになっていくということに気づくことができた。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

今回の研修で、ふわっとしていた自分の将来というものが、少しハッキリとして現実味を増したように思う。この研修の感動を持続していけるようにしたい。今回、素材の大切さや産地のことを学んだので今後の服作りやデザイン、アパレルの仕事につくことを考えて、ただ服をデザインするのではなく、素材のことを考えてデザインしていきたい。自分のことだけを考えるのではなく、今後の未来を見据えて自分の考えたデザインなどを形にして表現できたら良いと思った。難しい事ではあるが、今後の目標にしたい。受け身で授業を受けるのではなく、一つ一つの授業をいかに自分のものにするか、カスタマイズしていくかを考えて授業に参加していこうと思う。あとは、たくさんやる事がある中で、優先順位をつけていく事が大切であると感じた。どうしても学校で生活していると視野が狭くなりがちだが、世の中をみて、広い視野でいろいろなことを考えていきたい。

所属学部学科 | 服装学部　ファッションクリエイション学科

履修の目的･目標

今回の研修において、企業を訪問し、服作りがどのように行われているのかなど、工場で実際に機械を見たり、企業で働いている方々にお話を積極的に聞くなどして、「企業として服を販売する」ということを体感したいと考えます。また、今まで学校で学んできた知識を活かしながら、実際に体感することにより、より深い理解に繋げていきたいと考えます。様々な学びをすることにより、知識を自分のものにし、自分にしか出せない色を見つけていきたいと考えます。

研修で最も印象にのこったことについて

今回の研修では、1つのものを作り上げるために必要なことを一通り体験させて頂きました。普段、服づくりを行う時には、布を買ってきてつくり始めますが、今回は布のデザインを考え、布を織るところからはじまり、製品の企画書をつくり、そこで意見交換も交えながら改良し、最後には製品のプレゼンテーションをするなど、学校とは全く異なり、企業に近い製作体験を行うことができました。企画書のプレゼンテーションでは中身を良いものにすることはもちろん、相手にどう魅力を最大限に伝えられるのかという点で苦戦するなど、普段とはまた違った経験ができました。この経験を通し、今後プレゼンテーションなどする場面に出会った時に、どう相手に訴えかけるのが効果的なのかを学べたので今後にとても活かせる素晴らしい体験をさせて頂きました。

研修を通して気づいたこと･学んだこと

1つ1つの物事に対し、興味を持って生活することが大切だということを1番感じました。1つの物事に対し、何も感じない人はスルーしてしまい、そこから何も得ることが出来ませんが、そこにも必ず得ることは潜んでいて、興味を持つことができる人はそこから何かを得ることが出来る。そうした体験の積み重ねにより、感じる人と感じない人とでは大きな差ができてしまう。アイデアは身の回りに溢れていて、それを感じ取れるかそうではないかが大きな差であるということに気付かされました。また、ファッションのヒントが全てファッションにあるとは限らず、街中のどこにでも溢れているので、少しでも時間をつくり、様々なところで様々なものに実際に触れ合うことが最も大切であると感じました。

今後の学生生活に生かしたいこと

主体的に学ぶことの大切さを学んだのでそこを生かしていきたいと思います。今までは受け身で授業を受け、知識をただ詰め込んでいくだけでしたが、今回の研修を通して、主体的に学ぶことにより意識が変わり、物事に関心を持って、自主的に学ぶ力が働くので、受け身よりも頭に残り、より深い学びに繋がるということを学んだので、積極的に取り組みたいと考えます。また、何事も資料を見るだけではなく実物に触れ合うことを大切にしていきたいです。

所属学部学科 | 服装学部　ファッションクリエイション学科

▶ 履修の目的･目標

私はテキスタイル企画コースに行こうと考えていて、元々素材や繊維にとても興味がありました。このＡＰはタイトルが「素材からの商品企画」だったので、私が知りたかった洋服になる前、いや生地になる前の工程から知ることができるのではないかと思い、このＡＰの履修を決めました。

大学での授業は生地や糸になった状態での実験や座学が多かったので、生地になる前・糸になる前の工程を知り、少しでも構造や手順を理解するというのを目標に学びました。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

銀座や浅草の店舗見学です。いつも特に気にせず入店していたので、どのような陳列方法・レイアウト・配色。品数なのかを気にかけてことはありませんでした。しかし高倉さんのお話しを聞いて店舗の見方が変わりました。売り方を考えれば、売り上げをとることが出来るし、何も考えずに陳列をすれば売り上げは下がる。いつもは洋服を作ることやデザインすることばかりに考えが行っていたので､そのような事を考えたことすらありませんでした｡またマツオインターナショナルさんの店舗は１店舗ごとにコンセプトがあり、店舗ごとの特色がよく出ていました。良い商品を作るだけでなく、どのように見せ、どのように売るのかを考えればその商品の価値を最大限に上げることが出来るんだなと思えたことがもっとも印象に残りました。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

洋服の表面的な部分（デザイン・シルエット）しか知らずにいたんだなと気付きました。マツオインターナショナル株式会社での研修を通し､洋服の裏側（上代･原価率･どういった思いが込められている商品なのか）を知ることが出来ました。今まで自分は洋服の表面的な部分しか知らずに、その服を評価していたんだなと思うと、デザインしたデザイナーさんなどその商品に熱い思いの込めている企業さん方にとても失礼だったなと思いました。今後は作り手の思いや売り手の思いを汲み取って商品を買っていきたいと思います。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

学校生活でも、就職してからもマツオインターナショナル株式会社で何度もプレゼンテーションをした経験を今後の生活に生かしていきたいと思います。今までプレゼンテーションをしたことがあまり無く、手探りの状態でした。しかしマツオインターナショナル株式会社は何度もプレゼンテーションの機会を設けてくださったので、研修が始まったころと比べると大分プレゼンテーション能力が上がったのではないかと思います。また他の人のプレゼンテーションを聞いて、お互いに指摘し合うことで自分では気づけない改善点を多く知れることがわかりました。私は自分の意見を述べることが大変苦手なのですが、自分が思った事を口にすることがより良い商品作りに繋がるのだと思いました。

所属学部学科 | 服装学部　服装造形学科

▶ 履修の目的･目標

このプログラムを履修した理由は、現在のアパレルの動きを知り、テキスタイル企画コースへ進む未来の自分の力にできるようにしたいと思ったからです。布地がどのように作られているのか、目で見て、体験して、工場がどのようなところか働いている方の声を直接聞きたいと思いました。また、今まで学んできた知識のさらに向う側を知りたいと思いました。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

研修で最も印象にのこったことは、新潟県見附市にある匠の夢で実際に布地が織られている所を見ることが出来た事です。今まで自分たちが服作りに使用していた布地はこのようにして出来ているかと心から感動しました。１つ１つ手作業で、職人の方の想いがたくさん込められていることを知れてよかったです。現場の声は、現場に行かないと聞くことができないので、たくさんの経験を活かしていきたいです。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

研修を通して気づいた事・学んだことは、産地が存続の危機的状況にあるということです。この状況について、もっとたくさんの人に産地の素晴らしさを知ってもらいたいし､見学者に「見せる」ための工夫をしている工場があることをもっと広めたいし、広まってほしいと思いました。その他に、プレゼンテーション方法や企画書の書き方を学びました。今まで企画書を書いたり、それについてプレゼンテーションしたことがなかったので、相手に企画の良い部分を伝え、今までにないインパクトを与えられる方法を学べたことは今後にとても役に立つと思います。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

デザイナーの安さんが仰っていた､「周りの色は宝」という言葉に影響を受けて、自分で持っている布地や糸をとっておくようになりました。布地や糸を大切に今後も続けていきたいと思います。研修を終えて、自分から積極的に知らないことを聞き、考えながら行動するように心がけたいと思います。未来の自分に大変役立つことを、マツオインターナショナル株式会社の高倉さんから教わりました。また、より良いプレゼンテーション方法が出来るようになることは、今後の自分の一番の課題になっていくと思います。胸を張って、自信を持ってできる様に視野を広げていきたいと思います。

〈梅春〉染めによる着物デザイン 新潟

着物の総合加工技術を学ぶ

授業概要

着物の総合生産地である新潟県十日町市にある株式会社きものブレイン社で着物の構造、染色、仕立て方やプレタ着物製造のプロセス、着物のアフターケアの理解と体験を通して日本の着物産業について体験を交えた企業研修を4週間にわたり行う。

到達目標

・着物の歴史について理解し、基礎知識を身に付ける。また、現在の着物産業について調べることで自ら問題点に気づき、ディスカッションや特別講義を通して解決策について考えることができる。
・着物の総合生産地である十日町市で伝統文化や着物に触れることで、ものづくりに対する思いを感じることができる。
・伝統的な着物の染めの技術や現代的なアフターケア技術を実際に体験し、日本の伝統文化をより深く理解することで世界に向けて発信できる力を養う。

期間／スケジュール

事前教育期間	2/2(木) ～16(金)	■ 研修シラバス配布・会社紹介・研修内容概説 ■ 特別講義・ディスカッション・着物についての基礎研修
企業研修期間	2/19(月) ～3/2(金)	■ 株式会社　きものブレイン　企業研修 ■ 株式会社　青柳明石社　企業研修
事後教育期間	3/5(月) ～9(金)	■ 研修内容のディスカッション、プレゼンテーション準備 ■ プレゼンテーション、個人報告書まとめ・提出

成果と課題

この科目の履修者は、日本の伝統文化や着物について興味・関心を持っている学生が殆どだったため、プログラムをより深く掘り下げて研修を行うことが出来た。事前研修では市場調査を行い、着物産業の現状と問題点を見つけながら、国内外に着物文化を広める方法を真剣に模索していた。和装研究所で着物の歴史とTPOに応じた合わせ方について特別講義を受け、着物に関する基礎知識を振り返ることができた。きものブレインでは、着物の製造から流通にかけて一連の流れとアフターケアを体験し、明石工房では着物の染め技術を体験することで職人の伝統技術に対する思いを感じることができた。

今回は着物に関する幅広い知識を学ぶプログラムとなったが、伝統技術をもっと長い期間研修したいとの意見もあった。学生の期待にそえるようにきものブレイン社と調整を行う予定である。

所属学部学科 | 現代文化学部　国際ファッション文化学科

▶ 履修の目的･目標

家族の影響で和服に興味をもった。着物の事をまったく知らないため、まずは着物に関する基礎的な知識を勉強する。京都に次ぐ着物の総合産地である新潟県十日町に行くことができる絶好の機会なので多種類の着物、さまざまな模様の着物を見たり触れたりして堪能する。着物の作る工程や汚れなどを修正する工程を見学、体験して伝統技術を理解する。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

私が研修で最も印象に残ったことは、きものブレイン様で行ったアフターケアの工程である。アフターケアとは、しみ抜き、スレ直し、黄変（しみが長時間放置されて変色してしまったもの）抜き、色掛け、工芸修正をすることである。しみ抜きでは薬品をこすりつけてドライヤーで乾かすだけで一瞬で綺麗になり驚いた。黄変抜きは汚れ部分の色を一度抜いてから何色かを使って少しずつ色つけをしていく。しみ抜きも黄変抜きも見る限りは簡単そうだったが、薬品をつけた部分がくっきり浮き出てしまったり、多くの薬品を使うので順番がわからくなってしまったり全く簡単な作業ではなかった。一番難しかったのは工芸である。箔直しやしみ部分に柄を書き足したりする。美術の授業を受けているようで面白かったが、模様の形や色をまわりの模様に似せることがとても大変だった。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

事前教育で学んだ知識も多いが、研修先で毎日着物に囲まれ、触れたりしていくうちに着物についての基礎知識が自然と身についた。さらに着物のたたみ方の絵羽たたみと本たたみをスピーディーではないがマスターした。着物ブレイン様では商品を管理するためのデータを入力したり、アフターケアを体験し、着物の採寸・検品体験行った。青柳明石工房様では幾つかの染めを見学し、仕上げ現場、検品現場、手描き友禅、型友禅を体験した。職人さんが古くから継いできた伝統技法を間近で見て体験し、ひとつひとつに思いの込められたあたたかいものがここにあるなと感じた。普通ではできない多くの貴重な経験をして研修前よりも和服に興味を持つことが出来、とても楽しいいいものになった。新潟は雪の多い場所だけれど、職場ですれ違うたびに明るく声をかけてくれたり、お昼休憩の時にお菓子を差し入れしてくれたりと出遭った方は皆あたたかく迎えてくれてとても親切だった。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

洋風化が進展し、着物離れしているのが現状ではあるが、海外観光客が興味を持ってくれていたり、成人式で振袖を着る日本人女性も多々いると思う。もし、もう少し着物の着用シーンを増やして欲しいと願うのならば、現代人が好むようなデザインや形を考えた方がよいと思う。面白いデザインでみんなが驚くようなところに、和要素を取り入れることも可能であると考える。このようなことを想像しながら研修で学んだ技術や仕組みを参考に、今後作品作りをして行きたいと思う。これからも着物の伝統技法を学び、洋服へ応用して行きたいと思うですし、さらに伝統技術を理解したことで薄れていると言われている日本の伝統文化を大切にしたい。また、国内外に着物文化を広めて行きたいという気持ちが強まったと考える。

所属学部学科 | 現代文化学部　国際ファッション文化学科

▶ 履修の目的･目標

このプログラムを履修したのは、着物について学校では詳しく学べる機会が少ないからです。お祭りでよくみる浴衣と着物の本当の違いを詳しく知りたいと思ったのもきっかけの一つです。そこで今回は着物の基礎知識から勉強し実際に現場に行き、職人さんがどのような技術を使い着物制作を施しているのかを学ぶことを目標としました。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

今回行った新潟県十日町市は京都に継ぐ、友禅染の産地で、研修は９日間で二つの会社で行いました。その研修を通して最も印象に残っていることは、明石工房で学んだ染色技術です。この工場は昔ながらの染め方で桶染めという、桶を使って染めたり、型友禅と言って型を使い染料を吹きながら描いていたりしました。初めて着物を染めるところをみたのでものすごく感激しました。伝統文化をとても感じられる現場を見に行けてよかったです。また、型染めに使われる染料は社内で調合して作られていて粉末状のものを熱し色を微妙に変えて色を新たに作っていました。それをみたときはとても驚きました。伝統技術の歴史を改めて実感することができました。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

「染めによる着物デザイン」の梅春研修に行ってよかったと思います。社員の方から着物について勉強する日を設けて頂いたり、また実際に工芸や染めの体験をさせて頂いたりと、とても貴重な体験をすることができました。特にきものブレインは社員が１００名以上いる為、さすがにすべての社員さんの名前や顔を覚えることはできませんでしたが、体験に行かせて頂いた各部署の方々は親切に親身に接して下さったおかげでいい意味で気持ちを楽にして研修することが出来て良かったです。また、2日間休暇があったので１日はスノボに、もう１日は十日町市内を散策したり、道の駅でお土産を買ったり楽しい休日を過ごしました。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

参加して気づいたことは、伝統文化の衰退です。桶染めを例に挙げると技術をついでくれる人がいない上に、桶染め用の桶を作れる業者も数少なくなっていることです。そのような事を少しでも減らしていくためには、若い人の意識を伝統文化に向けることだと思います。昔は、親にされるがまま従うのが教育の主流であったが、今は自分のやりたいようにしなさいという教育を受けていることが多いと思います。従って、若い人の興味や関心が自分の好きな方向にしか向かないのだと思います。若い人に着物の良さをアピールするなど、もっと触れ合う機会を設けたら、興味や関心を持ってくれると思いました。その可能性を信じて伝統文化につながるきっかけを作っていくことが大事だと思います。これからあと３年間の学生生活が残っていますが、現代ファッションだけにとらわれずに、伝統技術を取り入れた、いろいろな観点から勉強をして行きたいと思います。

所属学部学科 | 服装学部　ファッションクリエイション学科

▶ 履修の目的･目標

この研修を履修したきっかけは、母が着物に興味を持ったことです。一緒に呉服屋さんに行っているうちに、私も徐々に興味が出てきて着物について詳しく知りたいと思いました。今回の研修を通して、着物のデザイン、素材、流通に関する知識を深め、様々な着物を見ることで、洋服と和服の素材やデザインの違いを学び、和服と洋服の融合を目的とした作品製作に活かし、新しいものを作ってみたいと思い、研修に臨みました。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

今回の研修では、様々な技術を間近で見ることができました。その中で印象に残っているのは、型友禅です。型友禅は、明石工房の板場で見学し、体験させていただきました。型を使って布に染料をのせていく作業は、染料を均等に伸ばすのが難しくてなかなかスムーズにいきませんでした。しかし職人さんに丁寧に教えていただき、何とかきれいに柄をつけることができました。その後、フィルムとデザインカッターを使って、柄の色を付けたいところを切り抜き、ピーズガンを使って着色をする作業もさせていただきました。ムラにならないように染料を吹きかけたり、グラデーションにしたりするのはとても難しかったです。また、作業を間近で見て疑問に思ったことをその場で職人さんに聞いたり、着物に対する私の思いを職人さんに聞いていただいたりと、実際に現場に行くことでしかできない貴重な体験をすることができました。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

着物に関する技術は､様々な工夫をされながら受け継がれてきたものです。しかし､きものブレインで「着物を売る人が、着物に関する知識が薄いために間違った説明をすることもある｡」と言われ、着物が間違った解釈をされ、着たいと思う人が少なくなっているのではないかと感じました。また、私自身も着物について誤解していることが多く、着物を作っている現場を知ることで着物の奥深さや歴史の深さに改めて気づくことができました。また明石工房では、伝統を受け継ぐということについて改めて考えることができました。近年、技術者が少なくなっているという話を聞き、継承していくということの難しさと、今受け継がれている技術を大切にし、未来に残していく重要性を学びました。さらに、昔の技術を復活させたり、今まであまりなかったものとして、着物に立体的な刺繍を施したりと様々な工夫があり、着物製造の現場に温故知新の精神があることに気づきました。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

私は３年生でアドバンストテクニックコースに進みます。今回の研修を通して、着物のほとんどはオーダーメイドで、一つ一つ人の手で縫われているために、値段が高いのだと知りました。それにより、着物は日本で昔から受け継いできたオートクチュールなのではないかと思ったことで、自分の進むコースとの繋がりを感じて感動しました。着物の技法を今すぐ洋服に応用する技術は今の私にはありませんが、一つ一つの作品を丁寧に手間をかけて作ることはできます。そのために、素材やデザインにこだわりを持ち自分の納得のいく作品を情熱をもって制作していきたいと思います。また、今回様々なことを学んだことで、着物の技術やデザインについてもっと知識を深めていきたいと思い、着物の素晴らしさを世界に伝えたいという気持ちがより高まりました。これからも視野を広げて、様々な分野で知識を増やすことで、デザイン発想の引き出しを増やしていきたいです。

所属学部学科 | 現代文化学部　国際ファッション文化学科

▶ 履修の目的･目標

私はこれまで着物に触れる機会が多かったわりに着物の技法や流通などの様々なことを知らないなとおもい、このプログラムを履修しました。このプログラムでは着物の染めなどの技法をどのくらい知ることができるのかを楽しみに、私の将来の夢である舞台衣装という点にどのように生かすことができるのかを考えながら研修に挑むことにしました。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

私は今回の研修を通し、様々なことを見学、体験させていただいた中で青柳さんの明石工房で行っていた染の作業が印象に残っています。

桶染めや絞り染め、型染など様々な染色技法を用いて一反の反物を染めていく技術を見せていただいた時には本当に感動しました。

今まで何気なく見てきた着物の柄はこんなに手間暇かけて一つ一つ職人さんの手作業だったのだと思うと着物が高い意味も納得がいったし、むしろもう少し値段が高くても、おかしくないのではと思ったほどです。
さらに実際に絞り染めや型染などの体験をさせていただき、染の難しさを目の当たりにすると職人さんの凄さが身に沁みました。

そしてたくさんの着物を実際に見せていただくことができたのですが、その際に見た着物の配色もとても個性的で素敵でした。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

研修では実際に作業をすることが多かったのですが、ブレインさんも青柳さんも共通して、お客様を第一に考えていらっしゃいました。結構な頻度で「お客様」という言葉を耳にしたので、商品が届く方のことを考えて作業をすることは大切なことだと気が付きました。

今回はお客様という実際には見えない方が対象でしたが、私が制作する際には対象が自分だったり、知っている人であることが多いためその際にもきちんと相手のことを思い、丁寧に製作することが大切なのだと学びました。他にも一人ではすべての作業を行えないので周りの人との協力が必要ということにも気が付きました。作業により部署が分かれているのはもちろんですが、同じ部署内でも遅れている人を手伝ったり、声を掛け合ったり、情報交換をすることで部署内の協調性を作っていらっしゃったので、今は一人の作業が多くても今後のために知っておくことは大切だなと思いました。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

私はこれからの学生生活において、研修を通しさらに深まった「染め」について自ら布を染めてみたり、いろいろな染色技法を使い自分の好きな布、色を出せるように頑張っていきたいと思いました。

また、技術以外にも人と協力して作業をすることの大切さ、助け合いが必要不可欠であることを職場の雰囲気から身に付けることができたので、今後共同制作などの場面では、しっかりと生かせるようにしたいです。

そして今回の研修後、呉服店をのぞいてみると、そのお店に実際に研修で蒸気アイロンをかけさせていただいたものと同じ反物があり、とても嬉しくなりました。自分が工房で目にしていたものが、実際に店頭に陳列されているのを見ると、とても新鮮でまた違った感動を得ることができました。

これからの大学生活で制作するものも完成後に、このくらいの達成感、喜びを感じられるものを製作していきたいです。

〈梅春〉オーダーファッション

東京
岩手

個対応の服づくり、店頭と工場

授業概要

一般的に服を購入する場合、シーズンに先駆けて製造された既製服が対象になる。それ以外に、自分の体型に合わせて、好みの生地で服を注文することが出来るオーダーファッションも紳士服を中心に根強い人気を得ている。本講座では、オーダーを受ける店舗とそれを製造する工場で研修することによりメンズオーダーファッションの一連の製作過程を理解する。研修先は、東京・新宿の株式会社福岡が経営するZERBINO新宿店と岩手・二戸にあるオーダー専門の日本ソーイング株式会社である。

到達目標

（1）店頭においてデザイン、サイズ、生地が決定されるまでの顧客対応の過程を理解することができる。
（2）店頭から工場へ送る縫製仕様書の作成方法を理解することができる。
（3）顧客のオーダーに基づき一枚ずつ製作される工場での生産過程を理解することができる。
（4）日本の服づくりの技術力を認識することができる。
（5）自分自身のキャリアデザインを考慮し目的意識をもって参加することができる。
（6）ＡＰプログラムでの経験を通じて、今後の大学での学びへの応用や卒業後のキャリアについて考えることができる。

期間／スケジュール

2/7(水)	事前説明会
2/13(火) ～16(金)	研修（東京):ZERBINO新宿店
2/19(月) ～23(金)	研修（岩手):日本ソーイング株式会社岩手工場、最終日／近隣工場見学
2/27(火) ～3/2(金)	研修（東京):学外研修のふりかえり、市場調査、調査報告作成
3/5(月) ～7(水)	事後教育:研修報告書作成、発表準備
3/8(木)	研修内容発表、報告書提出

成果と課題

・スーツの歴史や生地の知識を習得し、オーダーファッションにおける顧客対応の過程を理解することが出来た。
・店頭から工場へ送る縫製仕様書の作成方法を理解することが出来た。
・１人１着オーダージャケットを縫製したことでオーダーファッションの製造プロセスを体験しながら学ぶことが出来た。
・日本ソーイング株式会社での研修、また岩手県二戸地域縫製工場を見学したことで、日本の工場が持つ縫製技術の高さやそれぞれの特色を理解することが出来た。
・今後は、研修先とのより細かな連携強化を進めるとともに、教育内容の充実を図っていきたい。

所属学部学科 | 服装学部　ファッションクリエイション学科

▶ 履修の目的･目標

店舗でオーダーを取ってから工場で縫製、顧客の手に届くまでの日本のアパレルの流れが知りたかった。加えて、店舗、工場がどのような流れ、雰囲気でものづくりをしているのか実際に行かないと分からないことがあるのではないかと思い履修した。実際に行って研修を受けられることはとても貴重な経験になると思ったのでたくさん学ぼうと研修先で質問することを心掛けた。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

店舗での研修では接客の丁寧さと工場の違いに対応している事が印象に残った。工場での研修は技術力の高さ､オーダー品だからこその対応、工夫が印象的だった。店舗、工場それぞれが高いプロ意識をもってものづくりをされていた。だから品質の良いものができているのだと思った。市場調査では各店舗、会社の特徴や地域に合わせて店舗の雰囲気を変えていた事が印象に残った。また、オーダースーツの店舗と量販店の店舗では規模の大きさや、売り方などが全く異なり雰囲気も違っていた。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

店舗では1つ1つ綺麗にたたまれた布地がたくさん棚に並べられ、お店の方はスーツについての知識をたくさん持っていた。工場では完成したものが型崩れしないように全てハンガーにかけられてトラックで店舗まで送られていた。店舗、工場どちらの作業もとても丁寧で高いプロ意識をもって行われていた。これが品質の高さにつながるのではないかと学んだ。今回の研修先の工場はオーダー専門なので、1つ1つパターンやデザインが異なり、１枚ずつ裁断したり1回1回糸を交換したりしなければならない。１つ１つに対応していかなくてはならない大変さを知った。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

今回、店舗、工場、市場調査、実際に自分で行って研修することができたので流れや雰囲気を直接感じることができた。日本の品質の高さも実感することができた。今回はオーダースーツの工場だったが量販店のスーツの工場についても調べてみたいと思った。今回の研修は実際に行くことができたのでとても良い経験をすることができた。今回学んだものは３，４年生の授業や就職したときに必ず生かせると思う。今回の経験を大事にしていきたい。

所属学部学科 | 現代文化学部　国際ファッション文化学科

▶ 履修の目的･目標

スーツのオーダー店の役割、そして工場での一通りの作られる過程、工場とオーダー店を上手く結ぶための工夫を知り、実際に行き従業員や工場長の声を聞くことが目的です。また、スーツに関わる知識、歴史、名称などに詳しくなり、今後の大学生活で生かしたいと思っています。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

この研修を通してスーツ販売の接客の仕事を始め、縫製仕様書など、工場で作られる過程について実際に足を運び、学んできました。その中でも私が一番印象に残ったことはスーツのオーダー店の従業員の柔軟性のある対応力です。品質と店舗の雰囲気が良ければ接客が多少悪くても問題ない既製品に対し、ものがない以上お客様との信頼関係が築けなければオーダー商品は、買ってもらえません。そのため、スーツの歴史からスタイル、名称なども覚えた状態から顧客に合ったサイズ、おすすめの生地、小物など顧客の希望に応じて対応する姿がとても印象に残りました。また、市場調査で色々な店舗に見学に行ったとき、その店舗、独自の接客の仕方していることが分かりました。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

色々の工場を周り、複数の工場がそれぞれ強みにしていることが違うこと、これから先の将来を見つめ効率化を図っていることが分かりました。立ってミシンをかけていたり、座っていたりその工場の動きにあった作業場の配置をしていたり一つ一つの工夫の積み重ねこそが効率化に繋がっていることを知りました。また雰囲気も設置してある機械も異なり見学していて印象に残りました。又この環境を維持するにも後継者や従業員が必要だけれど一人の工場長のお話によれば人を増やすのではなく、少人数で分担を大まかに分けてしていきたいと思っているらしく、それも工夫の一つだと思いました。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

私はこの研修を通して、生かしたいことが二つあります。一つ目は今後の授業についてです。私はスーツのことはあまり知らなかったのですが工場で作る過程を見たので、スーツの形、扱う生地、縫い方を学び、二年生の授業で作るジャケットに反映出来るように頑張ろうと思います。又、工場と大学ではスピードも作り方も異なっていると思うので授業で作業もしつつ比較をして、違いを学ぼうと思いました。二つ目は将来に関することで、私はアパレルやスタイリストの方に進みたいと思っているので接客の仕方やスーツの知識を生かしスーツの良さを伝えていきたいと思いました。

所属学部学科 | 現代文化学部　国際ファッション文化学科

▶ 履修の目的･目標

オーダーメイドのスーツがどのような流れで作られているかを学ぶ。工場での服作りの技術を勉強する。様々な工場の違いを見つけ様々な服の作り方を知る。現場で働いている方の意見を聞き服作りに生かす。個々の作りたいスーツに近づけるための接客の方法を学ぶ。スーツに対する知識の幅を広げる。自分のやりたいこと、やれることのあらゆる可能性を探し将来の自分に役立てる。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

私がこの研修で最も印象に残ったことは、教えてくださった方々の仕事に対するこだわり、プロ意識の高さです。初めに見学したZERBINOでも、様々な知識を持ちその知識でお客さんに満足のいく買い物をしてもらおうと様々な事を考えながら仕事をしていました。オーダーメイドならではのこだわりポイントがあるのだと思いました。また、日本ソーイングでも一つ一つの作業を丁寧かつ速く仕事をしていました。ですが速く仕事をしているにも関わらず出来上がった洋服はとても綺麗でした。どうしたら効率よく仕事が出来るのかを考えていました。仕事をするにあたってこだわりを持つ事が大切だと思いました。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

まず始めに、お客さんの作りたいスーツを形にする大変さです。衿だけでも様々な種類があり見え方が異なります。また、産地の違いによっても同じ紺でも雰囲気が違って見えます。その違いを理解した上でお客さんに薦めなければなりません。出来上がってみて違うということがないようにお客さんと相談して作りたいスーツを作るのは大変そうでした。次に、自分の仕事に責任感を持っている事です。高額の商品を取り扱っている為ミスがないように責任感を持ち満足のいくスーツを提供したいと行っていました。また工場では分担して作業をしているので一人がミスしてしまうと何工程も戻ってやり直しになる可能性があります。なので一人一人が責任を持って行っていると言っていました。最後に、同じスーツの店でも場所により雰囲気が異なると言うことです。ZERBINOは、高級な感じで柄物のスーツや小物が多い印象で、テーラーフクオカは紺など単色で硬派なイメージがありました。洋服の青山やsuitscompanyは入りやすい雰囲気があり、よく使う小物などは手の取りやすい場所に置かれていました。各店舗工夫をしてお店の雰囲気を作っていました。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

今後の学生生活で生かしたいことの１つ目に、自分の技術力の向上です。工場に行ってみて自分の実力のなさを実感しました。なのでまずは、基礎的なものから作り始め技術の向上を図りたいと思います。２つ目に、店舗研修を行った時に教えてもらったオーダーならではのデザインの服を作れるようになりたいと思いました。最後に、疑問に持つ事を大切にしたいと思いました。「なぜこうやるんだろう」「どうしてこうなったんだろう」などと疑問を持ち質問することにより疑問を持ったことをより深く知り様々な考えを聞くことが出来ました。そして、そこから次の段階につなげることが出来ました。なのでこれからも、わからないことは積極的に質問し、わかったことをさらに自分なりに理解を深めていき残り３年間学んでいきたいです。

〈梅春〉カットソーの製造現場

東京
山形

カットソーの先端技術を学ぶ

授業概要

本学では、扱うことが少ないカットソー（Tシャツ、パーカ等）であるが商品企画においては不可欠のアイテムである。このカットソーの企画から製造までのプロセスを理解するため企画および製造の現場に入って研修を実施する。研修先は、カットソー製造企業の株式会社ナカノアパレルで、東京小伝馬町の東京事務所で企画の概要や素材、製品に関しての講習と山形工場での製造に関する実技研修を行う。

到達目標

本講座では、世界的に高い評価を得ている日本の製造業の現場で研修することにより、グローバルに通用する創造力とは何かを認識してほしい。具体的には、カットソーの製造現場で織物（布帛素材）とは違う、編物（ジャージ素材）の特性を理解し、布帛とは違う縫製機器や専用アタッチメントなど実際に体験することでカットソーアイテムのデザイン提案力を身につける。

期間／スケジュール

1．（株）ナカノアパレル山形工場研修：2月18日（日）～24日（土）
　工場の各工程を体験することでものづくりの基礎を学ぶ（研修スケジュール参照）
2．カットソーの調査・分析とレポート作成（東京）
　（ア）市場調査とワードローブ分析：2月26日（月）～28日（水）
　（イ）レポート作成：3月2日（金）
3．（株）ナカノアパレル東京本社研修：3月5日（月）～8日（木）
　現場で学ぶＯＥＭ企画（ＯＥＭ：Original Equipment Manufacturer 納品先ブランドの受託生産）

成果と課題

【教育の成果】

実際の現場に入り、製品の製造工程を目の当たりにし、生産機器、製造ラインの編成、時間管理、品質管理等日本の服作りの技術力を認識することができた。しかも、1年、2年という早い時期に実施できたことは専門課程に入って大きな意味を持つものと考える。

（以下、参考）

・現場を経験し、服づくりのリアリティを実感することができた。
・デザインするということが、実際の製造ラインおよびそこの設備に依存していることが理解できた。
・お客様が着用する製品ということで、現場での「針」の扱いが大変厳しいということに驚いた。
・漫然と作業をこなすのではなく、次々新しい仕様が登場しそれをいかに効率よく製造するか常に技術的な工夫があることが解った。
・現実に稼働している様々な機器に触れ、あらためて服づくりの面白さに目覚めた。
・秒単位で管理している工程に驚いた。
・欧米のハイブランドが、日本の山形で製造されていることの驚きや、同年齢のベトナムの研修生との交流を通じてファッションのグローバル化を認識できた。

【プログラムの課題】

学外での長期にわたるインターンシップは、今回が初めてということで、大学と受け入れ企業双方に戸惑いが生じた。受け入れ企業では、本プログラムの趣旨を尊重していただき、学生のために担当者をつけ個々に指導していただいた。長期のインターンシップの場合は、現場の作業、業務を邪魔することなく、受け入れ側の負担をなくす工夫が必要である。また、受け入れ企業にもメリットがないと長続きしないのではないだろうか。検討が必要である。

ところで、学生の滞在に、受け入れ企業の宿泊施設を利用させてもらったのだが、研修終了後部屋の清掃・片づけをしていなかったり、ゴミもそのままということが発覚し先方から指摘を受けた。事前研修で注意喚起したい。

所属学部学科 | 服装学部　ファッションクリエイション学科

履修の目的･目標

この研修に参加した理由は、人前で話をしたり、人との関わりが苦手だったりするところを少しずつ克服することが一つ目の大きな理由である。山形と東京のまったく知らないところで知らない人たちと関わり一緒に作業していくことで、これから先就職をして社会で仕事をしていく中で必要なコミュニケーション能力を身につけ成長すること。二つ目の理由は、３年次になるうえで少しでも多くの技術や生地の性質を身につけるためである。カットソーに使用されている生地は学校では使わないものばかりで知らないことのほうが多い。研修に参加して新しい発見をし､これからの授業に役立てたい。

研修で最も印象にのこったことについて

初めの一週間は山形にあるナカノアパレルの工場で見学をし、実際に作業の手伝いをさせてもらった。大体の工場の流れは想像していたが、実際に見学し話を聞くと細かいスケジュールが組まれていたり、ひとりひとりの作業時間を秒単位で計っていたりとすごく細かい世界なのだと思った。デザイナーさんと工場との間で何度も話し合いをし、決定して生産にはいったり、作業工賃の交渉だったり、一着仕上がるのに多くの人の手が加わっていることなど知らなかったこと驚いたことがたくさんあった。

東京研修では、工場以上にはじめて知ること体験することばかりであった。特に営業の仕事は、どんなことをしているのか想像していなかったのでたいへん勉強になった。

研修を通して気づいたこと･学んだこと

この研修に参加したひとつの理由である、人とのコミュニケーション能力を身につけること。まったく知らない場所で知らない人たちと一緒に研修することで少しずつ克服することができた。東京研修最終日に行ったプレゼンテーションでは、自分の伝えたいことをまとめきちんと提案することができた。いつか必ず役に立つことなのでいい機会になった。

準備期間やナカノアパレル以外での研修を含め約１ヶ月。この研修に参加しなければ知り合えなかった人たちと知り合うことができ、自分自身成長することができたと思える研修であった。自分がこの先デザインを提案したりする側になったとき、工場の人たちの協力は必要不可欠である。その工場に見学に行き実際に作業し工場側の大変さを知ることができたことで、よりよい関係を気づくことができいい商品を作ることができるのではないかと思った。

将来の就職先をきちんと決めてはいないが、この研修で身につけたことは無駄にはならないことなので３年次の授業でも生かしていきたい。

今後の学生生活に生かしたいこと

今回の研修に参加することができて自分自身大きく成長することができました。また多くのひとと関わり合えたことで今まで知らなかったことや、新たな発見があった。モリリンさんの講習会で聞けたことや小野メリヤスさんの展示会で見てきたことは、私が３年次で勉強したいことに近いもので、どれもこの研修に参加しなければ経験できないような貴重な体験であった。３年次では機能性や着心地の勉強をしたいと思っているので、これから先の勉強に役だてていきたい。

私たちがこの研修で学んだことはカットソーや素材など服飾にことだけではない。人としての社会のマナーや人との関わりなどこの先必ず必要になる当たり前のことも同時に学ぶことができた。このことも忘れずに生かしていきたい。

忙しい中､私たちが見学･体験する機会を設けてくださったナカノアパレルさんに感謝します。ありがとうございました。

所属学部学科 | 服装学部　ファッションクリエイション学科

▶ 履修の目的･目標

私がこのプログラムを履修した理由は、将来的に自分の為になるようなことを多く学びたいと思い、知り合いのアパレル企業で働いているデザイナーの方に相談したところ､このプログラムを勧められたからです｡企業で働いたら必ずと言っていいほどカットソーを取り扱いますが、学校の授業では取り扱うことがなかったので、これを機にカットソーという生地は現場ではどのように扱われて、商品になっていくのかを学びたいです。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

私がこの研修で最も印象に残ったことは､「時間との勝負」というのを目の当たりにしたことです。ナカノアパレルの山形工場では、まず本社から届いた仕様書を見て、高いクオリティのまま、どのくらい早く作れるかをパターンやミシンの配置、縫製工程を見直し、１つ１つの作業工程を秒単位で計算していました。期日までに間に合わせること、１人ひとりの１日の売り上げ目標を達成することも含めて秒単位で計算することには、とても驚きました。私たち学生が学校課題で期日に追われることがあっても、毎日やることを決めて進めていく人が多いと思いますが、やることを秒単位で計算していく人はいないと思います。また、期日が迫ってきたり、何か問題が起きたときには全体の空気がピリピリし、緊張感が漂いました。この緊張感は実際に研修に来てみないと分からないものだと思います。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

研修で学んだことはたくさんあります。山形工場では、検反機や延反機、１枚裁断機、自動機など機会の扱い方、仕分けやタグ付け、検品のやり方などを学びました。東京本社では、アパレル業界の流れについてや、カットソー特有の検寸方法､カットソーという生地について､ＣＡＤの使い方､企画書の書き方などを学びました。でも､１番学んだことは､日々成長しようと努力し、成長できているということです。

山形工場では、良いと思ったものは取り入れ、新しいステッチを作りたいと思ったらミシンメーカーと協力し新しいアタッチメント開発をし、実際にそれを現場で使っていました。４ｍｍバインダーやヴィトンロックなどが、その例です。東京本社では、実際に生地屋の方を呼んで講習会を開き、みんなでカットソーについて勉強していました。1人ひとりがそうやって成長しようと努力をすることで、技術が衰えることなく日々成長できているんだなと学びました。

所属学部学科 | 服装学部　ファッションクリエイション学科

履修の目的･目標

将来はファッションブランドに携わる仕事に就きたいと考えているため、ものづくりの基点として、販売に至るまでの流れに工場は欠かせないものであり、普段来ている服はどう作られているのか、どう関わっているのかを深く理解する。普段何気なく着ているカットソーを作るうえで、日々どう技術が進化し、工夫がされているのか、普段使うことのできない様々な機械に触れ、使い方や最新技術を学び、これからの作品のデザインや縫製などに活用する。

研修で最も印象にのこったことについて

まず、抑え金がコレクションのように並べてある棚がとても印象に残っています。家にある抑え金約10個のどれが何の役目をするか把握するのも大変で、工場の縫製技術の桁違いな幅広さを改めて目の当たりにしました。そして、ミシン専門の人がいることにも驚きました。ミシンに不具合があれば、すぐに駆け付け、すぐに直してくれます。当たり前ですが、普段針に糸を通すのに苦戦したり、不具合をその都度自分で直しながら製作をしているため、その分の時間が短縮され、かなり時間の効率に欠かせない存在だと感じました。最後に、ベトナム人による縫製スピードです。直線縫いとはいえど、途中止めることなくハイスピードで縫っていきます。さらに､混入の恐れがあるためまち針は使用されていません。なのに、検品したときに、縫製による不良はあまりなく、とても感心してしまいました。

研修を通して気づいたこと･学んだこと

ただ流れで作業をし、仕事をこなすのでなく、各作業工程にかかる時間を秒単位であらかじめ計算し、目安・目標を明確に日々取り組んでいることがわかった。さらに、技術も新しいデザイナーとの関わりや工夫で進化し、どうすればもっと効率が上がるか、仕上げを綺麗にできるかを研究していることやハイブランドさんを取り扱った際に、良いと思った技術をまねし、取り入れたり、すべては需要と供給、新しく良いものは取り入れ、まだないものは常に研究による追及が工場や縫製の進化に実を結ぶことが分かった。さらに、当たり前のことではあるが、針の取り扱いがとても厳重であることもわかった。折れれば、探知器で破片が見つかるまでくまなく探し、見つかれば写真をとって書類にまとめる。その一つ一つの事が大きな事態を防ぎ、信用につながることがよく分かった。私も今を無駄に生きず、針を大切に、日々私なりのものづくりをもっと追及し、技術をあげていきたい。

今後の学生生活に生かしたいこと

まず、各作業工程に時間を決めて、テキパキと縫えるようにしたい。遅いけど丁寧は誰でもできる事であり、今のうちから時間を決めることで、だんだんと早く正確に縫える練習をし、毎週の造形をきちんと余裕もってこなしたい。次に、デザインや仕様書、工程表など人とのかかわりに欠かせないデータをもっと授業から丁寧に、しっかり他人が理解できることを踏まえて、書こうと思う。実際に東京と山形のやりとりで、デザイナー側の意見と工場側の意見の食い違いなどで、時間を取られるというケースがたびたびあるそうで、将来の夢がデザイナーということもあり、人に伝えられ伝わる、さらに依頼される側の事も考えて作成に今後力を入れたい。最後に、今回この機会を無駄にしまいと、自分から積極的にかかわり、機械や仕事に触れることができ、短い間ながら、多くの知識を得る事が出来たので、このハングリー精神をこれからの学校生活にも忘れずにも持ち続けたい。

所属学部学科 | 服装学部　ファッションクリエイション学科

▶ 履修の目的･目標

自分の知っているカットソーは果たしてどこまで理解しているのだろうか。どこまでカットソーにはデザイン的可能性があるのだろうか。カットソーでしかできない「カットソーにしか…」とは何か。この疑問を追求し理解することが今回の目的。カットソーの工場では何が行われているのか。開発のアイデアの根源はどこから来ているのかなどが、この研修では見えてくると考えられる。それを気づき、理解して自分のものにすることが目標。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

ここの職場は常に時間との戦いをしていて、なおかつ仕上がりを綺麗に、均等にしなくてはならない。山形は海外の人も多く中国にも会社がある。中国ではできなくて山形ならできる技術が多くそれを生かすためにも色々なものと戦い作業をしていることに驚かされた。そして､山形の工場にはたくさんの機材､部品があり見たことのない画期的なものがあった。中でも工場が独自に開発したものも置いてあり､何よりミシンが大きく早い。その分タイムロスが少なく効率が良い。ロックミシンの糸調子を変えてできた縫製方法もいくつかあったのでそれに似たことは自分でも試行錯誤したらできたりもするのかなと思った。新しいものをという気持ちが強く、それが製品に生かされていて魅力的な職場だなと感じた。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

研修で最も学んだことは知識を豊富にすることだと思う。これは相手のデザインを組み取ってあげる時に大切で、この素材ならできる、この縫製ならこんなことができるなどたくさんの提案ができてくる。そして、自分がデザイナーの立場だとして、こんなことがしたいなどの提案が多くできればできるほど、最終的なデザインは自分の思い描いたものへとなると思った。お互いいがたくさんの知識があることで話がスムーズに進み完成も早い。実際に営業でご一緒させてもらった時に感じた。こういったものは現場でないと感じられないものだからすごく貴重だった。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

まずは今まで以上に知識を増やすことだと思う。実際会社の方の話を聞いてて､『あれこれは学校でやったな』とか『学校でやったけどうろ覚えだな』とかまだまだ足りないことがたくさんあった。そして､経験をもっとするべきだと思った。現場の方々は一日中ずっと同じことをしているが学生は新しいことを学んでいるため経験が少ない。なので､自主的にもっと経験を積む必要があると感じた。衣装に行くにしろ､経験は大事で､時間にも追われる。期日までに終わらせられるスピードとクオリティーを学生の時から身につけておくことは必ず将来役に立つと思う。なので今回の研修というのはそれを三年生に入る前に気づけてよかった。気づくだけじゃなくて実行にうつしていこうと思う。三年生からはアドに進むため１、２年生の時よりももっとシビアになってくると思う。そのためにもこの残りの春休みから動き出していきたい。そして自分の将来につないでいきたいと思う。

〈梅春〉ハイブランドの製造現場 千葉

高級フォーマルウェアの仕立て技術を学ぶ

授業概要

首都圏の大型縫製工場であり関東屈指の設備をほこる、千葉県のソーイングアサヒ株式会社にて、ハイブランド製品の製造現場を体験する。世界的なブランドが認めるこだわりの技術で高級婦人服（プレタポルテ）のフォーマルウェアや重衣料を中心に製造する縫製工場で、ハイブランド製品の量産プロセスや工業用縫製機器による作業を体験し、量産の工程や各種機器の用途の理解と、技術の習得に取り組む。

到達目標

事前教育により、一般的な既製服の生産工程についての理解を深めてから、現地研修として2週間にわたりソーイングアサヒ株式会社にて以下のことを目標に研修を行う。

・既製服の製造の工程（メーカーから発注→日程計画→原反搬入→スポンジングマシン→裁断・芯貼り→部品工程・組立て工程→まとめ→仕上げプレス機、検針機→出荷）を理解する。
・工業機器（スポンジングマシーン、CAD、CAM、縫製機器、プレス機等）の用途を理解する。
・高度な品質レベルをクリアする縫製技術を理解する。
・企業での円滑なコミュニケーション力を身に付ける。

期間／スケジュール

第1週：事前教育	西田拓志氏（株式会社衣屋・シェアアトリエcoromoza代表）による講義
	宮本英治先生を講師に文化・ファッションテキスタイル研究所の見学・講義
	衣服の量産の工程についてと研修先の企業について調査し、レポートにまとめる
第2週：現地研修	企業の内容説明と見学、各部署、各機器の使用体験
第3週：現地研修	各部署、各機器の使用体験、仕上げ作業の体験
第4週：事後教育	研修記録（ワークシート）による企業研修のふりかえり
	研修活動報告のためのパワーポイントによる発表資料作成
	事前教育を受けての課題解決
	事後報告会（プレゼンテーション）

成果と課題

・普段の大学での衣服製作とは異なる、量産プロセスを工業用の縫製機器による縫製を体験しながら学ぶことができた。
・工業用の様々な機器を用いてスカートを製作させてもらったことで、工業機器の用途の理解し、縫製技術を向上させることができた。
・高い品質基準をクリアするための職人たちの技術力向上への取組みや、工程や機器の工夫、品質チェックなどを実際に目にすることで、商品としてのモノ作りの厳しさを学ぶことができた。
・目的意識をもって参加することで、今後の大学での学びや卒業後のキャリアについて考えることができた。
・研修先の最寄り駅に宿泊先が無く、近郊にも宿泊先が少ないため、履修者の募集時に自宅から通勤できることが望ましいとした。今年度の履修者は、隣駅のビジネスホテルに2週間滞在し、生活面の費用の負担が大きかった。やはり、自宅から通勤できることが望ましい。

所属学部学科 | 現代文化学科　国際ファッション文化学科

▶ 履修の目的･目標

学生のうちに少しでもファッション業界の現場のことを知っておきたいと思い履修を決めました。ハイブランドの製造工場を選んだのは、百貨店などで販売されている服がどのように作られているのか、なかなか買うことのできない高い服に興味があったからです。また、日本国内の服の縫製工場は減少傾向にあることを知ったときから縫製工場のことが気になっていたからです。現場のことをしっかり見て学ぶことを目標にしました。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

量産の工場なので数多く作っていると想像していましたが、１日に作るペースがあまりにも早かったことに驚きました。学校では２、３か月で１着のペースで作っていたので、そう感じたのかもしれません。私が研修に行った２月の目標枚数は5000枚。１日に100着以上作っていました。ジャケットのポケットを作らせてもらうとき、初めにお手本を見ました。早くて綺麗で正確で､私が１つ縫う間に職人さんは３､４つ仕上げていました。様々な工程を体験させてもらいました。完成したブラウスの糸きりの作業をした際に、そのブラウスのタグをインターネットで検索すると先行予約の欄が出てきました。私も少しですがその商品に関われていると思うと嬉しかったです。この工場では、より良い製品を作るための工夫がされており、布の裁断をするにも粗裁ちをしてから裁断と、正確にするために手間がかけられていました。工業用ミシンを改造したオリジナルのミシンもありました。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

研修中、工場は毎日忙しい様子でした。毎月の目標枚数に対して毎日の目標枚数もあり、１日に４回各製造ラインの上がった枚数と残り枚数が発表されていました。納品には確実に間に合わせなければならないので「終わらないと帰れません」と言われている日もありました。明確な数字があることで従業員全員が真剣に取り組んでいました。毎日大量の服を作るので、社長は「ステッチを踏んでるとき、ボタンを付けているときはお金になる。無駄ではないけれど、糸をミシンにつけている時間､生地をとる時間はお金になっていない。お金にならない作業は早く済ませるように」と言っていました。これを聞いて、本当にその通りだなと思いました。私はよく、布をほどくことが多いのでほどく回数を減らすようにしたいです。たくさんの機械を使わせてもらって、その中で普段からもできる服を作る上でのコツも知ることができました。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

この２週間を通して計画を細かく立てて進めていくこと、着る人の気持ちを考えて作ること、いかに無駄をなくしきれいに作れるかが売り物を作るには特に大切だと思いました。今後は普段から服を作るときには今日中にどの工程まで終わらせるなどの計画をたてて進めていく予定です。また、売り物になるものを縫ったときは綺麗にできたので、自分の服を作る時も商品になると思い込んで完成度の高い服を作れるようになりたいです。

研修を終えて、服を作る側の仕事をしたい気持ちが強まりました。そのためには様々な生地を縫うことに慣れていくことが大切だと思いました。

また、私はこの研修期間で初めて１人で生活をしてみて、一緒に住んでいては分からない親のありがたみを知り成長することができました。

〈梅春〉ファクトリーブランド

東京
山梨

工場がつくったブランドの全貌

授業概要

日本のアパレル流通は企画・製造・販売の流れの中に商社や卸といった中間業者間に多く入る多段階構造となっている。この構造は、リスク回避、生産・販売数量の調整機能、小売店頭の品揃強化等の点において、利点があったが、中間マージンによるコスト高に繋がるというデメリットもある。この基本構造を疑問に考える企業は、素材調達、企画、設計、製造、流通、販売、販売促進、在庫管理といった全ての工程を自社で一括管理する仕組みを始めている。

本科目はファクトリーブランド「evam eva」を展開する近藤ニット株式会社での学外研修である。70年の歴史を持つ老舗ニット工場が、なぜファクトリーブランドを始めたのか。ファクトリーブランド創設15年を経て東京、京都、大阪、福岡など全国に直営店を構え、海外を含め130ほどの卸先を誇るブランドにまでどのように成長したのか。企画立案からデザイン、製造までをデザイナーと職人が同じ空間で完結させるものづくり、自社工場で作られた商品がブランドコンセプトに基づいて設計された店舗で販売されるファクトリーブランドの全貌を研修を通じて理解する。

ファクトリーブランドについて理解するためはファッション産業の理解が不可欠である。近藤ニットの本社工場や店舗での研修の前に都内近郊の縫製工場や編機メーカー、アパレルメーカー、デザイナー・クリエイターなどを訪問し話を伺い、ファッション業界について見識を深め、ファッション業界の流通の仕組みや商習慣などについて理解する。

到達目標

縫製工場やアパレルメーカー、デザイナーなどとの交流を通じてコミュニケーション力を身に付けるとともに、ファッション産業への理解を深め、ファッション業界の現状や展望について自分なりの意見を持てるようになる。山梨から国内外に発信しているファクトリーブランド「evam eav」の経営・運営などを理解しをグローバルな視点を養成する。研修を通じて様々な場所へ訪問、様々な人と交流、研修による体験で既存の考え方に捉われないファッション業界の新たなキャリアを切り開いていける視野を身に付ける。

期間／スケジュール

第1週　アパレル業界の現状を知る①（東京）
編機メーカー見学、evameva社長との対談、ファッションディレクターとの対談、デザイナーとの対談、パターンナーとの対談、テキスタイル産地の話、合同展示会見学など、様々な立場、視点からアパレル業界に触れる1週間です。

第2週　アパレル業界の現状を知る②（東京）
コレクションブランドの運営、海外生産・品質管理の話、アパレルメーカー見学、スタイリストの仕事、テキスタイル展示会見学、商社・OEMメーカーの仕事など、様々な立場、視点からアパレル業界に触れる1週間です。

第3週　近藤ニット本社および工場研修（山梨）
ファクトリーブランド「evam eva」ならではの企画、設計、製造、検品、出荷が同じ場所で行われる、工場発のものづくりを体験する。evam evaの集大成ともいえる山梨店でブランディングについて、コト消費などのevam evaの世界観を体感する。

第4週　evam eva店舗研修（東京）
「evam eva」の販売機能、ブランドと顧客の接点である店舗での研修で、世界観の作り方、空間演出やVMDについて、接客とのエンゲージメントの作り方、などのブランディングについてを知り、モノ消費とコト消費がどのようにミックスされているかを体験する

成果と課題

成果としては科目のねらいの通りに学生のアパレル業界への構造や現状などの理解を深めていくことで、これまでの自分の学修スタイルや今後の大学生活での取り組むべきことなどをよく考えてくれていたと、プログラム中の様子や報告書から感じ取ることが出来た。アパレル不況と言われる中で、学生自身がどう生きていくか、そのために何をすべきかをよく考えてもらうこともでき、プログラムに対して各自で決めた目標に対しても何かしらの答えを探しだしていたと感じる。

課題としては2週間で10名以上の講師の話を聞くことになる為、スケジュール調整がうまくいかなければ話を聞くことが出来ないこと、今年は無償でお願いできたが今後は費用が発生することも考えられるため、費用の捻出が必要になる可能性があること。4週間の研修プログラムを組んでしまうと、報告や発表、プレゼンテーションの確認が出来ない。今年度はプログラム終了後に集まってもらい報告をしてもらった。研修直後では研修期間のすべてを網羅的に振り返る報告が難しいので、終了後に考える時間を設ける必要があり、その時間を確保することが難点である。

所属学部学科 | 服装学部　ファッションクリエイション学科

▶ 履修の目的･目標

このAPに参加する前までファクトリーブランドというのは聞いたことがあるだけで実態については知りませんでした。説明会の際に、様々なアパレルの方からお話を聞けるということもあり、このプログラムに参加を希望しました。お話が聞けるというのが参加希望理由ではあったものの　どのようなお話を聞けるのかも、その内容をどのように今後に生かすのかも見えないままプログラムに参加してしまいましたが、一日目で自分と周りの人との知識量や参加姿勢に焦りを感じました。やや遅れをとりAPの1日目が終了してから❶アパレルの構造について、現代になぜアパレルは大変というレッテルが貼られているのか、をきちんと理解すること❷自分の将来（卒業後のこと）を本気で考えること、そしてそのビジョンが少しでも見えるようにただお話を聞くのではなく学ぶ姿勢で1ヶ月を過ごしてみる、という目標を立てました。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

毎日のお話や経験が初めての事や疑問が生まれるもの、それを解決していくものだったりと濃い1ヶ月間だったのでほぼ毎日が印象的でした。そして服飾の学校に通っていながらも無知である自分にも驚き、このプログラムを受けていく中で自分の考えや意見が変わっていき自分の考えが持てるようになったのも驚きでした。たくさんの人からアパレル業界に未来は無いなどと意見されることがあり、自分もよく現状を理解しないまま就職などしても意味がないと思っていました。でもこのプログラムが終わってからは就職のことも視野に入れながら卒業後のことやこれを実行する為には在学中にできることは何かなど思考することが一段と増えました。またこの研修を通して自分はものづくりをしたいということにも改めて気づくことができ、将来自分の思うものづくりをしていく為には学校で学ぶ基礎知識はもちろん、自分のフィルターを作っていくことも必要だとわかりました。これはデザイナーの丹治基浩さんに教えていただいたことで、時間がある在学中にできることだと思いました。またセコリ荘の宮浦晋哉さんが色々な工場に見学してみるのも学生のうちにできることだとおっしゃっていました。このプログラムで自社工場について学び経験することができ、自分のものづくりを考えた時に自分の家系に工場という背景はないけれどどうにか工場と一緒になってものづくりをすることはできないかということを考えるようになり、どのようにすれば良いかわからない時だったのでとても印象に残っています。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

山梨での工場研修を終えて、自社工場の成功形とも言えるevam evaのビジネスをなぜ他のアパレルが真似しないのか・出来ないのかを考えた時に❶まず多くのアパレルブランドが製品の価値よりもビジネスを優先しすぎていること（製品の価値と値段のアンバランス）、❷企画から生産、販売までの流れを理解･把握できていない人が多い、❸各々の工程においてコミュニケーションがうまく取れていないこと、そして❹人間関係においてお互いの尊重ができていないこと、だと考えました。❶〜❸のことは今までの知識では考えつかないことであったので、このプログラムに参加し、色々なブランドを知り、疑問を持ち自分なりの答えを見つけて行ったからこそ考えられたことだと思います。❹のことはアパレルのことだけではなく、生きていく中でも大切なことなので驚きでもありそれが欠如しているのが現状だと理解しました。

お話を聞く中でたくさんの方から教えていただいた中で共通することは人脈を広く持つこと、自分の好きという気持ちを押し通すこと、世間的に正しいと言われていることだけが正解ではないことであったと思います。学校に通いただ授業を受けるのではなく、学ぶ姿勢が必要であり、何よりも何を自分は学びたいのかを一番に考えていくべきだと気づくことができました。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

まず学校の単位をしっかりと取り4年間で卒業すること、そして卒業後にどのように自分のものづくりをしていけば良いか答えを見つける作業を積極的にしていきます。具体的には、工場について調べて見学できる機会があれば参加し、その工場には何があればブランドして成立するのか、それは私にもできることなのかなどを考えていき、最終的には工場とコネクションを作れたらと思います。工場を訪れる際に自分にも多少の知識がないと会話ができないので自分の中の知識も増やしていきます。

また学校外でも自分のものづくりをさせていただける機会があれば積極的に参加していきます。今までは学校と学校外の両立ができていなかったのでうまく両立させて、学生のうちに様々な体験をしたいと思います。

自分の中で「工場・ものづくり」というワードが自分のやりたいことにつながるとは思ってもいませんでした。かなりの方向転換で周りの人にも今の目標である『工場とつながっていく』ということを話すと驚かれるのですが、デザイナーの丹治さんもおっしゃっていたように、自分が本当にやりたいことは誰に否定されてもやってしまう、そこまで好きならば絶対にやり通した方がいいという言葉を思い出していきたいと思います。

所属学部学科 | 服装学部　ファッション社会学科

▶ 履修の目的･目標

私は以前から自社工場を持つブランド構造に興味があり、今回のプログラムを通して理解をしたいと思い履修しました。そして、企業や様々な職種の方からのお話で現状を把握、アパレルの流れを理解し工場研修で一般アパレル企業と自社工場ブランドの構造の違いについて考えたいと思いました。自分がやりたいことを職として結びつける判断材料が不足していた為3年次コース選択のきっかけとなるものが必要だったからです。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

今回の研修で最も印象に残っていることはevam evaのブランディング力の強さです。始めの2週間で現状について考えたときにアパレルがアパレルとして機能していないことが大きな問題でした。そしてその原因を掘り下げてみると、金銭的な面から「企画」というブランドとして核である仕事を委託している事実がありました。それは結果としてどのブランドもブランドと言えないような似通った商品ばかり出回ってしまうことに繋がっています。様々な職種の方にお話を伺った際にもブランドの企画の部分が大切だという意見は共通していました。そこでevam　evaが成功している一つとしてブランドのコンセプトがはっきりしていることが大きな要因なのではないかと思いました。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

私は企画職に興味があるため研修でevam evaのブランディング力についての印象が強かったことを受けて、企画という面から今回学んだことを関連付けて考えました。evam evaでは近藤氏の奥様がデザイナーを務めていましたが、デザインの多くはご自身の出身である山梨県について関係しているものでした。自分のルーツを絡めていることで思い入れも強く､その土地の雰囲気を具体化する感度も高いのではないかと思いました。研修2週目でお話を伺った丹治氏が"自分のフィルターが確立されているとデザインは無限に生み出せる"と主張していたことと通じるものを感じました。
シーズンごとに名前を付けたコレクションを展開しそれに合わせてノベルティを作っているのも恒例のイベントとしてリピーターを増やす手段の一つだと思いました。これらがマーケティングのやり方として非常に勉強になりました。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

プログラムに参加して流通から販売まで様々な工程を見ることで改めて自分が志望する職業について俯瞰する機会となりました。これまで企画に興味があったものの実際に企業で行われている業務について知ることが無かったため今回初めて目にすることができました。それに加えアパレルの現状から経済やマーケティング、AI、英語の勉強をすることで企画に活かせるのではないかと感じました。これからのアパレルの構造を変化させていくに当たってAI技術の利用はマーケティングリサーチに欠かせないものです。2年次ではビジネスに関する講義が増えていくのでマーケティングについての知識を深め、3年次のコース選択に活かしたいと思います。更に就活に向けて企業選択の判断材料を増やす手段として、自分のやりたいことを具体化する自己分析の精度も上げていくことを目標にしたいと思います。

所属学部学科 | 服装学部　ファッションクリエイション学科

履修の目的･目標

学校にいるだけではわからないアパレルの現場で今起こっていること、これからのことを実際にアパレル界を動かしている方々に話を伺い、これから優先して学ばなければいけないことを見つめ直す。学生だけで話し合っているだけではわからない将来の仕事のこと（企業選びや転職について）をアパレルの特性を絡めて話を聞けるので話を聞きたいと思った。

研修で最も印象にのこったことについて

１つ１つのインパクトが大きくてこれが一番だ！と決定付けるのは難しいですが、やはり実物を作りながら工場で働いて、働く人と話して、仲間と支え合ったことです。百聞は一見にしかずです。たくさんの話を取り込んで本当にためになりました。それを踏まえた上で現場はどうなのか、事件は現場で起きているのか、知識を得た上で実際に体験できたことが収穫でした。しかも現場とはいえど製造の、工場の、現場だけを見るだけではダメで、"工場と企画が一緒にみれる"これが重要でした。工場だけでは技術しか見れないのです。しかし私たちが学びたいことはこの業界の仕組みでテクニックを学ぶ会では無かった。なのでアパレルの流れをぎゅっと近くでみれる環境がとても勉強になりました。そして一緒に学んだ仲間と過ごすことでこの学校に入り私はこの世界で生きるんだという思いに味方ができた気がしました。

研修を通して気づいたこと･学んだこと

技術とデザインを考えるだけの授業だったと気づいた。授業でテーマやシチュエーションを考えデザインしてパターンを引き縫い上げる。これは趣味のレベルでもすることができることなのではないか。実際私はファッションを仕事にしようとしているわけで、仕事ということは売れなければいけない、利益が必ず必要、それを考慮したものづくりを目指すのが仕事なのだと思います。1着作るのにいくらかかって、どれだけ作るのか、どこの工場で作るのか、いくらで売るのか、どこで売るのか、ターゲットはどの層か、経営学部ではないから学ばなくていいわけではないです。服装造形学部だからといってファッションビジネスを知らなくていいわけではないし、もしブランドを立ち上げたいとなったら絶対この知識が欲しいはずだと思います。好きな服を作る。そのためには売れなればいけない、好きなだけでは生きていけませんから、持続性のあるブランドでなければ好きを続けることもできない。夢を綺麗事で終わらせないために現実的なことを学べればいいなと思いました。

今後の学生生活に生かしたいこと

視野を広く持って情報収集していろんな人に会うこと。今までの学生生活でも積極的にいろんな人に会って、学校にいるだけじゃなくて遊んでるだけじゃなくてよかったと、つくづく思っていたのでそのスタンスを変えずに行動していこうと思います。海外で勉強する費用を貯めるためにバイトが忙しくなりそうでスケジュール管理と体調管理をしっかりするのが当たり前に大事だと思いました。勉強勉強することよりも自分は人間性をしっかりしてコミュニケーション能力を、高めたいです。堅く考えすぎず柔らかく人と接することができる余裕ある生活を送れるようにしなければなと思います。あと語学が絶対に必要だと思ってはいるのですかなかなか踏み出せず知っている単語を勢いで話すだけの英語をどうにかしたいです。ライトな気持ちで楽しく勉強し始めようと思います。

所属学部学科 | 服装学部　ファッションクリエイション学科

▶ 履修の目的･目標

今回の研修では、アパレル業界の現状を現場から読み取り必要とされている事を見つけ出すことと、諸分野の方々がどのような意識をもって仕事をしているのかを知ることを目的としました。学内では知ることができない現場を実際に見て、自分なりに問題点などを探りそれらをどのように解決していくべきなのかを考えることで研修後の残りの学生生活で行うべきことが見えてくると考えます。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

研修は4週間を三分割したプログラムで行い、各プログラムの中で様々な経験を得ることができました。最も印象に残っていることは、3/1の川上舞乃さんの講演です。この講演を受けて最初に就く仕事が重要なのではなく、転職をして目標としていることに近づくことができるということを学ぶことができました。どのような環境でも目標としていることに近づくには何をすべきなのかをその都度考えて、それを継続できさえすれば少しずつ結果が出てくるのだと思います。そして、そのためにはまず自分の芯となる意思を持つことが必要だと考えます。技術面の向上や理論を学ぶことも必ず必要なことですが、それと並行して自分の意思を持つことが自分の強みになってきてくれると感じます。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

研修を通じてどの業界でも自分がどのような立場で仕事をするのかを考えることが重要だということに気付きました。初めの２週間では様々な立場の方々の話を聞くことができ、同じ問題であっても立場によって見方や考え方が違っていました。様々な立場で一つの物事を考えられれば､自分の立場で仕事をするときにクライアントが何を望んでいるのかをしっかりと意識できるようになると思います。また、仕事をするうえでも対人関係の大切さも知ることができました。対人関係を良くすることはクライアントから信頼を得ることにも繋がり、信頼を得られたことで自分の仕事に対して自信を持つことができ、質の高い物づくりができていくのではないかと考えます。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

学外である現場を実際に見れたことで自分がいかに学内だけに留まっていたのかということに気付くことができました。自分が作った物の価値を自分自身で評価をして、外に発信せずに他者ががどのような価値を付けるのかという評価を知ることから逃れてきたように思います。このことを実感できたことで自分の欠点も見つけることができ、その欠点をどのように変えていくのかを考えるようになりました。残りの学生生活では学外での活動の機会を自ら作り、自分が行っていることを他者がどのように評価するのかを知るように行動していきたいと思っています。それを続けることで自分がやるべき仕事も自然と決まってくるのではないかと思います。自分がやるべきことを把握しそれを発展させ、少しずつ思い描いている将来像に近づけるように日々精進していきます。

所属学部学科 | 服装学部　ファッション社会学科

▶ 履修の目的･目標

今度のAPプログラムを履修した理由は主に３つあった。
①日本のアパレル業界の現状を、モノづくりの観点からよりよく理解できるようになりたいとの願望。
②特に関心を持っているVMD・企画・マーケティングの仕事の内容をプロの人の話を聴いて学びたいとの願望。
③次年のキャリアデザイン・就活のために自分の強み・弱みをよりよく把握し、これからどのように磨いていくべきかをより明確に理解できるようになりたいとの願望。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

① 近藤ニットは海外生産の既存商品では真似できない、日本の自然に生まれたモノ（素材・色など）とコト（心と体で感じる経験）を作る企業との印象を与えられた。自然のままの素材・染料を使い、客が身につけると年を重ねてきてもさらに美しくなるような商品を生産することで、客の日常生活をより豊かにすることを常に目指している。

② また、国内生産を機に結ばれている生地屋・染め屋、そして自社の従業員の全員との絆を貴重に思い、これからもできるだけ維持していきたいとの願望もブランドのミッションの大切な一環である。

③ 近藤ニットのブランディング能力の一環である「本来のものをできるだけそのままに」との理念は、お店、特に本社の建築の仕組みと雰囲気が反映している。本社は、元の建物の要素をできるだけ保存していながら山の中の絶景に気持ちよく溶け込まれるように建てられ、日本製のブランドとしての独自の世界観は伝わっていると考えた。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

① 自己生産がビジネスモデルの楔であるファクトリーブランドは、海外生産に伴うリスク等を避けられ、その分商品に更にこだわり､自分だけの｢ブランド｣を作り上げることに力を注げるという利点がある。もし近藤ニットのようにターゲットでを賢く絞れれば、厳しい現状でも売れる可能性がある。

②｢ブランド｣はモノ（商品など）を作るというより､コト（経験）を作ることになってきたのに気づいた。しかも「日本製」そのものはブランドであり､こだわりに基づいたかけがえのない存在感があるので､日本企業だけが提供できる「コト」を作って活かすことで成功できる。

③ 技術の進化と共にこれからは人間も技術化していくと予測されているが、技術も「人間化」しないと受け入られにくい。人間は機械にはない感受性をを活かすことで、技術だけでは作れない絆を客と作れるような人材は求められると考えられるので、キャリアデザインの一環としてその能力を磨かないと。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

① 今度のプログラムに参加することで、日本のアパレル業界で働きたいとの願望を持つ海外出身の学生としては改善すべきである自分の弱点に気づいたが、同時に、以前の時に比べて自信をより持てるようになった気がした。これからはコミュニケーション能力を磨くために、最近始まったボイストレーニングを続き、相手を気持ちよくさせるように丁寧に話せる、面倒見の良い社会人になるように頑張る。

② 将来の目標は世界中にも愛される商品を生産する日本のアパレル企業でVMD、または企画・マーケティングに関連する仕事をすることなので、今年以内に決まるべきである研究のテーマを考えながら、授業と自習を通して憧れの仕事について徹底的に学び、指導できる人を見つけること。

③ 技術の進化と共に上手く付き合えるべくITの知識を深み、自習と、大学でのリゾースを積極的に活かして感受性を磨くという、キャリアデザインのために新たな目標も立つようになった。

〈梅春〉ハイブランドの製造現場 東京

高級既製服の仕立て技術を学ぶ

授業概要

後期試験終了後から春期休暇までの4週間にわたり、ハイブランドの製造現場を学修する。ハイブランドの縫製方法を市場調査し、また、東京都杉並区にある有限会社ファッションしらいしにて製造現場を体験する。

到達目標

ハイブランドの市場調査や約4週間にわたる製造現場を体験することで、アパレルの現状を知り、ファッションを中心とした分野で発揮できる能力を養う。

期間／スケジュール

第1週目：タグ付け、ジャケットの仕上げ作業(ボタン付け等)　等
第2週目：縫製前準備(裾・脇のアイロンがけ)、ハトメ穴あけ、糸の始末　　等
第3週目：ジャケットのゲージ作り、CADパターンの切り抜き、反物の整理・タグ・値札・品質表示作り　　等
第4週目：サンプルパターンの仕分け、裁断準備、接着芯貼り準備　　等

成果と課題

大学卒業後の社会を見据えて、学びの中に自主性が求められる大学生活の中で、今回の研修は、学生自身がキャリアプランを描くきっかけとなる機会になったと考える。大学で学んでいることが、社会ではどのように生かされるのかを実感するとともに、自身に足りない事に気づき課題を見出し、今後の目標を得ることが出来ていた。このことは、これからの学びを深くし、学生生活のより一層の充実にもつながり、就職活動にも活かされると考える。また、縫製工場の現状と課題、企業の取り組みを体感でき、縫製業をはじめファッション業界に興味関心の視野が広がったと考える。

受講した学生からは、4週間という長期間の研修が有意義であったと報告を受けた。仕事の流れが時間を追って理解できたや社会においても相手に意志を伝えるためのコミュニケーション能力が重要であると感じたなど、長期間の研修だからこそ得られた事が多かったように考える。次年度も同期間での研修ができるよう、企業への協力をお願いしたいと考えている。

所属学部学科 | 服装学部　ファッションクリエイション学科

▶ 履修の目的･目標

私がこのプログラムを履修した目的は将来縫製工場への就職を考えていて、縫製工場へ行き、実際の仕事の流れや内容を自分の目で見たかったからです。また、アパレル企業とのやり取りや現場での流れを知り、縫製工場の皆さんがどのような仕事をしているかを学んで、実際に働いている人と交流して社会人としてどうあるべきかも同時に学びたいと考えたからです。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

私が印象に残ったことは、仕事熱心な社員・パートの皆さんの作業スピードの速さと縫製の綺麗さです。布の状態から出来上がった服を見たときは本当に早くて綺麗で感動しました。焦っていても期限が厳しい時も仕上がりがきれいでした。縫製の綺麗さで着心地やサイズも変わってしまうし、見た目にも変化があることを知り、自分の経験・知識不足も実感しました。皆さんは、難しい縫製や生地の扱い、柄合わせも慣れており、くせとりやアイロンの仕方1つ1つにこだわりがあって沢山の服を作ってきたからこその速さと綺麗さだと実感しました。

皆さんプロとしての自覚や意識をしっかりと持っていて、「プロだからできて当たり前」と専務がおっしゃっているのを聞いたときはプロってすごいな、かっこいいなと思いました。若い人が多い職場でプロとしての意識を持たせるのは当たり前のようでなかなか難しいのではないかと思います。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

私は縫製は好きですが、細かい作業が苦手でおおざっぱな性格のため縫製工場の仕事は向いていないのではないかと思っていました。将来やりたいことがない人が多い中、私はせっかくやりたい職業があるのに現場も見ずに判断するのは良くないと考え、縫製工場がどのような仕事をしているかだけではなく、その職業についている人はどんな人たちかを知りたかったので今回のAPに参加をしました。実際研修をさせていただくと、色々な人がいました。縫製が得意な人、良く周りを見られる人、細かいことにも気づく人など必ずしも皆さんが几帳面とも限りませんでしたし、自分の個性や得意不得意を自分なりに考えて活かしているようにも見えました。私みたいに苦手なことがある人でも自信を持って働ける環境だと思いました。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

このAPプログラムに参加して、学校で学ぶだけでは分からなかった縫製の素晴らしさや大変さ、そして自分の服作りに対する考え方が変わりました。実際に仕事を手伝わせて頂いた私には服作りに関する知識や技術が全然足りないことが分かりました。学校で学ぶことだけではなく、自ら服作りについて学ぶべきだと思います。今は学校の図書館やインターネットでもたくさんの情報があり、2年間学んできたので学校の課題以外で服を作ることもできます。色々な知識や技術があればこれから作る作品の幅も広がり、就職してからも得たことは無駄にはならないと思うので、まずはそれを今後の課題にしようと思います。ファッションしらいしさんで学んだ服作りの1つ1つの細かいことは3学年で服を作る際に活かし、社会人としてのマナーやコミュニケーションの取り方も学んだので、それは就職活動時に活かしていきたいと思います。

所属学部学科 | 服装学部　ファッションクリエイション学科

▶ 履修の目的･目標

私がこのプログラムに参加したいと思った理由は、授業がない長い休みの期間を使って学校とは違う場所で学んでみたいと思ったからです。コラボレーション科目を履修するにあたり、自分が興味のあるもの、将来の役に立ちそうなものを履修しました。このプログラムに参加するにあたっての目標は、積極的に発見し、学ぶこととしました。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

まずは丁寧さです。私は授業で出された課題はなるべく丁寧に仕上げようと思っています。しかし実際の現場は、接着芯の貼り間違えも1から裁断して、再度接着芯を貼ります。裁断も縫製も少しでもずれると仕上がりが変わるため、ミリ単位で考えられていました。普段授業でこのぐらいはいいやという風に妥協していたことは、実際の現場では通用しないのだなと思いました。

次にアイロンがけ(プレス)です。専務は、3種類のそれぞれ違う工場でプレスしたジャケットを見せてくれました。自社で製作したもの1着他社2着で、全部同じパターンで作ったものです。他社2着はヨレていたり、形が変わっていました。何十年も前のものだから仕方がないことだと思いましたが、自社製作は、シワ、ヨレがなく、形も綺麗でした。手入れをしていたわけでもなく扱いも雑だったけど、きちんとプレスをすれば綺麗に保つことが出来ることが分かり、とても印象に残りました。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

自分がいかに授業の内容を理解してないということと、知識がないことでした。最初は多少の知識はあるしそれを使えるチャンスだと思いました。しかし、研修の中で私が知っている用語が出てきても、その用語の意味ややり方が分からず、自分の無力さを感じました。奥まつりと言われた時に、名前は知っているけどやり方が分かりませんでした。すごく恥ずかしくなりました。授業でやり方を教わったはずなのになぜやり方がわからないんだろうと自分を責めました。私は毎日縫っているわけではないので知らないことや知っていても忘れてしまったことも多少あるのは仕方ないことだと思いますが、実際の現場では知らないことはきちんと聞いてやり方を覚えればいいと思ったと同時に、授業で学んだことはなんとなくではなく、自分で出来るようにするべきだと思いました。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

研修を通して、より将来の夢が明確になったと思います。 私は縫うことよりもデザインすることをやりたいと思っています。今までデザインと縫製は別であると捉えていましたが、この２つは繋がっていると気付きました。デザインをする際縫い方を知らなければ、工場とコミュニケーションが取れないと思います。大変な作業が多い作り手の気持ちを理解しデザインを考えることもデザインする側の仕事だと思いました。また、服作りは1人ではできないことを知りました。工場では3チームに分かれていて、各チームに共通することはコミュニケーションをしっかりとることでした。言ったから大丈夫ではなく、自分と同じ理解ができるよう伝えることが大切だと実感しました。主観的に物事を考えるだけでなく客観的に考えることは、作品製作や将来仕事に就いた時にも大切なことだと思います。作品製作だけに集中して周りの人が見えなくならないよう意識して、学校生活を送りたいと思います。

所属学部学科 | 服装学部　ファッションクリエイション学科

▶ 履修の目的･目標

履修したいと思った一番の理由はとても単純で、工場に行って見学してみたいということでした。学生のうちに工場で４週間も研修を体験できるのはまたとないチャンスだと思ったことも理由のひとつです。

研修へ行く前には質問を考えたりどこに注意して現場を見ようかと考えていました。現場の空気を体感して、吸収出来る限りのことを目一杯吸収して、事前学習などで出てきた疑問を解消することを目標として研修当日を迎えました。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

初日の初めに「素早く仕事をする」と工場の方がおっしゃっていたことが印象に残っています。私は前々から、学校の課題でも自分で作るものでも何に関しても速さが足りないと感じていました。そして、何よりも縫製の綺麗さが仕事をする上で重要なことだと思っていたのですが、綺麗で正確であることは当たり前で仕事では速さが重要なのだと知ることができました。

研修の最終日には､工場の方から縫製技術を教えていただき､学校では教わらない現場での知恵を得ることができました。ブランドからの指示書には書いていなくてもより綺麗に仕上がるようなパターンの工夫、縫製での工夫を教えてくださり、他にも布が保管してある倉庫を見せていただいたり、様々な種類の機械を使わせていただいて、とても貴重な経験ができて忘れられないことばかりです。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

素早さの重要性は日にちを経るにつれて理解していきました。勉強して到達するべきは綺麗で正確な縫製や豊富な知識、そして素早い仕事なのだと気が付きました。

また､縫製技術を教わったときには人によってやり方が違うとおっしゃっていたこともあって､洋裁は様々な方法があってそれを多く知っていれば知っているほど自分の武器になるのだと感じました。今知っていることやこれから教わることが全てではなく、正解は更新されていくのだと思います。必要になったときにいつでも取り出せるように様々な方法の引き出しを増やしていくことが縫製技術の上達なのだと知りました。

工場には沢山の機械が置いてあって、その使い方を習得するのも大変なことだと思いました。使い方を教えてくださった方は、機械の仕組みから教えてくださって、使いこなすためには仕組みも理解していなければならないのだと学びました。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

この４週間は日数以上の濃厚な時間で、ファッションについて学ぶ上で大きく前進できたと思っています。それは新たな技術や知識を得られたことだけでなく、沢山の自分に足りないものをより明確に具体的に知ることができたことです。

研修中、全体的に勉強不足だということは痛感していましたが、その中でも特に作業が遅いということを感じて、これからは授業の課題などでも速さを意識するようにしたいと思いました。現状に満足することなく、常にもっと良い方法があるのではないかと考えて、綺麗さにおいても速さにおいても工夫しながら縫製することを心がけていくようにしたいです。

新たな知識や技術を得られたこともちろん貴重な経験ですが、それ以上に自分に足りないものを知れたことはとても大きな糧になりました。残り３年間の学生生活の中で習得しなければならないことを知ることができたので、以前より目標を明確にして授業を受けたいと思います。

〈梅春〉メイドイントウキョウのものづくり

OEMの製造現場で考える　東京

授業概要

墨田区にある日本の製造業（縫製・プリント・刺繍・ニット編立）の技術から生産管理・営業を経験し物作りの一連の流れを経験しグローバル化が進む中でMade in Tokyoを世界に向け発信できるスキルを身に付ける

到達目標

日本製にこだわりカットソーからニット製品布帛､本革まで製造しMade in Tokyoを意識した商品づくりでスピーディーさとクオリティの高さで製造されている｡生産工場といえば地方を意識されるがMade in Tokyoの利便性や感性クオリティの高さにより十分な可能性を秘めている。確かな技術でMade in Tokyoの品質を腕の良い職人が提供する技術を知ることでグローバル社会における視野を身に付けファッション分野で発揮できる能力を身に付ける。

期間／スケジュール

第1週：生産管理・企画営業
第2週：裁断・縫製・プレス・検品作業
第3週：顔料プリント・インクジェットプリント・刺繍などの操作及び作業
第4週：ニット製品編立・製品のセット

成果と課題

インターンシップ後にミーティング行い次のようなことを確認した。

(成果)

大学の早い段階で社会を知ることにより自身が学内および学外で積極的に行動することで、知識や情報を得ることができ、自信が思い描いた夢に向けた将来設計が現実的な観点になり、社会的な幅広い視野に立ち物事を捉えることができるようになったことが考えられる。

各企業の部署ごとに仕事内容を説明して頂いていたが、インターン先の企業理念や仕事の大まかな流れを事前教育して頂き、概要を把握することによりインターンの内容を深く理解することができると感じている。

(課題)

インターンシップ用のカリキュラムに合わせた仕事の内容ではなく、お引き受け頂く企業の仕事のスケジュールに合わせた内容となり、煩雑な時期と閑散とした時期の受講者が経験できる内容が均一化しづらいため、講義頂くカリキュラムの検討を先方と協議していく必要がある。

所属学部学科 | 服装学部　ファッションクリエイション学科

▶ 実習企業名･部署と実習期間

グッドスミス（両国）　２０１８年2月１３日～2月１６日（１週間）
川島メリヤス（押上）　２０１８年2月１９日～2月２３日（１週間）
江戸ヴァンス（両国）　２０１８年2月２６日～3月１２日（２週間）

▶ インターンの目的･目標

製品が生産出荷されるまでの工程を裁断から仕上げまでの工程を経験することにより生産の工程を理解し自身が将来設計を考えるにあたり的確な選択ができるように生産生産背景を学ぶ事により､自身に足りないスキルを､学内学外を問わず､積極的に情報や経験を得ることができるようになることを目的とする。

▶ 業務内容

グッドスミス
・仕事内容 · · · · · · · 検品、仕上げ、転写、品質表示付け、ほつり、シルクスクリーン体験
・心がけたこと　· · · 時間勝負だったので効率よいやり方を見つけるのを心がけました
川島メリヤス
・仕事内容 · · · · · · · 検品、仕上げ、サンプル届け
・心がけたこと　· · · ほつれてるところを見逃さずに集中力が試されました
江戸ヴァンス
・仕事内容 · · · · · · · 裁断（cam)、縫製、検品、仕上げ、マーキング（cad）
・心がけたこと　· · · 長さぴったりに布を裁断するスキル、どうやったら縫いやすいかを考える、

▶ 学んだこと

アパレル業界の実態を働いてる方に教えていただきました。私が知ってるファッション業界より、とてもひどい状態なんだと聞いてとても驚きました。消費者にとっては今の経済上、安い服を買いたくなりますが裏では上層部はよくても下の人たちの扱いがひどいことに胸を痛めましたし、勉強になりました。学校では学べない実際の縫製工場の現場を見ることが出来て一緒に作業をしたりこれから使える作業を一から教えていただいてとてもよかったです。そして品数を数えるなど簡単な作業もとても大事なことだと改めて気づかされました。

▶ 反省点･課題

事前準備として会社がどのブランドを扱っててそこのブランドについて学んでおけば作業してるときにイメージ湧きやすいかなと思いました。もっと社員さんに入社した理由やここまでの道のりを聞けばよかったです。就活までにもっと視野を広げて会社を探したりインターンを沢山体験するべきだと考えました。

▶ 後輩に伝えたいこと

自分が行きたいと思ってるところに限らずいろんな分野のインターンを経験するべきだと感じました。

▶ かかった経費

新宿基点だと両国駅を利用する江戸ヴァンス、グッドスミスは片道IC165円（往復330円）×15日で4,950円
押上駅を利用する川島メリヤスは片道IC267円（往復534円）×5日で2,670円

所属学部学科 | 服装学部　ファションクリエイション学科

▶ 実習企業名･部署と実習期間

（株）江戸ヴァンス（期間２月１３日～2月２３日）･（株）グッドスミス（２月２６日～３月２日）･（株）川島メリヤス製造所（３月５日～３月１２日）

▶ インターンの目的･目標

学校では学べないことを学ぶ、今後の将来設計に役立てる為に必要な知識の修得を目的とする。

▶ 業務内容

江戸ヴァンスでは主に縫製現場での業務行った。商品タグを製品につける前の下準備やボタン付けなど。裁断の現場ではCAMを使用しマーキングをしピックアップする手伝いを行った。社長からOEMについて講義していただいた。グッドスミスではプリントされた製品をベーキングを通しきちんとプリントされているかの確認や量産の場合には、１０分間で何枚仕上がるかの点数確認等の業務や転写プリントでは箔のカットや実際に転写機を操作し、プリントをさせていただいた。川島メリヤスでは展示会に同行させていただいて貴重な体験となった。またニットマテリアルの方と澤田株式会社に同行させていただいて糸の作り方から素材まで詳しく教えたいただいた。

▶ 学んだこと

自分が学校で作ることよりも細かい作業が多いと感じた。たくさんの人が一つの製品に対して関与していることに驚かされ、また自分がお手伝いさせていただいた製品が私たち消費者にわたることが何よりも貴重な体験となった。展示会では、作り手と提供者側の実際の話を聞くことができ今後の将来設計の参考となった。

▶ 反省点･課題

先方の方がお忙しいと思い遠慮して何の工程をやらせていただいているのか、企業の経営理念など現場で働く方々のお話をお伺いしたかった。また事前準備をしっかりと行うべきであったと思う。

▶ 後輩に伝えたいこと

インターンシップ期間は自分にとって貴重な時間である為、今後の人生設計を見直す時間にしてほしい。

▶ かかった経費

新宿基点だと両国駅を利用する江戸ヴァンス、グッドスミスは片道IC165円（往復330円）×14日で4.620円
押上駅を利用する川島メリヤスは片道IC267円（往復534円）×6日で3,204円

所属学部学科 | 服装学部　服装社会学科

実習企業名･部署と実習期間

2017年2月13日（火）～2月16日（金）　川島メリヤス製作所
2017年2月19日（月）～2月23日（金）　江戸ヴァンス
2017年2月26日（月）～3月2日　（金）　江戸ヴァンス
2017年3月5日　（月）～3月9日　（金）、12日（月）　グッドスミストウキョウ

インターンの目的･目標

将来、販売員や企画などの仕事をする際に、少しでも生産現場を知ることはとても大切だと思い、参加しました。

業務内容

川島メリヤス製作所ではニット製品の検品作業を最も多く行いました。製品によってほつれが出やすい製品やしわが付きやすい製品があったので、細かい所まで注意を払わないといけなかったので大変でした。江戸ヴァンスでは、プレスの仕事をさせてもらう時間が最も多かったです。製品のアイロン掛けや納品前の包装、タグ付、たたみ等の地道な作業が続いたので、気を長く保ち続けないといけない作業でした。グッドスミストウキョウでは、下げ札製作に最も多くの時間を掛けました。担当者の方からこの仕事はどういった請け方をしてどこに行くのかという流れを簡単に説明してもらえたので、自分なりに次に受け取る方がどのようにすれば分かりやすいか工夫しながら作業することができました。

学んだこと

今回のインターンシップ参加を通じて、アパレル製品は店頭に並ぶまでにとてもたくさんの工程があり、多くの人が心を込めて少しずつ出来上がって行くのだなと実感することが出来ました。例えば、インクジェットプリント加工をするＴシャツには必ず全てのボディーに前処理剤をムラのないように適量を染み込ませなければプリント加工は行えないのだということを今回の研修を通して学ぶ事が出来ました。この作業は、量産を求められる工場では、機械で行われる事もあるそうですが、機械で行うのと手作業で行うのとでは仕上がりが全然違うということも教えてもらえました。

反省点･課題

事前準備としてやっておく必要があったなと感じる事は特にはないですが、インターンシップ参加までによりこういう事を知りたいなどの好奇心や疑問を持った状態で参加出来ればより良かったかなと思いました。インターンシップ参加中の反省点は指示された作業を言われた通りにこなすだけではなく、この作業は何のためにやっているのかやどこに最も気を付けるべきなのかなどを確認しながら出来たらより良かったなと思いました。インターンシップを通じて知りえた事やアパレルに対しての考え方を就職活動に存分に生かしていきたいです。

後輩に伝えたいこと

知りたいことや好奇心を参加するまでに自分の中で見つけておく事が一番大切だと思います。交通費に加えて昼食代等費用は掛かりますが、アパレル業界で働く気持ちがあるのであれば、とても役立てられる経験になるとおもいます。

かかった経費

交通費　新宿～両国間往復440円×16日＝7,040円、新宿～押上間往復540円×4日＝2,160円　　計9,200円

所属学部学科 | 服装学部　ファッションクリエイション学科

▶ 実習企業名･部署と実習期間

グッドスミス（両国）　２０１８年2月１３日～2月１６日（１週間）
川島メリヤス（押上）　２０１８年2月１９日～2月２３日（１週間）
江戸ヴァンス（両国）　２０１８年2月２６日～3月１２日（２週間）

▶ インターンの目的･目標

授業で習ったことや自分自身の興味のある分野についてもっと詳しく知りたかった。
興味のあることだけではなくまだ知らないたくさんのことを今のうちに経験しておきたかった。
自分で実際に経験することでこれからの役に立つのではないかと思った。

▶ 業務内容

グッドスミスさんでは製品を検品したりタグを付けたりなどの仕上げ作業が大半でした。最終日にはシルクスクリーンや転写も体験させていただきました。
川島さんでも仕上げ作業には大きな変わりはないのですがニット製品のほつれをなおしたり糸を巻いたりもしました。
江戸ヴァンスさんでは二週間と期間が長かったこともあり縫製（タグを縫い付ける・スリットの布を縫うなど）をさせていただいたり裁断（マーキングやパターンに関すること）もけいけんさせていただき、展示会にもつれていっていただきました。

▶ 学んだこと

インターンはもちろんバイトとかとは違うので、確実に積極性と能動的に動く事、何事にも興味をもって取り組むこと、自分が取り組む作業にはどういった役割があるのかを理解して動く事が大切だとおもいました。また、インターン中に出会う方たちとはしっかりとコミュニケーションをとり、わからないことや聞きたいことがあったらすぐに聞くことでたくさんの知識が身についたり次の日からすぐに役立てたりすると学びました。知りたいと思ったことややってみたいと思ったことを伝えると、それに関することやきっかけ、ヒントをいただくことができます。将来のことを具体的に言葉にして人に伝えると思いがけず突然願っていたことが舞い込んできて実現につながることもあるということがわかりました。

▶ 反省点･課題

事前準備としてやっておく必要があったのは、インターンでお世話になる会社はどういう会社でどういう目的で役割を担っている会社なのかしっておくこと。あとは､事前にしりたいことや聞きたいことをメモしておくことで後で「これをきいておけばよかった」「もう少し話聞きたかった」ということを防げるとおもいます。もう少し積極的にコミュニケーションをとればよかったな。ともかんじています。

▶ 後輩に伝えたいこと

もちろん遅刻や欠席はしない方がよいので生活リズムを規則正しくするべきなのと、インターン先の方々にしっかりとあいさつをすること。初めは不安でいっぱいだと思いますが明るく前向きに取り組むこと。一つ一つ意味がある作業なので任されたことはしっかりと取り組むこと。当たり前だし基本中の基本ですがその基本や常識さえあればインターン先の方々も優しく向かいいれてくださると思います。

▶ かかった経費

新宿基点だと両国駅を利用する江戸ヴァンス、グッドスミスは片道IC165円（往復330円）×15日で4,950円
押上駅を利用する川島メリヤスは片道IC267円（往復534円）×5日で2,670円

〈梅春〉ファッション企業研修 東京

ファッション企業の現場を学ぶ

授業概要

本授業は後期期末試験終了後を梅春学期と設定し、国内ファッション系企業で４週間のインターンシップを行う授業科目である。ファッション系企業の業務内容や仕事の進め方、企業内の様々な職種やそれらの業務内容を習得する。実施時期は２月下旬から３月中旬の４週間である。

到達目標

大学在学中に４週間の長期にわたり企業インターンシップを体験することで、仕事をすることの意味や意義を理解するとともに社会人として求められる主体性、行動力、課題発見力やコミュニケーション能力を身につけることを到達目標とする。

期間／スケジュール

第1週　平成30年2月19日（月）～平成30年2月23日（金）
第2週　平成30年2月26日（月）～平成30年3月2日　（金）
第3週　平成30年3月5日　（月）～平成30年3月9日　（金）
第4週　平成30年3月12日（月）～平成30年3月16日（金）

成果と課題

多くの学生が漠然としたイメージしか持っていない「社会、仕事、企業」などについて、具体的な姿がインプットされた事が最大の成果としてあげられる。当プログラム参加により、学生は企業や仕事が多くの人間のコミュニケーションの上に成り立っている事や責任感の重要性、日々の仕事はどのように進められているかを学べたと報告している。これらの内容は企業の現場に携わった事により初めて実感できた事柄であり、大学生活の中では多くを得られない果実だったと言える。

また今現在の知識や知見の少なさや自らの発信力の不足を感じた学生も多く、今後の大学生活の中でそれらを意識して過ごしたいとの思いを持つきっかけとなった。

当プロジェクトでは研修先企業により業種や実際の業務にかなりの幅があり、事前事後に統一感を持って具体的な目標や成果を共有する事が難しい面がある。ただし逆の見方をすると多岐にわたる領域への認識を共有することが出来るのはプラスと考えられる。

所属学部学科 | 服装学部　ファッション社会学科

研修先企業名

アッシュ・ペー・フランス株式会社

履修の目的･目標

このインターンシップのプログラムを履修した理由はいくつかあります。
まずは実際にファッション企業で働くとはどんな事なのかを体感したいと考えたからです。体感して､将来の就職に当たって必要なスキルは何かを知ることによって、残りの２年の学生生活で準備ができるという考えでした。

次に日本の企業文化を知りたいと考えました。日本の文化は母国の文化と違うので、企業文化も大分違うと想像していました。この理由から、日本の企業文化を現場で理解したいと思いました。

最後は、インターンシップの経験は就職の際に役立つと考えたからです。

研修で最も印象にのこったことについて

研修で最も印象に残ったことは、ECサイトの注文商品の取り寄せ店舗を決める際の考慮です。最初に教えていただいたのは、取り寄せ優先店舗の資料を見て決めるとのことですが、在庫が足りなかったりすると簡単に決めることができません。その際は社員の方が色々考えて決めます。一度なぜこの店舗が良いのかと伺うと、時間と距離の他に、店舗それぞれの事情も考えないといけないとのことでした。最初は在庫の状況を確認するだけでしたら、取り寄せ店舗を決めるのはパソコンに任せても良いかもしれないと思いましたが、店舗の方々と話して、店舗の事情を知って、決定に取り入れられるのは、人間しかできないと感心しました。

研修を通して気づいたこと･学んだこと

研修を通して気づいた事は主に２つがあります。

一つ目はエクセルのスキルが大事だという事です。EC担当の方の元で仕事を体験させていただいていたので、エクセルで仕事することが多かったです。社員の方がうまくエクセルを活用して仕事された姿を見て、エクセルはこんなに役立つと初めて体感できました。データ分析などをこなすにはエクセルが大事です。

二つ目はコンミュニケーション能力の大事さです。オフィスにいた時に、いつも社員の方々が社内社外の方と電話しているのを聞いていました。仕事を進めさせるには、社内社外の方々の協力が必要で、協力して頂くにはまず自分からうまく事情を話したり、要求を伝えたりしないといけないと思いました。

今後の学生生活に生かしたいこと

プログラム参加を経て、これから自分が力を入れたいことにいくつか気づきました。色々な企業研究をしかっりすること、色々なソフトのスキルを身につけること、コンミュニケ-ション能力を高めることです。

研修の事前にネット検索などを通じて企業研究をしましたが、実際に企業で働いて、社員の方々と触れて、店舗見学もした後に、やはりその企業のことはネット検索だけでは知り切れないと気づきました。したがって、これからの就職活動に備えてもっと多様な方法で企業研究をしたいと思いました。

ソフトをうまく使うことは仕事を効率よくするのに役立つので、就職する前にもっと身につけたいです。

自分は人見知りと、外国人として日本語で話すのが恥ずかしいと思いがちですが、仕事現場で得た経験からコンミュニケ-ション能力は重要だと体感しました。語学だけではなく、話し方や話す際の自信なども関係あると思いましたので、これからはそちらに力を入れたいです。

所属学部学科 | 服装学部　服装社会学科

▶ 研修先企業名

株式会社ナルミヤ・インターナショナル

▶ 履修の目的･目標

アパレル関連、特に販売に興味があり、就職する上でも販売の経験が必要だと考えていましたが、未だ経験がなかったため履修を決めました。また一か月という長い期間のインターンであるという点も魅力がありました。座学で言葉で学ぶだけではわからない販売員の仕事内容、接客での意識、体力面などを肌で感じ、就職してからの自分の活動に生かすことを目的としました。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

初めの声かけからお包み、お会計まで私が接客をしたお客様とのことが最も印象に残っています。そのお客様はお友達の２人目のお子様のご出産祝いにプティマインのお洋服をプレゼントしようと決めてくれていました。最初にその子が普段着ているお洋服のイメージや色味をお聞きして、持ってなさそうな形にしようとワンピース型に決めました。次にあまりブリブリしていない方が良いという意見で形は可愛らしいけれど色がシンプルなものを提案し、その中からボーダーのものを選びました。それだけでは予算よりも少ないので、定番であるスタイ、ファーストソックスとのセットをおすすめし、ピンクとネイビーで統一感を出したコーディネートになりました。プレゼント用のラッピングも担当させていただき、最後に「お姉さんと一緒に選べて良かった」というお言葉をいただきました。その時に初めて接客を通じてお客様の役に立てたと思い、感動しました。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

まず、販売が想像以上に体力のいる仕事だと感じました。8時間常に立ちっぱなしの状況を経験したことがない私は慣れるまで本当に辛かったです。忙しい土日などは接客ができるのでまだ辛さは感じませんが、平日でお客様が少ない時はひたすらおたたみをするのみになるので脚の疲労を感じやすかったです。次に、販売員の方々は常にお客様第一で物事を考え、動いているのだと感じました。例えば言葉遣いの丁寧さ、笑顔といった当たり前のことはもちろん、ラッピングをする時に洋服の配置を「こうしたら可愛いんじゃないか」と常に考えて、なおかつ手早く綺麗に仕上げていたり、小さなことを大事にする姿勢が素敵だと思いました。「こうしなきゃいけない」というマニュアルで動くのではなく、どうしたらお客様が喜ぶのかを販売員それぞれが自分で考え、喜んでもらえた時に嬉しいと思える気持ちが接客をする上では必要な気持ちなのだと感じました。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

今後販売員になった場合に具体的に改善したい点は、お客様へのファーストコンタクトを自分から積極的に取りに行くべきだったところです。自分がお客様の立場になった時にしつこく話しかけられることが嫌だったので、お客様から聞かれるまで声をかけるタイミングがとれないでいました。しかし先輩方が話しかけるとそこから接客が始まる場面が多くあったので、次は軽くでも声をかけて話しかけやすい雰囲気を作りたいと思います。意識の点では、仕事をネガティブに捉えずにポジティブに思うことです。お客様との会話を楽しんで､時には友達のような存在でいることも大事です。マニュアルに縛られず、お客様が喜ぶと思うことを実行する姿勢を持っていれば、自然と売上げにも反映されていくと思いました。これから私自身が客の立場である時に自分が接客を受けて嬉しかった、不快に思ったという経験をその都度振り返り、分析して自分の就職後に生かしたいと思います。

所属学部学科 | 服装学部　ファッション社会学科

研修先企業名

アッシュ・ペー・フランス株式会社

履修の目的･目標

今回入学式を終えた後にこのプログラムの存在を知り、学内で学べることも沢山あるが、実際に足を運んで身をもって感じることの出来る良い機会であったので、早い段階から将来への道を明確にするため参加した。幅広く広がるアパレル企業の実態を知ることで、今後の大学での講義をより学びやすくし、高い意識を持つきっかけにする。

研修で最も印象にのこったことについて

今回「H.P.France」でアパレル小物を扱う部署でプレスアシスタントを経験した。印象に残ったことは、仕事を行うにあたっての責任感や高い意識を持つことの大切さと、人に伝えるプレゼンテーション能力の必要性である。プレスや商品部は顧客と直接的な関わりはないが、デザイナーさんとお客さまとをつなぐ重要な部署である。その為、移り変わる流行やお客様の消費傾向、商品の知識など新しい状況にアンテナを張る意識を持ち続けることがとても大切になる。また、自社のブランドを扱っていただく為にプレゼンテーションが不可欠であり、アイテムのよさや特徴をお客様のニーズにあわせて紹介をする機会が多い。その際に、相手の心をつかむ言葉のチョイスや言葉のレパートリーを沢山持つことが、伝わりやすいプレゼンテーションに結びつく。このふたつのことは、今後仕事だけでなく人生でも使える大切なことなので、今回体得した考えを大切にしていきたい。

研修を通して気づいたこと･学んだこと

今回のインターンシップを機に知ることが出来た「H.P.France」。アパレル企業というと、普段良く足を運ぶLUMINEやティーン誌に掲載されるブランドのイメージが強かった私にとって、ヨーロッパを中心集めたブランドのアパレル小物に携わることはとても新鮮だった。クオリティの高いジュエリーやバック、シューズに囲まれることで意識も変化し、アパレル小物の魅力に気づくきっかけにもなった。また、さまざまなブランドから、フェミニン・ガーリー・クール・ロック・ナチュラルなど多種のテイストを取り扱っている為、自分自身の感性が広がったように感じた。プレスという職業は、販売職とちがって固定のお客様と長い間関係が続いていくので、縁を大事にコミュニケーションをとることが大切であることが分かった。一週間に５日間働くということは、とても大変であったが、その反面仕事をする上では時間が足りないようにも感じた。

今後の学生生活に生かしたいこと

今回１学年からこのようなインターンシップに参加できたことは、これからの学校での学びや就職を考えるにあたって、とても有益なものになった。実際に足を運ばなければ分からないことや、感じることの出来ないことは沢山ある。これからの大学生活はもちろん、人生においても早すぎる経験というものはないと思うので、積極的にものごとに取り組みたいと思う。具体的には、今回プレスを経験して商品部や営業部の仕事への興味が強くなった為、ファッションビジネスについてや、社会のファッションに対する消費行動などをより深く大学の講義を通して学んでいきたい。また、アパレル小物のことに興味を持つことが出来た機会なので、洋服だけでなく小物のことも学んでいきたい。

所属学部学科 | 現代文化学部　国際ファッション文化学科

▶ 研修先企業名

株式会社スクロール

▶ 履修の目的･目標

私がこのプログラムを履修した理由は、1年生という早い時期にインターンシップに参加することで、ファッション業界にはどのような仕事があり、どのようなことをしているのかを知りたいと考えたからです。また実際に働いている方に話を聞き、仕事を体験することで、どのような知識や技術を身に付けておくべきなのか、残りの３年間で何を学び、どう過ごしていくかを考えたいと思ったからです。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

私が行ったのは、カタログに掲載される洋服の企画を行なっているユニットでした。使用する生地やデザインが決まると、サンプルが上がってくるのですが、そのサンプルの検品がとても印象に残っています。検品というと、縫い目が綺麗か、サイズは合っているかなどを確認するというイメージがありました。しかしそれだけではなく、実際にサンプルを着用し、動きやすさや肌触り、シルエットなどの確認をしていました。私は実際に着用して検品が行われていることに驚き、商品を購入するお客さんのために、細かいところまで気を使って企画を行なっているのだと感じました。また店頭で販売するのとは違い、カタログでは商品を実際に見て購入することができないため、どうすれば紙面でも分かりやすく素材の質感などを伝えることができるか、商品と紙面で色や丈感などの違いはないかなども細かくチェックをしていたことも印象に残っています。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

研修を通して、振り返りや反省の大切さを改めて感じました。打ち合わせや会議に参加させていただく機会が多かったのですが、毎回始めに前回の振り返りや反省を全体で共有していました。前回の売り上げはどうだったのか、それはなぜなのか、どのような点が良かったのかなどを話し、それを踏まえて今回はどうしていくべきなのかを明確にしてから、会議を進めていました。授業や課題などでも振り返りをする機会が多いですが、良かった点、反省点をきちんと考えることで、次に繋げていくことができるのだと思いました。また商品の企画をする際には、相手に自分のイメージや考えを分かりやすく伝えなければなりませんが、これがとても難しいことだと感じました。研修中の課題としてカタログの企画を考え、発表をしたのですが、自分が考えた企画を伝えるためには、まずは自分自身がきちんと理解をしておくことが大切だと思いました。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

今回のインターンシップの期間中に、もっと勉強しなければと痛感することが何度もありました。会議や商談などで出てきた素材の話や、ディテール、縫い方など、その度に教えていただくことが多く、まだ知らないことがたくさんあるのだと改めて感じました。また授業で習った言葉や知識が出てくることも多く､授業で教えてもらったことが実際に役に立っているのだと実感することができ、しっかりと身に付けておくためにも勉強しようと思いました。また１ヶ月間を振り返ると、想像していたよりも多くのことを学ぶことが出来たと思います。初めは不安もありましたが、１ヶ月間のインターンシップを終えて、今は参加してよかったと思っています。そのため、残りの大学生活３年間でもっと様々な事に参加し、経験する事で自分の視野をもっと広げていきたいと思いました。

所属学部学科 | 服装学部　ファッションクリエイション学科

研修先企業名

株式会社エトワール海渡

履修の目的･目標

このプログラムを履修した理由は周りの人達よりも先に社会を学んでおきたいと思ったからだ。早くやっておいて悪いことはないと思ったからである。三年生の6月頃からインターン研修が始まると思うので事前に色々なことを知っておきたいと思った。参加前にたてた目標は、流通のしくみを理解することと、どんな仕事があるのかを知ることで、実際に研修を受けて、今の自分に何が足りないのかを知り、3・4年次の学習に繋げる。

研修で最も印象にのこったことについて

会社という組織には色々な部署があって、色んな人が働いている。その沢山の人の仕事が関連していってひとつの仕事が終わっていく。色々な性格の人と上手にコミュニケーションを取っていくことが大切だという事。卸売業者も、小売店と同じように商品を管理して取り寄せて、お客さんに一つでも多くの商品を買ってもらえるように沢山の知識で接客をしたりしているということ。お客さんをお店に沢山呼び込むために、MDが企画を考えているということ。例えば、今年は黄色が流行るということで、ミモザの日に社員全員が黄色を身につけて出勤したり、ひな祭りの日には来客者全員にお菓子が配られたりと､卸売業者でも､会社を盛り上げる工夫がされていること。オープン前にお客様にドリンクを提供したり、社長を含めた社員が20人くらい出迎えの挨拶をしていたこと。毎日来るお客さんがいること。

研修を通して気づいたこと･学んだこと

どの部署でも、お店に立って接客する経験が必要だということ。新入社員はほとんど売り場配属になる。沢山の部署の人と上手く関わってコミュニケーションを取ることがとても大切だということ。１人の仕事で会社が成り立っているわけではない。小さな仕事でも会社がスムーズに業務を進めるためにはとても重要な仕事であるということ。外国のお客さんがやはり多いため、英語が話せるか話せないかは仕事を任される上でとても重要なポイントになる。多彩な能力が必要。MDは力仕事が多い。雑用のような仕事もある。色んな仕事を同時に進めていくため、スケジュール管理がとても重要。社員同士での気遣いが大切。シフト制の勤務体制は特に報告連絡相談が大事。自分のやりたい仕事だけをやっていけるわけではない。やりがいを見つけて責任を持って仕事をしていくことが大切だということ。素材の知識は身につけておくべき。

今後の学生生活に生かしたいこと

色々な人とコミュニケーションを取っていくことがとても重要だということがわかったので、学生のうちに色々なところに行って、色々な人と関わってコミュニケーション能力を向上させたい。外国の人ともコミュニケーションを取っていけるように英語を話せるように勉強したい。学校の勉強も大事だけれど、アルバイトを沢山してお金を稼いで色々な外国に言ったり、ファッションショーや展示会、美術館などに行って色々なことを経験して感性を高めたい。自分の中の引き出しを沢山増やす。接客はアパレル企業で働いていくためには絶対に通る道だと思ったので、アルバイトで接客を上達させる。

所属学部学科 | 現代文化学部　国際ファッション文化学科

▶ 研修先企業名

遠藤 波津子グループ　本社

▶ 履修の目的･目標

私は今回の梅春の国内企業研修を通して、まず、「社会にでる」ということ、また、社会に出て「働く」ということはどういうことなのか、１か月で学ぶこと。また、アパレル企業で現在働く方々から、現在のアパレル企業の現状について学ばせていただくこと。このことを踏まえ今の自分に足りないもの､ことを見つけ､今後の学生生活において自分は何を学び､何を身に着けるべきかを見つけること。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

今回の企業研修では、ハツコ　エンドウさんのウエディングのフロアで、様々なポジションの仕事について学ばせていただき、様々な仕事を経験させていただいた。主に「ポーター」と呼ばれるウエディングのスタイリストさんのアシスタントのような仕事や、「フロント」と呼ばれるお客様のお迎え、ご案内の仕事や、「物流」と呼ばれるドレスや新郎様の衣装などの補正、補強、準備などの縫製を主とする仕事の３つの仕事を学ばせていただいた。このことから、様々な視点から「ウエディング業界」を知ることができ、いかに大変であるか、また、大変であることとは逆に、いかに人のための仕事なのかを知ることができたことがとても印象的であった。「物流」で働いている方とお話をお聞きすることのできた際に、「ここでの作業一つ一つは明確な誰かのための作業であり、また、その一着一着がその人のための衣装だから、とてもやりがいを感じる。」おっしゃっていた。このことが一番印象的であった。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

様々なポジションの仕事を学ばせていただき、「ポーター」､「フロント」､「物流」の３つの視点からウエディング業界を見ることができたことから、一つの企業がどのようにして、また、どのような経過を経て、成り立っているのかを知ることができた。また、様々な視点から学ばせていただいたことから、どれだけ一つ一つの仕事、作業が大切であるかを知ることができた。一つ一つの仕事に責任を持ち､正確に､且つ素早くこなすことが大切かを知ることができた。また､これが「社会に出て働く」ということだと気づくことができた。今回はウエディングの企業で学ばせていただいたことから､ウエディング業界の厳しさを学んだのと同時にウエディング業界の素晴らしさにも気づくことができた。お客様一人一人の一生に一度しかないかもしれない人生の大イベントである「結婚」に携わることのできるこの業界は大変ではあるが、いかに人のための仕事で、いかに幸せを作り出すことのできる仕事であるかを知ることができた。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

今回ハツコ　エンドウさんで企業研修をさせていただいたことで、社会にでて責任を持つことの大切さを学んだことから、今後様々なことに挑戦する中で、きちんと一つ一つのことに責任をもって行動することを大切にしていきたい。また、お客様と接することが多く、質の良い接客を求めるお客様もいる中で学ばせていただいたことで、まず、自分には語彙力が足りないことがわかった。社会にでて恥ずかしくない言葉遣いをさらに身に着ける必要があると感じた。このことから、学生生活で今後の学ぶべき課題を見つけることができた。そして、「物流」で習ったドレスの修正の仕方など、新郎様の衣装の補正の仕方を何か今後学生生活において服を作る際に役立てていきたいと思った。また、働くには他の方とのコミュニケーションも必要だと感じたことから、目上の方などにも対応のできるコミュニケーション能力を身につけていきたいと思った。

所属学部学科 | 服装学部　ファッションクリエイション学科

研修先企業名

株式会社レナウン

履修の目的･目標

目的は大学卒業後社会人になる為の準備としてアパレル業界の雰囲気や様子を体験する、ということと、進路を考える上での判断材料を得ることだ。目標はこのプログラムで就職への不安を軽減し、落ち着いて就活に臨める心構えを養うことである。そして、大学で得た知識を活かしながらそれを現場で体験することでブラッシュアップさせ、今後の大学での学びに繋げる。

研修で最も印象にのこったことについて

アパレル業界はクリエイティブで自由なイメージがあり、また物凄く慌ただしく緊張感のあるイメージを持っていた。しかし、実際のところは飲食の次くらいに法律の厳しさに縛られている世界であることが印象に残っている。主に品質表示が年々取り締まりが厳しくなっているそうで、重要性を再認識した。また、品質表示の他に、原産国表示についてもとても厳しく取り締まられているそうで、大企業も原産国表示の誤りで国の機関から重い罰則を受ける事例があったことを知り、厳しすぎるのではないかと印象に残っている。次に、慌ただしく緊張感のあるイメージについてだが、全くの逆で穏やかで賑やかな雰囲気だった。このことには、かなり驚いたので印象に残っている。だが、歴史と繋がりの多さやレナウン特有の人の好さが起因しており、他のアパレル企業はまた違った雰囲気を持っていると思うので、興味のある企業には少ない日数でもインターンへ行こうと思った。

研修を通して気づいたこと･学んだこと

学んだことはレナウンアパレル科学研究所のように、研究所を所有するアパレル会社は希少であるということである。ほとんどのアパレル会社は品質表示決めなどは委託するか自社で兼任してしまうところが多いそうだ。また、品質検査において価格帯が高いほど厳しいという認識だったが、実際は百貨店よりユニクロやしまむらのほうが厳しいというのが現状だと聞いた。アパレルは商品の値段ではなく、企業が検査にかけるお金をどれだけ所有しているかが関係してくるのだなと学んだ。また、商品検品検査を三週間行ったので、その中で検品方法を学んだのは勿論、生地や組成、芯地、副資材に至るまで学校では勉強出来ない既製服について学ぶことができた。また、既製服がどの様な流れを経て消費者のもとにわたるのか、どれだけの機関や人が関わって作られていくのかも学んだ。また、今回インターンで学んだことで自分の考えが変わり、目標もより具体的になった。

今後の学生生活に生かしたいこと

まず、アパレル科学研究所で説明していただいた機器は三年次自分の行くコースで必ず使用するのもなので、新学期からすぐに生かせる知識だと思う。また、衣料管理士の資格だけでなく縫製技能検定を取得していると技術職に就く場合とても有利だと教えていただいたので、今後の勉強に生かしたい。インターンで沢山の資料を頂いたので、それも今後の勉強及び作品作りに生かせると思う。また、社会を体験したことで、自分が何を仕事として生きていきたいか、今不足していることが明らかになった。よって、より明確に目標を立てるために生かせると思った。社員さんにアパレルの技術職の人や、専門学生は焦る人が多いが必要なことを自分のペースで向上心を忘れずにやっていれば大丈夫と言われ、少し安心したので、この言葉を今後の学生生活で忘れずにいきたい。

所属学部学科 | 服装学部　服装社会学科

▶ 研修先企業名

株式会社スクロール

▶ 履修の目的･目標

インターンを終わったあとに就活が始まる頃だったので社会人としての礼儀や仕事とはなんなのか、または自分は将来何をしたいのか、じっくり考えたかったので履修いたしました。今回行かせていただいたのが通信販売業界だったので、現代の社会にとってどのような影響があり、今後のビジネスがどのように展開していくのか、経験しながら学ぼうと思いまいました。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

ショーツを作らせていただいたことです。下着メーカーさんの訪問の際に身生地からレース色まで好きな組み合わせでデザインを考えてきてくださいと言われて作らせていただきました。テーマも自分の中で決めて春らしいデザインにしてみました。私のためだけにやっていただいたので感謝しかありませんでした。色合いもすごく悩みましたし、肌着なので使う副資材なども学ばせていただいたのでファンデーションを深く学ばせてもらいました。あとは展示会にも同行させていただいたので、ファブリックのトレンドや機能性にこだわったものを実際に拝見することができ、貴重な体験ができました。会社の雰囲気もすごくよく、優しい方が多かったので、違う部署の方ともお話しする機会があり、人生経験の話などためになることも聞かせていただきました。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

会社や組織は一人の人間だけではなくたくさんの繋がりがあって構成されているのだと分かりました。私は企画の部署にいたのですが、その商品を仕入れる人やカタログの構成をする人など様々な角度から見て商品ができたり紙面に掲載しているのだと経験して分かりました。それに伴いコミニュニケーションは本当に大切だと気付かされました。実際に連絡していなかったために在庫の誤差があったりお客様にご迷惑をおかけしてしまったので、お互いがなんでも言い合える関係ではないと成立しないのだと今回の件で分かりました。またインターン先の方々がとても親切で面倒を見てくださったので私も周りに気配りができる人間になりたいと思いました。経験だけではなく人としても尊敬できる要素こそが社会人として必要なのかなと思いました。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

もっと自分の意見を言ったり思ったことを言えるようになりたいと思いました。最初にお世話になる方から何でもいいから思ったことを言ってねと、言われたのが印象的で、何でか分からなかったのですが、インターンで研修していく中で自分から発信しないと評価や何をやりたいのか伝わらない事が分かりました。何でもいいからそれがビジネスのヒントにも繋がると思いますし、失敗してもいいからやり遂げる事が大事なんだと感じました。学校生活ではゼミ活動で論文を読んだり卒論制作があり、テーマが自由なので悔いなく自分なりの考えを述べたいと思いました。就活においても自分にしかない強みや学校生活で得たことを武器に使えるように努力していきたいです。

所属学部学科 | 服装学部　ファッションクリエイション学科

研修先企業名

株式会社サードオフィス

履修の目的･目標

私が今回このプログラムに参加した理由は、まず、4週間インターンシップをすることで会社という組織を知り、社会人としてのマナーやルールを身につけるためです。そして、アパレルの企業でインターンシップをすることで、この2年間で学んだデザインから縫製までの過程が、実際に企業ではどのように分担され、また、それらの分担された仕事が具体的にどのようなものなのかを自分の目で見て、知り、自分の適性を知りたかったからです。また、インターン先の企業がOEM・ODM企業だったので、OEM・ODM企業の仕組みと役割、他の企業形態との違いを理解することを目的としました。それらの達成のために、私は、出来るだけ多くの業務に同行し、出来る仕事は責任を持って任せてもらい、疑問に思うことは質問するということを目標としていました。

研修で最も印象にのこったことについて

この研修で最も印象に残ったことは、1つの商品が商品としてお店に並ぶのにかなり多くの時間がかかり、多くの人が関わっているということです。私がこの2年で学んだ洋服作りは量産ではなく、全て自分1人で、1つの作品を仕上げる形だったので、自分の好きなデザインを好きな素材で、思いのままに作ることができました。ですが、量産の現場では、まずデザイナーさんが顧客のニーズに合ったデザインをして、それをパタンナーさんがトワルで組み立て、何度か修正をして仕様書をおこすところから始まります。その後は、日本のアパレル企業では、多くが海外の工場で生産するため、取引先の工場さんにサンプル作成の依頼をし、サンプルが届き、修正を繰り返し、ようやく量産のパターン、縫製方法、生地、副資材が決まり、量産へと流れていき、1つの商品に多くの人が携わります。そして、そこで私は工場さんとのやり取りの難しさを感じました。こちらが指示した仕様書の通りに縫製できていなかったり、始末の方法が間違っていたりと、細かく指示しないと伝わらないことも多く、また、海外だとコミュニケーションも難しく、行き違いになることも多いからです。1つ1つの商品が市場に出るまで、これだけ多くの人が関わり、時間もかかっているのだというのが実感でき、量産の現場を知ることができて、印象に残りました。

研修を通して気づいたこと･学んだこと

今回学んだことは、企画いわゆるデザイナーさんのお仕事がデザインをするだけではないということです。今回企画職のインターンシップをうけて、企画の具体的な仕事内容を知ることが出来ました。私はインターン期間中によく、「これと似寄りの生地を探して」と頼まれることがありました。これは、例えば日本の生地問屋の生地でいいものがあったとき、日本の問屋だとコストがかかってしまうため、中国の生地で似ているものを探して、代用するということになるのですが、このようにデザイナーさんはコスト面でもどの生地、副資材を使えば価格を抑えることができるのか、考えるのも仕事の1つだと初めて知りました。とくに、私がインターンさせていただいた企業さんはOEM・ODM企業だったので、よりコストにシビアでお客様のブランドの価格帯に合ったものをさがさなくてはいけませんでした。デザイナーさんの仕事は、ただ、デザインを考えるということではなく、その後の素材、副資材選びと細かい仕様やどんなパターンにするか、場合によっては縫製仕様書を作成することもあり、幅広い知識が必要なのだとわかりました。

今後の学生生活に生かしたいこと

今回のインターンシップをうけて、今まで将来どんな仕事に就きたいか、そもそもアパレル企業の仕事にどんなものがあるのか、というぼんやりしていた部分がより明確になったと思います。4週間企業へ通うことで社会人としてのイメージもわきました。そして、今回何より感じたことは学生のうちに色々なことを経験して、知識を身につけておくべきだということです。デザイナーさんになるにしても、パタンナーさんになるにしても、より多くの知識があったほうが良いと思ったからです。私は今回、企画職のインターンシップだったため、19FWの商品マップをつくるという課題をいただいて、取り組んでいましたが、デザインをするにしても、実際に商品化することを考えると、細かな仕様や生地、パターンなどたくさんのことを考えなくてはならず、自分の知識不足に悩まされました。そして、1、2年のときに学んだことを教科書で復習する機会にもなりました。実際に仕事を経験してみないと必要な知識が何か分からず、なにを勉強すればいいのか分かりませんが、今回インターンシップを経験して、必要な知識が何かというのを知ることができたので、3年次ではそれを頭に入れて授業や実習に取り組みたいです。

所属学部学科 | 服装学部　ファッションクリエイション学科

▶ 研修先企業名

株式会社エトワール海渡

▶ 履修の目的･目標

私がこのプログラムを履修した理由は、3年生からのコース選択や将来の夢を考えるきっかけになればいいなと思ったからです。私はまだファッション業界のなかでどのような職種があるか全て把握できていません。なので、このプログラムを通して少しでも把握し、3年生前にインターンという貴重な経験を活かして自分に合ったコース選択をすることが目的です。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

私が印象に残ったことは、ホームウェアディスプレイをすることです。ホームウェアではミモザカラーを使ってマネキン2体をディスプレイさせていただきました。検証の結果、コンセプトであった黄色のトップスとスカートが売れていたのでとても嬉しかったです。ですが、お客様の年齢層や好みを考え商品を選ぶことに苦戦しました。 2つ目は、商品部の商談に同席させていただいたことです。私は今までどのようにして1つの商品がつくられているのかわかりませんでした。しかし商談に同席し、その商品ができる過程の一部を見ることができました。お客様はこの色が欲しいと言っていたからこの色を出そう、去年はこれが売れていたからこのまま出そう、この色にチャレンジしようなど、お客様の求めている商品を産み出す仕事にとても興味を持つことができました。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

印象に残ったことから学んだこと、気づいたことがあります。ディスプレイをした際に、POP作りをしました。1つ1つの商品を言葉で説明する難しさを知りました。風合いや見たままのポイントを書けばいいだけなのに、それを分かりやすく言葉にして伝えるのがこんなにも難しいのかと思いました。写真や文章だけで商品をイメージさせ、これがほしい！と思わせるためには、もっと雑誌を見てボキャブラリーを増やさないといけないなとおもいました。また、インターンに参加する前は卸売りがどのようにされているのかわかりませんでしたが、参加してから流通を理解することができました。そして、エトワールさんに来店するお客様は消費者ではなくプロの小売業者なので普段のお店との接客の違いがありました。 普段のお店では消費者のために洋服を選びますが、エトワール海渡ではお客様（小売業者）の消費者が好むものを理解した上で接客していることを気づくことができました。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

このインターンを通して漠然ではありますが、自分がこれから何を学びたいのか、何に興味を持ったのか理解することができました。それを自分自身で知れたことがこのインターンの中で最も大きなものだと思っています。それを学生生活に生かしてもっと追求していきたいです。 そして､これからはもっと広い視野を持って物事を見ていきたいと思いました。ファッションに関係している仕事はまだまだ沢山あります。なので､少し違った風にファッションに関わっているインターンにも積極的に参加していきたいです。 また、社会で働く空気感や周りの社員さんの雰囲気を経験し、働くことについて考えるきっかけになりました。社員さんと接する時間が長く、会社で働くことの基礎も身につけることができたのでとても貴重な経験になりました。 この1か月間の経験を活かして今後の自分の将来に繋げていきたいです。

〈梅春〉ブリスベン研修

語学研修&スタディツアー

授業概要

文部科学省大学教育再生加速プログラム（AP事業）である長期学外学修プログラムとして実施する。後期試験終了後から春期休暇までの4週間にわたり海外学修を体験する。TAFE QUEENSLAND BRISBANEにて、英語研修、ワークショップ、講義、異文化交流、課外授業などに取り組む。言語は、すべて英語となる。

到達目標

本学の長期学外学修プログラムはコミュニケーション力、伝統・文化理解力、グローバルキャリアデザイン志向をもった「グローバル創造力」の育成を目的としている。4週間にわたりTAFE QUEENSLAND BRISBANEにて、英語によるコミュニケーション力の向上、異文化の理解深耕などを図り、今後ますます進展するグローバル化社会において、ファッションを中心とした分野で発揮できる能力を養成する。

期間／スケジュール

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
Date							18-Feb
							ブリスベン到着
Date	19-Feb	20-Feb	21-Feb	22-Feb	23-Feb	24-Feb	25-Feb
	General English	General English	General English	General English	General English	Free Time	Free Time
Date	26-Feb	27-Feb	28-Feb	1-Mar	2-Mar	3-Mar	4-Mar
	General English	General English	General English	General English	General English	Free Time	Free Time
Date	5-Mar	6-Mar	7-Mar	8-Mar	9-Mar	10-Mar	11-Mar
Morning	Lecture	Lecture	Field Trip	Kimono workshop	Kimono workshop	Free Time	Free Time
Afternoon	Lecture	Lecture		Kimono workshop	Kimono workshop		
Date	12-Mar	13-Mar	14-Mar	15-Mar	16-Mar	17-Mar	18-Mar
Morning	Lecture	Lecture	Field Trip	Lecture	Free Time	Free Time	ブリスベン出発
Afternoon	Lecture	Lecture		Lecture			

成果と課題

前半の英語研修と後半の英語での講義とで構成されたこのプログラムにおいて、履修学生に英語力の必要性とその不足を実感させることができた点は成果といえる。

プログラム実施の面からは、事前研修による開講目的の説明や学びへの動機付け、事後研修による活動内容の振り返りや議論でえられる体験の相対化は、現地での研修内容をより有益なものとするための工夫となりうることが確認された。また、2週間の英語研修プログラムを、余裕をもって一日4時間で構成したことが、残りの時間を現地での生活に慣れさせ、さらに学生の自発的な行動へとつながった。これは、来年度以降のプログラム運営を円滑化するための知見と考えられる。

一方で、事前研修によって、現地での研修に対する学生の意識付けをより明確にすることが課題として残った。滞在先の状況に対して不満を述べる学生がおり、このプログラムが観光ではなく、学外学修であるという点への理解が不徹底であったと言わざるを得ない。来年度以降は、この点について事前教育等によって、繰り返し伝える必要がある。

所属学部学科 | 服装学部　ファッション社会学科

▶ 履修の目的･目標

英語力を上げたいです。また、オーストラリアと日本の生活様式の違いや服装に対する考え方の違いを見て異文化を理解したいです。3年次のゼミ等で海外との違いなど、留学の経験を生かして別の視点から見れるようになりたいです。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

私がこの研修で1番印象に残ったことは語学学校での授業です。

英語の授業を英語で受けるので初めはとても緊張していましたが、先生もクラスの友達もみんなすぐに打ち解けることができたので、毎日楽しく通うことができました。

語学学校なので私たち以外も英語があまり得意ではない人が多いため、話しやすい環境で、安心しながら多くを学ぶことができました。

授業では主に教科書を使い、日本と同じように問題を解くとゆう感じでした。他にもみんなでゲームをしたり、日本のスポーツの紹介をしたり、他の学生の母国について知ったり、いろんな授業がありました。同じクラスの学生とは放課後に一緒にお昼を食べに行ったり、連絡を取り合って休みの日に一緒に出かけたり、たくさんの思い出ができました。クラスのみんなと先生全員でバーベキューをしたのがとても楽しかったです。語学だけではなくコミュニケーション力も身につきました。友達や思い出がたくさんでき、いい経験だったのでよく印象に残っています。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

この研修を通して気づいたことは、自分の意見を伝える大切さです。日本人は自分の意志をあまり主張できないように感じます。オーストラリアで1ヶ月過ごしてみて､オーストラリア人に限らず外国の人はみんな自分がどうしたいかをはっきり言うし、嫌なものは嫌だと言うし、言わなければ分からないのは当たり前だと改めて思わされました。また、授業に参加していても先生が話す合間にいろんな生徒が質問をしたり、提案をしたりしていてみんなで参加して授業を作っているというイメージでした。自分の意見を言うことに恥がなく、そこが日本人との違いであり、いいところであると学びました。服飾の学校での研修では、語学学校とは違い周りは英語が話せるとゆう環境なので理解できない部分が多く、少しめげそうになりましたが、より自分の意志を伝える大切さに気づくことができました。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

まずは英語力を高めるという目標ができました。自分は話すことが1番苦手なので、会話がスラスラ続くよう語彙力をもっと増やすこと、自分のことについて詳しく説明できるようになることを中心に高めていきたいです。そうすればもう一度海外に行った時にもっと自信がついて会話も何倍も楽しくすることができると思いました。また、同じ服飾を学ぶ学生を見て縫製やテキスタイル、マーケティングや歴史など幅広く勉強している姿に刺激を受け、自分も服飾の視野を広げたいと思いました。また、それを見て自分の服飾に関して興味のあるものの幅が広がったと感じました。たった1ヶ月ではあるけれど海外で過ごしたという経験を自信にして、相手に物事を分かりやすく伝えるために自分から進んでコミュニーケーションをとったり、意志をはっきり伝えることを目標にしたいです。また、これらが自分のキャリア形成に結びつくよう自分の意思表示がはっきりしたプレゼンテーションや分かりやすい資料など、人に伝わるものを作成したり話す努力をしていきたいです。

所属学部学科 | 現代文化学部　国際ファッション文化学科

▶ 履修の目的･目標

小学生の時から英語(外国)が好きで、進んで触れてきました。語学はもちろんその国の文化や街や自然などにも興味があり、今回の研修のチャンスを生かし、この国の衣食住、風景、建築、街並み、植物、動物、人々、娯楽など様々なものできるだけ全てに触れて勉強していきたいです。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

今回の研修先オーストラリアのファッションについて。

第一にオーストラリアの温暖な気候が(特に今回滞在した夏の期間は)関係していると思うのだが、向こうの人たちは普段は、日本に比べてとても簡単でカジュアルな服装をしていました。男性も女性もハーフパンツにタンクトップやTシャツ、もしくは女性ならワンピース(ノースリーブ)というのがほとんどで、普通丈のパンツは２割、長袖トップスは１割という感じでした。

また、ちょうど開演されていたミュージカルを観に行ったのですが、日本では舞台を観に行く際、確かにおしゃれはしていくかもしれませんが基本は普段着で気楽に行ける場所だと思います。実際にほとんどの人が普段着だと思います。しかし、オーストラリアの人たちは舞台を観に行くのにドレスアップをしていきます。ここでも強制ではないので、もちろん普段着(といっても整えた服装)で観に来る人もいます。ですが女性のドレスアップに関しては、ダンスパーティーや表彰式に着ていくような服装がほとんどであり、日本ではなかなか見られない光景だと思います。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

ネイティブの人と自然な会話をするのは、今回の研修でほぼ初めてでした。話していることや伝えたいこと、どのように話せば良いか(文法)などは分かるのですが、実際に今会話になると、やはりすぐに答えることができなかったりします。知っている単語数が少なかったり、知っている単語でもすぐに思い浮かばず言われてから『そう、それだ』と思い出したりということが多かったです。“会話”の流れ(速さ)に慣れていけば少しは改善されるかもしれませんが、単語の知識数がやはり問題の一つです。

また日本の人たちの性格と外国の人たちの性格と、その違いについてもともと知ってはいましたが、日本は“うなずき(相づち)”“どちらでも良い(という考え)”が多く、逆に外国は“I seeやI understand”“私は○○がいい”などはっきりと言葉に出して反応していたことが記憶に残っています。実際、うなずき(Uh-huh)や日本の反応である“あ～あ！”などした時にも、ちゃんと“Are you understand?”と聞かれたこともありました。

自分の意見を言葉にして、しかも曖昧でなくはっきりと意志を持って表す、日本人には少ない(と思います)ですが、当たり前な大事なことの一つだと思います。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

今回の研修で出会った人々、仲良くなった友達はみなコミュニケーション力が高く、積極的に話しかけてくれました。私は話を広げるのが苦手で、話すことが終わればそこで会話が止まってしまい、続かなくなってしまうことがたまにあります。また、今回の場合、慣れない英語での会話もあって次の言葉、話題が出てこず、詰まってしまうこともありました。普段の生活の中でももちろんそうですが、外国からの旅行者などで話す機会があれば、積極的に触れ合いたいと思っています。

そのためにも、簡単な会話でも完璧に話せるようにするため、さらに会話を続けられるようにするため、英語の授業も続けていきたいし英語の会話(ネイティブ)をテレビなりCDなりたくさん聞こうと思っています。また、毎日英語に触れることで一日に一つ二つでも新しい単語を確実に覚えていきたいです。2020年には東京オリンピックでさらに外国からの来訪者が増えると思われるので、それまでになるべく英語に慣れ、道案内や店の紹介などに関われたらと思います。

所属学部学科 | 服装学部　ファッション社会学科

▶ 履修の目的･目標

私は元から留学に行きたいと思っていて、学校のプログラムで行けるのなら少し安心して行くことができるので履修しました。1ヶ月という短い期間の中で、英語を上達させることは難しいことかもしれませんが、日本に帰って来た時に映画で言っていることが何となく理解できるようになったり、日本にいる外国人を少しでも手助けしたり今よりも英語に触れる機会を自主的に増やして行けたらいいなと思っています。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

研修で最も印象に残ったことは、アラジンのショーを観たことです。アラジンのショーを観て歌や衣装、物語などで楽しむことが出来た反面、理解できない部分もあったりと自分の英語力を判断できるものでもありました。役者のセリフが聞き取れなくて理解出来なかったり、ネイティブの感覚ではないので、現地の観客が笑っている意味が分からなかったり、ミュージカルを純粋に楽しめずに悔しかったです。日本でミュージカルを観ても楽しいだけで悔しい経験はすることがないので、海外のミュージカルを観たという貴重な経験をしたのに加えて、もっとミュージカルを観て楽しめるようになれるくらいの英語力はつけようと、改めてもっと英語の勉強の大事さを実感する出来事の一つになりました。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

研修に行く前は、英語も喋れないし現地で友達ができるかとても不安でした。しかし、意外と簡単に友達ができて一緒にランチに行ったりディナーに行ったりできました。友達を作ることに、言葉はそんなに重要なことではないんだなと気づきました。自分たちが言葉に詰まっていたら出てくるまで待ってくれるし、逆に相手が言葉に詰まっていたら理解しようと努めてちゃんとコミュニケーションをとることが出来ました。Mt.Gravattキャンパスでは、先生方も英語が理解できる生徒にする授業前提なので、話すスピードが速くて聞き取れなくて、もう分からなくてもいいと諦めていましたが、途中で海外で英語に触れる機会があるのに、分からないことをそのままにしておくのはすごくもったいない気がして、嫌な顔をされても分からなくても自分が理解できるまで聞くことが大事だと思いました。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

留学に行って、自分はリスニングとライティングはできても、スピーキングは苦手な事が分かりました。リスニングもできたとはいえ、ネイティブの人はやっぱり話すのが速くて、聞き取れない部分がたくさんありました。小中高校ではリスニングとライティングはよく教えられてもスピーキングを練習する機会はあまり無かったように思います。私は英会話に通っていたので、他の人よりは練習する機会はありましたが、やっぱり実際には話せなくて短い間で悔しい経験を何回もしました。私の課題は、会話していくうえで過去現在未来の文法がパッて出るようになること、会話内での間違いを恐れないこと、分からないことがあったら聞くことだと思いました。私は、日本にいる間も分からないことがあってもすぐには聞かずに先延ばしにしてしまったり、すぐに諦めることが多々ありますが、改善するべき点を見つけることが出来ました。スピーキングの力をつける為に、英会話には最低でも週3回通い、まずは外国人と英語で話すという状況に慣れていく事が大事だと思いました。英語で話す状況に慣れてきたら、もっとスムーズに英語で会話ができるように単語を覚えたり時制がすぐに出てきたりできるようにしていきたいです。

〈梅春〉香港研修

語学研修&スタディツアー

授業概要

文部科学省大学教育再生加速プログラム（AP事業）である長期学外学修プログラムとして実施する。後期試験終了後から春期休暇までの4週間にわたり海外学修を体験する。Hong Kong Design Instituteにて、英語研修、ワークショップ、講義、異文化交流、課外授業などに取り組む。言語は、すべて英語となる。

到達目標

本学の長期学外学修プログラムはコミュニケーション力、伝統・文化理解力、グローバルキャリアデザイン志向をもった「グローバル創造力」の育成を目的としている。

4週間にわたりHong Kong Design Instituteにて、英語によるコミュニケーション力の向上、異文化の理解深耕などを図り、今後ますます進展するグローバル化社会において、ファッションを中心とした分野で発揮できる能力を養成する。

期間／スケジュール

第1週：HKDIでの講義
第2週：HKDIでの講義
第3週：語学研修(Q-Language)　／　フィールドワーク
第4週：語学研修(Q-Language)　／　フィールドワーク

成果と課題

履修学生が2名で開講したが、少人数であったため、各学生がそれぞれ細かな目的を設定し、研修に参加したことで、本プログラムが主体的な学びの重要性を体感する機会となりえた。また、そのうちの1名は、服装学部ファッション社会学科のグローバルファッションマネジメントコースに進み、3年次後期の長期学外学修プログラムにも参加することが決定しており、グローバル創造力の涵養へのステップとしての「気づき」を提供することができたことは成果といえる。

一方で、少人数過ぎたため、プログラム実施にあたり、受け入れ機関であるHong Kong Design Instituteとの調整が難航した。結果的に、各学生の英語力や関心に沿った形でプログラムを設定し実施したが、年度を超えたプログラムの改善・改良のためには、継続的に同様のプログラムを実施する必要があると考えられる。本年度の反省を踏まえ、2018年度は、最低開講履修者数を10人に設定し、開講に際しては2019年度以降も持続可能なプログラムで実施する必要がある。

所属学部学科 | 服装学部　ファッション社会学科

▶ 履修の目的･目標

このプログラムをとった1番の理由は語学力を身につけたかったからと、コミニケーション力をつけ外国の友達を作りたかったからだ。参加する前にあたって1番の目標にしたのは語学力の向上だ。自分はwritingとspeakingの力がない。どうしてもまだ恥ずかしがって言えなかったり間違っていたらどうしようと思ってしまうところがあるため、向こうの人と積極的に話すことによってちゃんとした英語ではなくてもつまらないで言えるようになりたい。それをできるようになればコミニケーション力も身につくと思う。あと、香港は植民地だったため日本との違いがたくさんあると思うから、博物館や街をたくさん散歩して風習や文化に触れていきたいと思う。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

私が研修を通して印象に残ったことは、HKDIでの授業だ。HKDIに2週間通い英語のクラス、ファッションイメージ、ファッションビジネスなどの授業を受けた。その全ての授業では英語が使われていて英語の勉強にもなるし、人数も少人数だったから先生との距離も近く、すごく学びやすそうだと感じた。ヘアメイクアップ専攻の子達は課題で自分たちでモデルを探してメイクをして撮影した作品を見せてもらってすごく楽しそうだと思った。インタビューをするときも音声、撮影係、インタビュアーと役割もきちんと分担していて年下の子達なのにしっかりしていて圧倒された。HKDIは専攻しているものに特化している授業ばかりだと感じた。文化にはないような授業ばかりで新鮮だった。通ってみたいと思える学校だった。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

一番学んだことは自分の意見を積極的に言うことだ。今まで学校では積極的に物事を発言したりしてこなかったことが多い。しかも自分で考えた意見を英語で発言することがなく初めての経験だった。意見を言わなかったのは自分の語彙力がみんなほどなく、自分の考えを話したくても話せなかった事もあった。でも、それは関係なく、それよりも何か発言することが大事で発言しないことはもったいないと先生にも生徒にも言われた。学びにきているのに学ぼうとしていないから。そのあと少し慣れてきてから何人かに話したりできたりするととても楽しくてもっと話したいと思うようになった。最初は怖いけれどみんなとても優しいから話すことができた方が楽しいことに気づいたが2週間という短い期間だったからもっと長くいたいと思えた。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

今後の目標は英語ができることによってざまざまな国の人とコミュニケーションをとれることがもっとわかったのでまだまだ勉強不足だということも感じたので、これからもずっと勉強し続けることが1番の目標だ。そして、それによって将来の夢や幅が広がると思う。さらに、英語だけではなくほかの言語も身につけることが楽しいというのも実感したので、少しずつ身につけたい。そして、課題は語彙力を増やすことだ。今回の研修で1番の課題になった。そのためには、単語の本を使って単語力を増やし、英語の小説を少しずつ読んで勉強したり、洋画を見て会話の使い方や耳を慣らしたり、Youtubeを使っては語学学校の先生が文法の説明している動画が沢山あると教えてくれたので勉強するときに取り入れたいと思う。毎日勉強復習しないとどんどん忘れていくのできちんとサボらないで勉強していくことも私の課題だと思った。

所属学部学科 | 現代文化学部　国際ファッション文化学科

▶ 履修の目的･目標

The purpose of taking this course/ goal is to experience the differences between Chinese and Japanese culture in lifestyle. Studying aboard is the closest way to get to know the culture in the most realistically way. Not only basic culture between Chinese and Japanese, I have also learned the real living style of Hong Kong.

However, my goal for this course is to get a different perspective of fashion design. For an example, Chinese tradition dresses are designed to fit their slim bodies and colours are mainly in red and gold. On the other side, Japanese tradition dresses are more immobile compare to Chinese dresses. Colour usage are more neutral and mostly depends on the weather. Therefore, this program has given us a good opportunity to experience and also most importantly to explore the world.

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

The lessons from HKDI is not actually the most impressed, the most impressive thing during the training is the HKDI's architectural design and interior decoration.

The campus buildings are very modern and innovative. Inside the campus, it has an escalator that holds the record of "Longest Escalator" in Hong Kong in past few years. Also, it has a outstanding study environment. The library and classroom are all new and clean. Teachers are amazing too. They are young and enthusiastic, they have youthful thoughts.

Furthermore, the school has an advance student ID system. The card can use for accessing school facilities such as library, toilet and most importantly it can be use for attendance taking.

Nevertheless, the school is surely technological advance. It certainly enhanced an exceptional study environment for us and the local students.

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

Besides of learning new things, I have met new friends at school. They taught me about the living style and the traditional culture about Hong Kong.

I got the impression that Hong Kong people's lifestyle are so busy, everyone walk so fast, talk so quick and eat so fast too. If you want to stay in Hong Kong, you just have to get used to it, try to live your life like them.

For example, there is a restaurant "Australia Dairy company" which is a traditional Hong Kong style breakfast restaurant. When me and my friends came into the restaurant, we got the menu immediately and the waiter just came to order our food right after. Later, we got all the food that we ordered just in one minute. I was so shocked by their high working efficiency. Even though the restaurant is not that big, but they still have at least twenty tables to serve. And after the meal, the waiter asked us to pay and leave right away. They told us that they are not allow customers to keep staying at their restaurant to killing the time. They want us to leave to let the others customers to have the seat.

In the beginning, I don't actually understand why they have to treat us so bad, after I thought it through, they just want to manage the time and don't want to waste even a minute to earn the money. Because the prices in Hong Kong is so high and keep rising all the time.

What I actually learned from this training is "make good use of time to get the most". To manage my own time is the lesson that I always fail, try to do it well in this year and make my life more effective and worth.

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

International experience is one of the thing that you can't learn from the teachers and books. Live in a new country and expand your comfort zone, and every single thing you have to do it by yourself and respond for yourself that actually made me to be a stronger and independent person.

Learn to connect with people from different countries leads me to quicker adaptation and success in new environment. And international experiences cultivate cultural and interpersonal understanding helps me to build more effective communication skills.

In my conclusion, the advantages from this trip to Hong Kong is to learn from anyone and anything that can make you improve and be a better one.

〈梅春〉ニューヨーク研修

語学研修、企業研修、NYコレクション見学

授業概要

グローバルに活躍できる人材を育成し、大学入学後、早期（主に1、2年次）に中長期にわたる異文化を知る海外学外研修を後期2月中旬～3月中旬までの約1ヵ月を「梅春学期」として実施する。

到達目標

語学力の強化や、グローバルな創造力を修得し、物事を国際的な視野で考えることができる。

期間／スケジュール

第1週：NYコレクション見学、語学研修（月～木曜）、アパレル企業研修、FIT服飾博物館見学
第2週：語学研修（月～木曜）、アパレル企業研修、メトロポリタン美術館ツアー見学
第3週：語学研修（月～木曜）、アパレル企業研修、FIT学生交流会
第4週：語学研修（月～木曜）、アパレル企業研修、MoMA見学

成果と課題

履修者全員（11名）が英語力の向上や視野の広がりを実感でき、英語に対する勉学意欲が増している。異文化に触れたことで、人種や宗教に関する知識も深まった。New York English Academy（NYEA）での語学研修は、事前のクラス分けテストによって各レベルに合わせた内容が学べ、異国のクラスメイトとも交流を深めることができ、充実した授業だったため、学生たちは満足していた。NYコレクション見学では、実際の雰囲気が体感でき、とても貴重な経験になるため、今後も継続していきたい。企業研修（5社）ではブランドの歴史や店舗ディスプレイなどを学び、実際に働いている日本人からの話しを通して、海外で働くことの意義を知ることができた。FIT見学や学生との交流会は、服飾の歴史を改めて知ることができ、英会話力も身につける良い機会になった。美術館見学は、普段は入れない裏側へ行き、歴史的な衣装の保管方法やリペア方法を実際に見ることができ、服飾史への探求心が高まった。インターンシップ先など密な調整が必要なため、学生数を当初の6名を上限としたい。

所属学部学科 | 服装学部　ファッション社会学科

▶ 履修の目的･目標

私は、まだ明確に将来の夢がないのですが、人が経験できないような経験がしてみたいという思いと、海外のファッションやビジネスにとても興味がありました。いろいろな経験を経て少しでも将来やりたいことが見つかればいいなと考え、今回のインターンシップと語学研修に参加しました。英会話のスキルアップと実際に海外の市場調査をしてみて、日本との相違点や改善点を見つけることを目標にしていました。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

私は、メトロポリタン美術館が印象深いです。正直、今まで、美術館や博物館は退屈で眠くなってしまうという考えがあり、自ら好んで足を運ぶ場所ではありませんでした。しかし、いざ行ってみて、案内してもらった際、普段は入ることができない昔のドレスが保管されている場所や、展示品を修理する部屋に連れて行って頂き、考え方が一変しました。一つ一つの服や靴、アクセサリーにおいてまでそれぞれに合った保存方法で保管されていました。それを踏まえて展示されている作品を見ていると、作品から伝わるメッセージの受け取り方が変わってきたり、私たちに綺麗に見えているものは、見えないところでの努力があってこそなのだと思いました。また、絵画においても見方のアドバイスを教えていただき、新しい面白さを見出すことができました。今回の研修を通して､美術がとても好きになり､もっとアート作品と触れ合って、自分の感性を磨きたいと思いました。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

自分の考え方の小ささに気づくことができました。旅行で海外に行くのとは全く違いました。メトロポリタンの件もそうですが、自分が見ていた世界はとても狭く、その視野を広げさせてくれたのが今回の研修でした。日本にいると便利さに甘えて、言葉は通じるし、家にいてもデリバリーを頼めば休みの日でも1歩も外に出なくても生活ができ、1日1言も人と話さなくても過ごせる生活です。でもNYに来てみると、言葉も上手く通じなければ、店員の態度が悪かったり、どこを歩いていても警戒心を持って生活していました。その中でたくさんの宗教、人種の人々が生活しています。それぞれの文化を尊重しあって生きることの大切さを感じることができたような気がしました。自分の力で注文した通りの商品が出てきたり、地下鉄に乗れたりするだけでも何か達成感を感じることができました。この経験は自分の将来を考える上でも大きな財産になりました。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

今回の研修で培ったことを生かすためにも、英語のスキルを上げて、もっと世界を見てみたいと思いました。勉強のために行く海外は、とても刺激的で、1ヵ月では吸収しきれないことがたくさんありました。より英語のスキルを磨きたいと思ったのと、海外で勉強する勇気も持つもとができたので、留学も視野に入れたいと思いました。プログラムに参加してみて、自分の英語力の低さと日々の学生生活での将来のことに対する意識の低さを痛感しました。毎日、だらだら過ごしていて、成績の評価だけ気にしていた生活がどれだけ勿体ない生活をしていたかということに気づきました。自分の欠点、課題が見つかったことはとてもよかったと思っています。4月からは高学年になるので、就職のことを真剣に考えた際に、今回身についた広い視野を持って、あと2年間で自分がどれだけ多くのことを吸収できるかが大切だと思います。

所属学部学科 | 服装学部　ファッションクリエイション学科

▶ 履修の目的･目標

ニューヨークは様々な国から目的や夢を持って来る人が多く、幅広い交流が出来ます。そんなカルチャーが混ざったような場所で、彼らが生み出すファッションというのは自由で面白いものがたくさんあるかなと思い、とても興味深かったです。この研修を機会にニューヨーカーのファッションを観察したいなと思いました。そして、引き出しを増やし今後の学校生活へ向上心を忘れず過ごしたいと思いました。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

ニューヨークの人たちは仕事に対して短期間での自分の目標を立てて、達成したらまた次の目標を決めるというステップアップ方式があるそうです。経験豊富な方がステップアップに有利という思考があり、2年～3年で仕事環境を変えることが多いそうです。一定の環境にとどまりスキルを高めることも大切ですが、様々な経験をしてからこそ世の中にある仕事に対してそれぞれの重要さを身に染みて感じながらステップアップできる環境も面白くいいなと思いました。ステップアップのシステムからなのか、ニューヨークの人々は小さな夢から大きな夢まで持っていて、夢の質問や、彼らの目標を聞くことが多かったです。夢のために行動している人が多いからかポジティブな人が多く、それぞれの意見を尊重し合える自由な環境があり、素敵だなと感じました。また、ニューヨークではON、OFFがちゃんとあり、仕事が終わる時刻になると残業をしないで上司関係なしに帰りたがり、それがマイナスにはならないのです。仕事をしっかりこなし、休む時にはしっかり休むことでストレスフリーが出来ているのかなと思います。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

研修でたくさんの人たちのお話しを聞き学んだことは、今のうちからたくさんの経験をしてどれが自分に合っているかを見極めることです。興味があることにも無いことにも挑戦し、自分に合わなかったことに対して落ち込む必要はないと学びました。経験することに意味があり、失敗しても挑戦する回数以上の知識が身につきます。その知識から損をすることは無いと教えて下さりました。将来が明確ではない学生のうちだからこそ、時間があるので恐れないでたくさんのことに挑戦したいです。その経験が自分の力になるのだなと学びました。また、日本人ならではの気の利いた心遣いは結構な割合で役に立つことが多いそうです。日本では当たり前のように会議前にレジュメを並べたり、椅子を整えたりなどの細かい作業はどの場所でも役に立つので、今回の研修で一番に学んだ経験として身についたことはいつか必ず役に立つときがくるということを教えて下さいました。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

もっと単語力を上げなければならないと思いました。ヒアリングが慣れてくると、聞き取れない単語のせいで内容が分からなかったことが多々ありました。語学学校で新聞の記事を読んだ際も知らない単語があるせいで読むのが遅かったり、単語力のせいで質問に返せないこともどかしくてしょうがなかったです。日本でも英語で記事を読む機会を増やし、単語を勉強しなければならないと思いました。経験しながら物事の引き出しを多く持ち影響力を与える人になりたいです。そして興味があることにも無いことにも小さなことに耳を傾けて知識を増やし、このNY研修の経験をまだ明確には定まってないのですが、スタイリストになるという夢を高められたらいいなと思います。インターンや積極的に応募したり募集が掛かったらどんなことでもまずやってみる努力をしてみます。そして失敗しても折れずに自分に合わなかったんだなと次の目標が立てられるような力をつけていきたいです。

所属学部学科 | 現代文化学部　国際ファッション文化学科

▶ 履修の目的･目標

今回のプログラムに参加した理由は、このプログラムがただの語学研修だけではなく、インターンや企業見学を中心としたプログラムだったからです。また、NYコレクションやRalph Laurenの本社に行けることは私にとってとても魅力的でした。このインターン研修を通して、さらに自分の視野を広げることを目標に、自分の一つのキャリアとして自分の将来に結びつけば良いなと思いました。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

私が今回の研修で印象に残ったことは、インターンの研修先や企業見学で出会った日本人の方々のほとんどが、自分がニューヨークで仕事をするようになると思っていなかったということです。まず、私がインターンシップでお世話になった長谷川ゆかさんは日本で4年制大学の英文科を卒業してから芸術系の大学に入り、その後は結婚をして、ニューヨークで働くなんでまるで考えていなかったそうです。しかし、旦那さんの単身赴任先がニューヨークで、ゆかさんは一週間遊びに行っただけだったのですが、色々縁がありFITに入学することになり、今の帽子デザイナーという仕事に就くようになったそうです。Nauticaで働いていた方は、元々はDKNYで働いていたそうですが、DKNYを辞めさせられたその日に知り合いからNauticaに来ないかと言われたそうです。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

私はこの研修で印象に残ったことから、人との繋がりの大切さに気づきました。研修先のほとんどの方が人との繋がりによってニューヨークで仕事をするようになたと仰っていました。Nauticaの見学では、これから先どうしても苦手な人と仕事をする機会があるかもしれないけれど、もう二度と会わないと思って雑に仕事をするのではなく、一つ一つの仕事を丁寧にやっていたら、またどこかで仕事が貰えるかもしれない。という話しが凄く心に残りました。Valentina Kovaのさゆりさんは在学中に居酒屋でたまたま隣に座っていた方と知り合って撮影のお仕事やアシスタントをしていたそうです。今のカタログの撮影も仕事で仲良くなったカメラマンの方がわざわざ海外でも撮影しに来てくれるらしいです。今回関わった皆さんは人との繋がりが今の仕事の何らかに関わっていて、それがその人の仕事を支えているんだと実感しました。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

私は今回のプログラムを経て､在学中に､自分で様々な経験をしなければいけないと思いました。これから就職する時も､文化を卒業したことより、在学中に何をしたかが重要とされるのだと思いました。また、在学中に自らインターンなどに行くことにより、卒業するまでに自分にどんな仕事が合っていてどの仕事が合っていないかも判断できるし、インターンで出来たキャリアは今後のキャリアデザインに活かせると思います。将来仕事を変えたいと思った時もインターンで出来た繋がりを活かせると思いました。今回のプログラムも一つのキャリアになったし、在学中にもっとキャリアを増やすことで自分のキャリアデザインを豊かにすることが出来ると思いました。そして、これからは一つ一つの出会いを大切にしていこうと思いました。

所属学部学科 | 服装学部　ファッション社会学科

▶ 履修の目的･目標

目標は英語のスキルの向上、企業やミュージアムなどの見学、インターンシップによる経験。事前学習としてはニューヨークコレクション、各ミュージアム、見学先企業の予習、個人的に英会話に通う、単語を勉強するなど英語の勉強など。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

最も印象に残っていることは沢山の新鮮な出会いがあったことです。NYEAの先生方やFITの学生など、自分の意見や気持ちを伝えたいと感じられる人々に出会うことが出来たことで、自分が積極的に話すことに繋がり、英語のスキルの向上に繋がりました。また、自分とはまったく違う環境で生活している人と接することで、自分の考えをしっかりとまとめるきっかけになりました。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

市場調査として、Macy'sなどのいくつかの大きなデパートやSOHOなどのブランドのショップが多い地域などを見学しました。市場調査を通して私が感じたことは、ニューヨークでは日本よりブランドの価格帯ごとのターゲットとなる消費者の層が変わってくるということです。デパートなどでも取り扱うブランドがカジュアルブランドか、ラグジュアリーブランドかということがはっきりと分かれていました。日本より多くの人種が混在するニューヨークだからこそ、文化や収入での差が大きいからだと考えました。また、実際にニューヨークの大企業のオフィスでファッションに関わって仕事をしている方々の話しを聞くことで、自分がこれからファッションに関わって仕事をして行く上で悩んでいたことなどの考えがまとまり、一つこれからの大きな目標を設定することが出来ました。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

今回初めて､長期で海外に滞在した自分としては全てとても新鮮で貴重な経験となりました。まず､毎日語学学校に通い､色々な国の方々と英語でコミュニケーションをとり、日々英語に囲まれて生活することでこの研修に参加する前とはリスニング能力などや、様々な国の人に自らコミュニケーションを取りに行く姿勢など、日本にいては学ぶことが出来ない面で成長することが出来ました。

所属学部学科 | 現代文化学部　国際ファッション文化学科

▶ 履修の目的･目標

私はこのプログラムの存在を知った時、絶対に参加したいと強く思いました。なぜなら、ニューヨークに行くことは憧れだったし、そこで学べるというのもとても魅力的だと思ったからです。このプログラムに参加するにあたって自分の英語力をより上達したいと考えていました。大学に入って以前までのようには行かず、だんだんと英語力が落ちているなと感じていたため、今回の経験を活かせたらいいと思いました。また、インターンシップの経験がないので今回経験して、今後に役立てることができればいいなと考えました。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

私が今回の研修で最も印象に残ったことはブロードウェイです。以前からブロードウェイでミュージカルを見たいとずっと思っていたのですが、今回、念願のものを見ることができました。今しか見ることができないと思い、アラジン、キンキーブーツ、シカゴと3作も見てしまったのですが、どの作品も全て感動しました。まず、アラジンはジーニーの迫力に圧倒され、また衣装が全て綺麗でもっと近くで見たいと思いました。そして、舞台が終わる頃にはやっぱりこの世界で働きたいと思いました。また、シカゴは、衣装は変わらないのですが、パフォーマンスに圧倒されました。本当に今回、ブロードウェイでミュージカルを見ることができて良かったし、このような舞台に携わることができるようにこれから頑張っていきたいと思います。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

私は今回、この研修でたくさんのことを学んだと思います。特にインターンシップでは毎回が知らない新しいことだらけで、その度に学ぶことができました。例えば、cut ticketのつくり方、ファッション用語の英語、製造業者に送るパターンの表し方など、他にも実際にやって見ないと分からないようなことも教えてもらいました。また、FITの学生の話しや、Parsonsでの授業を受けて、どのような授業があるのかどのように日本と違うのかなど体験することができたと思います。Parsonsではドローイングの授業を受けたのですが、一緒に受けている学年が様々で、モデルさんのデッサンを3分ずつ5パターン続けて描く、を繰り返すというものでした。人数が少ないので、先生が一人一人見て行き、アドバイスをしたりなどしていました。この授業はとても楽しいと感じました。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

今回このプログラムに参加して英語力はもちろん、もっとファッションのことも学ばないといけないなと思いました。英語力は今回のプログラムで伸びたと思います。しかし、インターンシップに行ったとき、自分の想いを伝えるのが少し難しかったり、ファッションの用語がわからず、戸惑ってしまったりしました。なので、もっと使える英語や専門的な用語を学んでいきたいと思いました。今回は、会社の人だったり、学生、先生などいろんな人の話を聞くことができました。また、ファッションのことだけでなく、生活や人間関係のことなども聞くことができました。この話は一つ一つが何かに繋がっていくのではないかと思うので、これからのことに活かしていきたいと思います。

所属学部学科 | 服装学部　ファッション社会学科

▶ 履修の目的･目標

将来、メトロポリタン美術館の服飾部門で働きたいので、見学できることに興味を持った。英語力の向上やニューヨークの街を肌で体感してみたかった。これまでも日常英会話はできるほどの英語力であったが、自分の意見を述べたり本を読んだり、留学を考える上で自分に何が欠けていてどう準備したら良いのか知りたかった。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

メトロポリタン美術館のコスチュームインスティテュートツアーは、私にとって夢のような時間であった。職員の方に大学時代の専攻やインターンシップについて個人的に質問し、詳しく教えて頂けたことはこれからの進路を考えるために大いに参考になると思う。何世紀も何十年も前の衣服を可能な限り最高の状態で保存し、世界で最も大きなファッションとアートの祭典を開催する場所の裏側を知れたことで、これまでよりはっきりと身近に夢の実現をイメージすることができた。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

アメリカでは日本以上に職を見つける際、コネクションが不可欠である。ここで働きたい人はいくらでもいるのに、雇用の少ない社会で、外国人である私が働き口を得るためには、ネイティブと同じだけの英語力を身につけたところで、それだけでは不十分である。自分にしかない強みを見つけ知識・経験を積むことで、私でなければいけない（できない）仕事をする必要があると思う。文化を卒業したらあちらの大学で美術史や服飾史の勉強をさらに続けたいと考えているが、専門的用語を理解し､文献を読んだり論文を書いたりするためには､今の英語力ではまだまだ十分でないと痛感した。また、ファッションに限らず全ての学校で、授業中の発言は参加態度において重要であるし、自分の考えに独自性と説得力を持たせることも今後の課題だと感じた。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

この研修を通して得たもの・感じたこと・学んだことは計り知れないほど大きく、毎日の些細な出来事も発見の連続であった。英語の勉強に対する意欲は以前よりさらに強まったし、これからも継続して頑張りたい。やはりスピーキングは話していないと忘れてしまうものだと思うので、英語を使う機会を積極的に設けたい。学生のうちから大学の外へも目を向け、チャンスを見つけなくてはならないと思う。インターンシップや短期留学などはまた頻繁に行きたい。

所属学部学科 | 現代文化学部　国際ファッション文化学科

▶ 履修の目的･目標

NYに行ったことがなかったので、行ってみようと思った。そして、長期留学でNYに行こうか迷っていたため参加した。また、高校が国際系で英語を中心に学んでいたが、文化に入学してから英語に触れる時間がかなり減り、長期休み中に海外に行き、英語に触れなければ自分の英語のレベルが下がると感じたため。

目標：間違えることを恥じず積極的に発言する／インターンシップで日本人ならではの気遣いをする／寮で友達を作り出掛ける

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

最も印象に残ったことは、インターンシップ先のAltheaの「自分でブランドをやるならデザインに3割、見せ方に7割のチカラを使うこと」（意訳）という言葉だ。これは、仕事終わりに電車で話していた際の言葉だった。大学で学んでいることや将来について聞かれ、将来的にはデザインよりもよりビジネス寄りの仕事に就きたい、VMDに興味もあると答えると「いい選択ね」と先ほどの言葉も含めて、いかに服を売り出していくかが重要だということを話してくれた。彼女の仕事の大まかなスケジュールは土日にデザインやサンプルを作り、平日のほとんどの時間は営業や広報に関する仕事をしているという。彼女はデザインはもちろん大切だが、それを広めていく力がないと全てが台無しになってしまう、だからこそビジネスや魅せ方を頑張って学んで欲しいと励ましてくれた。この会話をしてから自分のやりたいことに対して自信を持つことができ、より一層努力していこうと思えた。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

この研修を通して気がついたことは、自分がVMDに興味があるということだった。入学してからこの研修に参加するまでは正直、自分がファッション業界の何に魅力を感じ勉強し始め、将来この業界で働くとすれば何をやりたいのか具体的な答えがわかっていない状態であった。しかし､NYに来てから自分が店の服よりも､ラックの配置や照明､観葉植物など､空間をよく観察していることに気がついた。そして、今までもそうであったことを思い出した。そこで今ファッションを勉強することが将来の役に立つのかという疑問が生まれ悩んだ。そんな中、AllSaintsを見学しに行った際、案内してくれた方がVMDという仕事をしていて店内の商品配列や家具の調達、雰囲気作りを担っていると聞き、まさに自分のやりたいことだと思った。また、将来やりたいことは変わるかもしれないが、今このことに気づけたのは自分の人生にとってとても大きなことだと感じる。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

研修を通して見つかった課題は沢山あるが、その中でも特に大きなものが2つある。1つ目はフォーマルな英語を使えるようになることだ。日常会話で困ることはほとんどなかったが、インターンシップ先の上司や取引先の方との会話の中で、どうしたら失礼にならず丁寧に言えるのだろうと考えてしまうことが多々あった。とりあえず伝えることに問題はないのだが、状況に応じたワンランク上の英語も使いこなせるようにならなければと思った。2つ目は自分を売り出すチカラを付けることだ。FITで交流した学生と仲良くなり、SNSで繋がるとほとんどの人が自分の作品を発信する用、または仕事用のアカウントを持っており､そこに衝撃を受けた。私も自らを積極的に売り出していき､経験を積むチャンスを掴み取っていこうと思う。

所属学部学科 | 現代文化学部　国際ファッション文化学科

▶ 履修の目的･目標

文化に入ったからこそ参加できるプログラムに惹かれて申し込みました。1番の決め手はニューヨークファッションウィークに参加できることです。東京とのスタイルの違い、ニューヨークのパワフルなファッションを自分の目で見ることも目的の一部でした。目標は語学学校で積極的に英語を使うことです。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

メトロポリタン美術館での裏側見学です。当日まで、どのようなことをするのかはっきりとわかっていなかったので、裏側に入れてもらえた時はとても驚きました。メットガラのドキュメンタリーでアナ・ウィンターが指揮をとっている場所にいることだけで感動しました。数あるコレクションの中でも特に感動したのがマリー・アントワネットが死ぬ直前の裁判で着ていたドレスです。修繕の最中で机の上に置かれていたのですが､ちょうど修繕している技術者の方がバケーションに行っているとのことで、その場から1ミリも動かさずに管理されていたので驚きました。それぞれの衣装に異なる管理方法があり、丁寧に保管されていることに関心しました。その場所で働いている全ての人から服への愛が感じられました。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

ニュートークに1ヵ月滞在した中で常に感じていたことが､やはり文化の違いです｡カルチャーショックを受けたけれど、いろいろな世界がミックスされたニューヨークのいいところ、日本のいいところに気づくことができ、また自分の知らない世界がたくさんあることにも気づかされました。中でも1番印象に残っているのが授業でやっていた履歴書のことです。日本の履歴書の顔写真は他の国と比べてかなり珍しいみたいで驚きました。日本で当たり前だと思っていたことが、一歩外に出てみるとマイナーなことだったりすることもあるのだと気づきました。これからもっとたくさんの知らない世界を見て、色々な考え方を知り、様々な視点で物事を判断することのできる国際的な大人になりたいと強く感じました。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

今回、ニューヨークの同世代と関わる機会もあり、大学生の将来設計の大きな違いがあるのも分かりました。この残りの3年間なんてあっという間に終わってしまうと思ったので､「思い立ったら即行動」を今すぐに実践していきたいと強く感じました。アパレルに関わる仕事を今からでもすぐにやった方がいいと思ったので、早速インターンかアルバイトで探してみようと思いました。今回の研修を経て、英語をもっと話せるようになりたいと思ったので、どんな形でもいいので毎日英語を使うような環境を作ろうと決めました。高校生の時に使っていた英単語帳ももう一度取り組んでみようと思いました。また、とにかくアパレル業界は人との繋がりが1番大切だと今回身を持って学んだので、どんな人とも関係を大切にして将来につなげていけることがベストだと思いました。

所属学部学科 | 服装学部　ファッションクリエイション学科

履修の目的･目標

大きな目標としては、ファッションに対する視野、自分の将来の視野を広げることと、英語のスキルを上げることでした。

研修で最も印象にのこったことについて

最も印象に残ったことは、語学学校です。本当に毎日が楽しくて、自分が成長できていることを実感しながらの日々は、とても充実していました。イメージしていた学校とは違い、少人数のクラスで、先生やクラスメイトとの距離も近く、沢山英語を話すことができました。教科書に載っていることだけでなく、日常で使う会話表現や略語など、実用的な英語を教わることができて良かったです。

研修を通して気づいたこと･学んだこと

ニューヨークには多種多様な人種の人々が暮らしており、とてもクリエイティブでパワーのある街だと思いました。普段日本で暮らしていると、人に合わせることが正しいかのように感じてしまいがちですが、もっと自分らしさを全面的に出していけば良いのだと、勇気づけられたように感じます。それから自分は、英語を学ぶことが元から好きでしたが、今回の研修を通して更に英語が好きになり、英語や他言語を学ぶことに対して、トン等に関心があるのだと気づきました。

今後の学生生活に生かしたいこと

今後の学生生活では、ただ学校側から与えられる学びだけでなく、自分から積極的に働いて学んでいかなければならないと思いました。今回、ニューヨークで過ごした1か月間は、常に自分の意思を持って生活していたように感じます。それは、学校でもインターンシップ先でも、自分の意思や意見が必要だったからです。これから日本の学校に戻って学んでいく中で、言葉が通じ、黙っていてもやるべきことが与えられるという環境に甘えず、常に高い意思とモチベーションを持って学んでいきたいです。

所属学部学科 | 服装学部　ファッション社会学科

▶ 履修の目的･目標

もともと将来どうしたいとかがあまりなく、どうしようかと思っていた時に梅春の募集を見て何かそういう選択の幅が広がる、自分の視野が広がるのではないかと思い、参加しました。また、ただの語学留学ではなく、せっかく文化に入ったのだから文化でしかできないこと、文化だからできたことをしたいという気持ちがあったので、参加しました。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

今回の企業見学で日本人の方にたくさんのお話を聞けたのが印象に残っています。人によって全くその会社に入った経緯などは異なりますが、ほとんどの人が思いもよらないことであったと、まさか自分がこういうことをしているなんて、とおっしゃっていました。海外では日本と異なり、クビになったりすることも多く、また転職をしやすい、むしろずっと同じ会社、職種でいることの方が珍しいのですが、Nauticaの方は前の企業をクビになったときに今の会社の方が声をかけてくれたなど、人と人のつながりが大切だということが良く分かりました。例え、自分の嫌いな人でも、雑に接するのではなくて、又この後どこで出会うか分からないので、どんな人でもきちんと接した方が良いということが分かりました。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

語学学校だけでなく、様々な場面で常に自分の考えを求められることが多いと思いました。特に学校では、授業で先生に事あるごとに貴方の意見は？と聞かれることが多く､少し衝撃を受けました｡目上の人が自分の意見に耳を傾ける場面は、日本にはあまり見ない状況だと思います。また、すごく良いことでもあると思いました。なので、当たり前ではありますが､自分の興味ないことや関係ないことだとしても､意見を常に持ち､発言できるようになることが大切だと分かりました。また、たくさんの人と知り合い、世の中には自分が知らないだけで本当にたくさんの人がいるということが分かりました。私にとって、この研修は自分のことを改めて考える良い機会になりました。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

まず、今回の研修で週報やレポートなどを出すことが多かったので、見学へ行ったその日のうちに少しずつまとめていたのですが、少しずつ毎日やることが大切だということが分かりました。このことは、これからのどんなことでもつながり得ることだと思います。また、企業見学で日本人の方たちが皆さんもっと若いうちにたくさんのことに挑戦していればよかった、若ければ失敗してもまた挑戦すればいいとおっしゃっていたので、私ももっと今のうちに色々なことに挑戦してみようとおもったので、帰ってきて少しでも興味のある企業にインターンなどを申し込もうと思いました。

所属学部学科 | 服装学部　ファッション社会学科

▶ 履修の目的･目標

ニューヨークは夢の街です。今回学校のおかげでニューヨークで研修のチャンスがありました。ニューヨークに偉い人がたくさんいます。自分も大学を卒業したら、ニューヨークに行くつもりなので、今回ニューヨークに行って、まず学校や生活、交通、人間関係などに慣れるようになりたいです。自分の目標を確実に持って行きます。また、自分の英語を高めるため、アメリカの文化を感じたいため。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

ニューヨークは東京っぽい街である。人と車が毎日混んでいます。タクシーが安いです。地下鉄も緊急出口があるので、時々いるアメリカ人は改札口を使わなくて直接緊急出口で駅を入って地下鉄に乗ります。Union Squareと言う駅にはいつも色々な人がいて、performanceをしています。ダンスや歌っている人や楽器を演奏している人などたくさんいます。毎回見た時には、いつも数分止まってゆっくりperformanceを見ていました。確かに声は大きいし、人びとの歩くスペースも狭くなりますが、ここはニューヨークです。これはニューヨークの文化の一部です。時間が長くなって毎日こういう生活も慣れてきました。初めてニューヨークの地下鉄を乗るときは、駅に入ってすぐにやばすぎる匂いがしました。最初のときは嫌だった感覚がします。でも、一週間通ってからはもう慣れました。ニューヨークの地下鉄もジッタです。時々、地下鉄は違う番号が来て、駅も地図と同じような止めていない。朝早い時間にニューヨーカーが起きてコーヒーを買って仕事をしに行きました。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

小さい頃からずっと自分が欲しいものややりたいことははっきり分かっています。今回の研修を通じて色々な会社に行って、先輩たちのアドバイスをもらって、前は自分ができないこと、また自身が持てないことは、先輩のアドバイスをもらった後は､それも私ができるかも知れないという感じが出てきた。Parsonsに行って､小川先生のWorkshopに参加して、モデルさんがいて、Mini Stageに立って私たちはモデルさんのポーズを描くことになった。私は絵を描くことが全然できなくて、モデルさんは3分ごとにポーズを変えて、私にとって時間が全然足りなかったが、隣のParsonsnoの学生は完璧に描いていました。小川先生に教えてもらった方法を覚えるため、東京に戻る飛行機の中で私はinspirationを絵で描いていました。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

今は絵を描く方法が分かり、前からずっとチャレンジしたいことをできるようになりました。前でも今でもこれからも常に練習しなければいけないです。自分の夢を実現するため、色々な能力を必ずUPさせます。もっと勉強して、生活のことでも学校のことでも真面目に取り組みたいです。この世界で偉い人の存在が大きいため、自分もそこまでやりたいなら想像できないくらい努力しなければなりません。私にとって日本語もちゃんと勉強して、バイトを初めて、経験を積みたいです。今から人生の選択は大切なので､やることをきちんとやって､後悔しないようにしたいです。私たちはラッキーです。ファッションのことが好き、ファッションを教える大学で勉強して、海外に行って研修のチャンスもあり、この色々なことを私たちの生活の中で、自分が好きなことを仕事になって幸せなことです。

〈梅春〉イタリアインターンシップ実地研修

生地メーカーで生産から営業までを学ぶ

授業概要

世界のアパレル製品の製造の多くが中国をはじめとした東南アジアなどに集中し始めている中で、イタリアは、いまだ「モノ作り」と「クリエイション」で世界をリードしている。本講座では、イタリアの中でも、古くから織物の街として知られるピエモンテ州ビエラ地方で1881年に設立し、今なお革新的でトップレベルのクオリティを誇る、世界を代表するハイクオリティ梳毛織物メーカーであり、プレタポルテのファッションブランドでもある「LANIFICIO F. LLI CERRUTI DAL 1881」と、同じくピエモンテ州キエリで1955年に設立し、優れた品質とクリエイションでMade in Italyのテキスタイルの基準ともいわれる製品を生み出し、多くのラグジュアリーブランドに提供している「ANGELO VASINO」社で、実際の製造や営業での現場を体験する。直接海外での仕事に触れ、製造現場の見学や体験、さらには日本とは異なるマーケットに触れることなどを通して、ファッションに対する多角的思考を養い、さらにグローバル社会に対応できる感性の習得と共に、就労に対する意識を高め、専門性を生かして実践的に取り組むことで、これからのキャリア形成に必要なスキルを身に付けることを目指す。

到達目標

（1） 海外でのテキスタイルに関するマーケットの特性やトレンド情報の収集方法を理解する。
（2） テキスタイルの紡績から整理加工までの一貫生産を理解する。
（3） テキスタイルの企画から製造、販売までの流れを理解する。
（4） 海外での職場体験を通じて社会人に必要なマナーや知識、問題解決力を身に付ける。

期間／スケジュール

2018年2月10日(土) 日本発 ～ 3月8日（木） 日本着
・出発前に事前教育として、CERRUTI JAPAN社にて研修（3日間程度）。
・第1週（2月11日～2月15日）
フランス パリ開催のテキスタイル総合見本市「Premiere Vision Paris（プルミエール・ビジョン）」にて、「LANIFICIO F. LLI CERRUTI DAL 1881」ブースでの営業研修。
・第2週（2月16日～2月21日）
イタリア ビエラに移動し、「LANIFICIO F. LLI CERRUTI DAL 1881」本社にて研修。
・第3～4週（2月22日～3月6日）
イタリア キエリに移動し、「ANGELO VASINO」本社にて研修。

成果と課題

本講座では1ケ月という期間の短さから、先方も「様々なものを見せる・聴かせる・触らせる」という姿勢で取り組んでくださった。そのため学生からも「語学力や専門知識の不足という不安を抱えながらも、今まで知らなかった多くのことを学ぶことができた」という感想が聞かれた。海外での１人での研修ということで危惧することが多かったが、先方の多大なご協力により、多くの有益な成果が得られたと考える。また展示会での営業研修では、学生に他企業の商品分析の課題を課してくださり、多くの企業を客観的に見ることができ、マーケットの見方を理解することができたという感想も聞かれた。

課題としては、1つ目は先方企業との綿密な調整の必要性である。両企業とも1ケ月という短期間の受け入れは前例がなく内容調整が難しかった。期間も先方のリクエストと合わず、当初の計画とは異なる形になってしまった。2つ目は、学生の専門領域に対する知識不足の事前対応の重要性である。専門知識の多少は、研修で得られるものの総量に比例する。学生からも「テキスタイルに関する知識不足を実感し恥ずかしかった」との感想が聞かれた。事前にプログラムや課題等で学生の知識の補足に役立つような取り組みが必要であると実感した。

所属学部学科 | 服装学部　ファッション社会学科

▶ 履修の目的･目標

パリでの営業研修では、とにかく多くの生地を見て「勉強」することを目的とし、その後の3週間の企業研修では、どの様な企業で、どの様な生地を作り、どの様に市場に出すのか等を「知る」ことを目的としました。海外企業だからこそ学べることが沢山あると思い、できる限り吸収しようと思いました。またフランス・イタリアとも日本とは異なることが多いと思い、その違いも含めて今回は現地で「体感」し、多くのことを「考える」ことを心がけました。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

プルミエールビジョンでは、CERRUTI社のブースでのお客様対応やハンガーサンプルの整理などの仕事の他に、有名生地ブランドの最新テキスタイルを見せてもらうことができ、2019年のトレンドやそれぞれの企業の特徴を学ぶことができ、日本の展示会との違いなども勉強することができました。その後のCERRUTI本社での企画会議にも参加させてもらったことは非常に良い経験でした。また生産工程だけでなく、テキスタイルの代理店の仕事内容についても具体的に知ることができました。特に、製造・販売しているテキスタイルのうち、どの様なものが人気で、ブランドにどの様に選ばれていくのかを、注文生地のチェックやサンプルの仕分け、発送作業などを通してだんだんとわかるようになってきたことが嬉しかったです。またデザイナーの方を手伝ったりすることで、使用糸の品番や色との関係など、本当に細かいことまで知ることができ、様々な学びをすることができました。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

気付いた点は3つあります。1つ目は研修先の企業についての事前勉強がとても重要であるということです。企業に関する情報を少しでも多く事前に調べていたら、より多くのことをよりスムーズに理解することができたと思います。2つ目はテキスタイルに関する専門知識の不足です。布地だけでなく、糸や染色についての知識まで事前にある程度勉強しておくべきであったし、それらに関する英単語は最低限理解しておかないと自分が恥ずかしい思いをすることがわかりました。最後は語学力です。自分の思いを上手く伝えられなかったり、何度も聞き返してしまったりと、相手に迷惑をかけてしまう場面が多々ありました。またイタリアは英語が通じない場面もあるため、英語だけでなく、現地の言葉も挨拶を含め最低限は勉強しておいた方が良いと思いました。しかし、研究に行ったことで何物にも代えがたい貴重な経験をすることができました。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

海外であっても、また企業の中でも、周囲の人々が非常に優しく、困ったら手を差し伸べてくれたので、積極的に自分の意思を伝えることが大切であると実感しました。今回は本当に「人」に恵まれ、人間関係で悩まされることは全くありませんでした。自分から積極的に関わっていくことでお互いの関係や状況を良い方向へ変化させることができるということが分かり、これについて今後の生活や人生においても忘れずに行っていこうと思いました。また英語は、今後も継続してリスニングを積極的に勉強してコミュニケーションの可能性を広げたいと思いました。今回の研修で様々なことが勉強になり、沢山刺激を受けました。自分のこれからの勉強や研究に取り入れるべき情報や知恵を沢山吸収するという一番の目的を意識しながら取り組めたと思います。これからも様々な異文化に興味を持ち、ファッションや生活について学びたいと思いました。

〈梅春〉ハワイ研修

語学研修&スタディツアー

授業概要

文部科学省大学教育再生加速プログラム（AP事業）である長期学外学修プログラムとして実施する。後期試験終了後から春期休暇までの間、1週間を日本国内にて事前研修、3週間を海外学修として現地にて研修を実施する。University of Hawaii - West O`ahuにて、英語研修、ワークショップ、講義、異文化交流、課外授業などに取り組む。言語は、すべて英語となる。

到達目標

本学の長期学外学修プログラムはコミュニケーション力、伝統・文化理解力、グローバルキャリアデザイン志向をもった「グローバル創造力」の育成を目的としている。

4週間にわたり日本国内ならびにUniversity of Hawaii - West O`ahuにて、英語によるコミュニケーション力の向上、異文化の理解深耕などを図り、今後ますます進展するグローバル化社会において、ファッションを中心とした分野で発揮できる能力を養成する。

期間／スケジュール

<table>
<tr><td colspan="9">研修日程：2018/2/12 (Mon) -3/6 (Mon)</td></tr>
<tr><td>Week</td><td></td><td>MON</td><td>TUE</td><td>WED</td><td>THU</td><td>FRI</td><td>SAT</td><td>SUN</td></tr>
<tr><td rowspan="5">1</td><td>Date</td><td>12-Feb</td><td>13-Feb</td><td>14-Feb</td><td>15-Feb</td><td>16-Feb</td><td>17-Feb</td><td>18-Feb</td></tr>
<tr><td>Schedule</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td></tr>
<tr><td>Morning</td><td>ハワイ到着
Arrival Airport</td><td>英語研修
→Intensive English</td><td>Intensive English</td><td>Intensive English</td><td>Intensive English</td><td rowspan="3">アクティビティー Activity</td><td rowspan="3">Free Time</td></tr>
<tr><td>Lunch</td><td>Lunch</td><td>Lunch</td><td>Lunch</td><td>Lunch</td><td>Lunch</td></tr>
<tr><td>Afternoon</td><td>オリエンテーション
Welcome & Orientation
Check-in Dormitory</td><td>ハワイ文化ワークショップ→Cultural Workshop</td><td>Cultural Workshop</td><td>Cultural Workshop</td><td>Cultural Workshop</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>Activity</td><td></td><td></td><td>Activity</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="5">2</td><td>Date</td><td>19-Feb</td><td>20-Feb</td><td>21-Feb</td><td>22-Feb</td><td>23-Feb</td><td>24-Feb</td><td>25-Feb</td></tr>
<tr><td>Schedule</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td></tr>
<tr><td>Morning</td><td>Intensive English</td><td>Intensive English</td><td>Intensive English</td><td>Intensive English</td><td>Intensive English</td><td rowspan="3">アクティビティー Activity</td><td rowspan="3">Free Time</td></tr>
<tr><td>Lunch</td><td>Lunch</td><td>Lunch</td><td>Lunch</td><td>Lunch</td><td>Lunch</td></tr>
<tr><td>Afternoon</td><td>Cultural Workshop</td><td>Cultural Workshop</td><td>Cultural Workshop</td><td>Cultural Workshop</td><td>Cultural Workshop</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>Activity</td><td>Activity</td><td>Activity</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

研修日程：2018/2/12 (Mon) -3/6 (Mon)								
Week		MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
3	Date	26-Feb	27-Feb	28-Feb	1-Mar	2-Mar	3-Mar	4-Mar
	Schedule	15	16	17	18	19	20	21
	Morning	Intensive English	Intensive English	Intensive English	Intensive English	修了式 Ceremony	Free Time	Free Time
	Lunch	Lunch	Lunch	Lunch	Lunch	Lunch		
	Afternoon	Cultural Workshop	Cultural Workshop	Cultural Workshop	Cultural Workshop	Free Time		
			Activity			Activity		
4	Date	5-Mar	6-Mar					
	Schedule	22	23					
	Morning	現地出発	日本帰国					
	Lunch							
	Afternoon							

成果と課題

英語研修と文化体験からなるこのプログラムにおいて、履修学生に英語力の必要性とその不足を実感させることができた点は成果である。また、有数の観光地であるハワイの観光地とは異なる側面を垣間見ることで、これまでの知識を相対化し、複眼的に対象をみる経験を得られたことも、グローバル化に伴う多様性への感度を養うという意味では大きな成果と言える。

プログラム実施の面からは、事前研修による開講目的の説明や学びへの動機付け、事後研修による活動内容の振り返りや議論でえられる体験の相対化は、現地での研修内容をより有益なものとするための工夫となりうることが確認された。

一方で、事前研修によって、現地での研修に対する学生の意識付けをより明確にすることは課題として残った。英語研修や文化体験などの具体的なプログラム以外の部分に対しては、観光者的な態度が残っていた。たとえば寮での掃除の状況に対して、不満を述べる学生がいたが、来年度以降は、このようなプログラム外の環境に関しても文化の違いとして捉える必要があることを事前教育によって、繰り返し伝える必要がある。

所属学部学科 | 服装学部　ファッション社会学科

▶ 履修の目的･目標

ハワイ研修を通して、他国の文化を学び、理解したい。また、自分が他国の文化の違いをどのように受け入れていくのか考えたい。英語力では､自分のできる限りの力を発揮するとともに､コミュニケーション力を大切に積極的に挑戦したい。また、将来の仕事につながるよう、誰にでもわかりやすく伝えられるような力を身に付けたい。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

はじめての海外だったが、やはり文化的な違いは大きいと感じた。慣習だけでなく、生活する上で必要な物や場所でさえ少し不自由に感じることがあった。その中で最も難しさを感じたことは､コミュニュケーションを取る上での距離感だった。日本人同士でさえも難しいことだが、言語が不自由な中でのジェスチャーの伝わり方や、空気を読むことなど、言葉以外の部分での違い、ボディーランゲージがあるということに気付かされた。今までそのことに触れる機会がなかったので、はじめての経験だった。また、日本人はもっと積極的になるべきだと気づいた。ハワイで感じた先生と生徒の距離感は失礼のない、近い存在に感じた。日本では感じたことのないことだったので、目上の人との関係を作る上で、良い関係が作れるように心がけていきたい。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

初めての海外だったので、どんなことも新しい経験だったこともあり、普段では挑戦しないことも積極的に挑戦することができた。自分自身でできないと決めけていたことにも挑戦することで、今まで得られることのなかったたくさんのことを感じ、学ぶことができた。これからも積極的に挑戦していきたい。また、英語を学ぶ上で、話したり書いたりしていくことで､自分の中に定着してくることを感じた。文化的な違いで難しいこともあったが､とにかく伝えようとすることで､相手とも少しずつわかり合うことができた。また､英語の発音の難しさを痛感した。ネイティブと会話する機会も少なかったので､簡単な単語でも伝わらないことがあった。今まで書くことなどの文法的な部分での学びが多かったが､コミュニュケーションをとる上できちんとした発音ができるように勉強していいたい。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

より英語力を伸ばしたいという気持ちを忘れず、ここで学んだことを忘れずに努力を続けていくことだ。英語力については、日常会話だけでなくビジネス英語も学び、TOEICでの点数を上げていきたい。また、より積極的な行動を目指し、より良い関係性やスムーズに物事が運ぶように心がけたい。これからの生活、就職でこのことがしっかりと活かせるように常に心がけていきたいと思った。また、国際的な文化の違いだけでなく、個人個人の違いや個性を受け入れていきたい。それには、否定的にならず、少しでも理解しようとできるようとすることから始めたい。また、ファッションの専門用語などを英語で学ぶことで、自分自身の世界を広げられると思うので、積極的に挑戦していく気持ちを大切にしたいと思った。このプログラムで学べたことは､誰もが体験できることではないので､これからの自信として将来につなげていきたい。

所属学部学科 | 造形学部　デザイン･造形学科

▶ 履修の目的･目標

今回このプログラムに参加した理由として1つ目に異文化に触れてみたい。という思いがあったからです。食生活など生活面はもちろん日本人とアメリカ人のコミニュケーションの違いを実際に感じたいと思いました。日本人だからという枠にとらわれず消極的にならず一人間として自分の新しい性格も発見し、アメリカの方の良いところを吸収したいと考えています。また、英語力が乏しいですが少しでもコミニュケーションをとり最低限の英語を身につけてきたいという目標もあります。また、他の場所でなくハワイにした理由として元々ハワイアンジュエリーやハワイをモチーフとしたデザインが好きで日本でもハワイアンのお店に行きますが輸入物が多いためか別のお店にもかかわらず同じようなものばかりしか置いていないため雑貨やアクセサリーのデザインもどのような柄が多い傾向があるのかなどを現地で知り吸収したいと考えています。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

最も印象に残ったことは街中でデザインに注目して歩いているとハワイアンモチーフのもので溢れているということです。ポピュラーなファッションブランドでも一目でハワイをイメージできるデザインを取り扱っていました。日本では日本をイメージしているデザインを取り扱うお店はお土産屋さんなどでしか目にしないためとても魅力的に感じました。

また、大きなお土産のお店でも日用品が売られているスーパーでもどこにでもレイが置いてあることも印象的でした。

また、ハワイに住む日本人の女性にハワイの魅力について聞くことができました。彼女の言葉で一番印象に残っている言葉は『時間に縛られて焦っている人がいないからとても落ち着いている。そして、みんな心が広く優しい人が沢山いる』という言葉です。確かに時間に縛られ硬い考えをしている人はいないなと感じました。また、先生も生徒もとてもフレンドリーでみんながみんな話しかけやすく素敵な印象でした。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

まず、気になっていたコミュニュケーションの違いについて。ハワイではナーバスな性格の人が少ないように感じました。実際に体験したエピソードとして私の笑顔が減ると『みさき大丈夫?』と現地の友達が声をかけてくれました。そして、みんなから少し離れ素敵な景色が見える場所へ連れて行ってくれました。言葉では表現しにくいですが日本人との違いを感じました。自分自身もそんなに暗い表情をしているつもりもなく日本ではあまり言われたことがなかったので私のような人は珍しいのだろうなということに気がつきました。それだけでなく、バスでしか移動できない私達を見兼ねて休日は車を運転して私達が喜びそうな場所に連れて行ってくれました。彼らには何度も助けてもらいそして楽しい思い出をプレゼントしてもらいました。実際にフレンドリーといわれる人々と触れ合ったことでこの場面では落ち込みすぎずこのように考えれば良いのか!というささいなことにも気づくことが出来ました。それと同時に彼らのようにあまりナーバスになりすぎず笑顔を絶やさず周りの人をハッピーにできるような性格になっていきたいと考えています。また､英会話については私は本当に英語力が乏しかったため不安が大きかったですが中学英語の文法が多いということに気がつきました。また、現地の学生ともっと仲良くなりたい、もっと話したいという気持ちが大きくなり必然的に英語を勉強したいと思いました。その際、学生とコミュニュケーションをとるときに何度も使った英語から勉強すれば良いので覚えるべき英語が限られくるため勉強しやすくなったように感じます。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

私は今までの授業で自分の好きなデザインを考える際ハワイや海や夏を連想させるデザインを作りたかったのですがどうしても理想的なデザインにならず系統がぶれてしまいがちでした。しかし、今回ハワイで売られている商品を見て植物や色の組み合わせ方が分かったので撮ってきた写真を参考にしてデザインしていきながらこれから自分のアイデアを加え個性もありながらハワイを連想させるデザインを授業内で制作していきたいと考えています。また、生活面では現地の学生と触れ合ったことで今までなら不安を抱いていまうような出来事でも前向きにとらえる考え方があるということに気が付きました。異文化交流を通して物事の捉え方の違いを学ぶことができました。この経験から異文化交流を積極的にしていきたいという気持ちが強くなり、今後の学生生活の中で海外に行く機会を多く作っていきたいです。

所属学部学科 | 造形学部　建築･インテリア学科

▶ 履修の目的･目標

中学生の頃から、海外研修や、海外ホームステイに興味があり、中学３年生の時にアメリカ、高校２年生の時にオーストラリアでホームステイに参加したことがあります。その時は、２週間のホームステイであったが、今回は１ヶ月弱の寮での研修ということで、今までに経験したことのないことだったので参加しようと思いました。また、過去２回訪れたことのあるハワイの地で、観光地だけではないハワイの側面を見てみたいと思いました。そして寮生活ということで、自立しつつ、英語を学ぶことができると思ったからです。英語力をつけること、自分を成長させることを目標に参加しました。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

今回の研修で最も印象に残ったことは、現地の学生さん達の温かさです。毎日の授業に一緒に参加してくれて、英文のチェックをしてくれたり、優しく話しかけてくれたり、私の拙い英語を理解しようしてくれたり、私たちに色々経験をさせてくれようと様々な計画を考えてくれたり、放課後や休日に遊びに連れて行ってくれたりと、とにかく関わった生徒さんたちが本当に優しかったです。一度授業で会っただけなのに、学校で会うと話しかけてくれ、沢山話をすることができました。日本語を学んでいる生徒さんが多かったため、日本語を教え、英語を教わったり、日本食について盛り上がったりと、毎日学生さんの優しさに助けてもらいながら、楽しく英語を学ぶことができました。日本に帰ってからも連絡を取り合っている生徒さんもいます。英語でのメッセージのやり取りは難しいですが、とても勉強になっています。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

研修を通して気づいたこと・学んだことは、咄嗟に英語を発する難しさです。授業では日本語を話してはいけないのですが、「どういうこと？」「わからない！」など咄嗟にでできてしまう日本語を英語で言うのはとても難しかったです。これは３週間ずっとついて来た課題の一つでした。また、最も印象に残ったことについてでも書いたように、日本語が少し話せる生徒さんが多く、その生徒さんとは日本語で話す方が多くなってしまったりと、甘えてしまった部分がありました。積極的に英語を話すことを意識しないと、英語と日本語が混ざった文になってしまったり、うまく伝わらなかったりと、苦戦しました。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

履修の目的・目標でも書いたように、私は中学生の頃から海外に興味がありました。そして今回の研修を通してやはり海外のことが好きなんだなと感じました。そして、今後日本ではなく、海外で生活したいという考えを持つようになりました。海外で生活するには英語が話せることだけでなく、仕事を見つけなければなりません。今、私は文化で建築インテリアを学んでいます。この今学んでいることを海外で仕事にしたいと思っています。その為に建築インテリアの知識を深めるとともに、英語力向上のために、日々の生活の中で英語を学ぶ時間を積極的に作りたいと思っています。アプリや本などを使って単語やフレーズを学んでいきます。そして、現地で出会った学生さんとのやりとりも続けていきたいです。また、海外で働くための情報収集として、現地で知り合ったコーディネーターさんに連絡を取り、制度や生活について教えてもらっています。積極性の大切さも学んだので、今後の学生生活では、授業や行事、長期休暇に海外に行くためにお金を貯めるなど、全ての事に積極的に取り組んでいきたいです。

所属学部学科 | 現代文化学部　国際ファッション文化学科

▶ 履修の目的･目標

私がハワイの研修での目的は外国、ハワイの人々の生活や風習、文化を知りたいということです。生活の中で、ハワイは日本とどのように違っているのか、様々な点を比較したいです。また、その違いは、何によって生まれるのかを考えたいと思っています。また少しでも英語を聞き取ったり話すことが出来るように、そして多くの外国人と積極的にコミュニケーションが取れるようになりたいと思っています。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

現地の学生、先生がとてもフレンドリーだったことがとても印象的でした。プレゼンの準備であったり課題や、日常生活で困った事があれば手を差し伸べてくれました。シャイで控えめな性格の私にとってはとても安心が出来て居心地が良かったです。プレゼンや発表をする授業が多かった事も印象的でした。普段文化の授業ではプレゼンはなかなかしないので最初は慣れませんでしたが、何回かやると緊張もせずに出来るようになりました。学校の周りはとても自然豊かでした。日本ではいつもビルに囲まれた都会で生活をしていたのでのびのびと生活できて良い経験になりました。ワイキキまで出れば都会の雰囲気も味わえるので大自然と都会で学べてよかったです。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

ハワイでは全てEnglish onlyの授業でした。話そうとしてなくても不意に「なんだっけ」だったり「どういう意味だっけ」というような日本語が出てきてしまう事に気がつきました。ハワイに来て言いたい事を英語で口に出す事の難しさを感じました。しかし英語が分からなくても知っている単語やジェスチャーを交えて頑張って伝えようとすれば、先生や現地の学生も最後まで聞いてくれて間違ってれば丁寧に教えてくれました。話そうとする気持ちが大切だと学びました。現地の学生も授業に参加してくれたので沢山交流する機会がありました。最初はまだ恥ずかしさや間違え他ことを言ったらどうしようと言う怖さがあり、会話するのに勇気が要りました。しかし日にちが経つにつれて仲良くなり会話が出来るようになった事がうれしかったです。ハワイ研修で自分から積極的に交流できるようになりました。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

ハワイについてからバスの乗り方や時刻表を探すことから始まり、スーパーの場所を見つけること、授業で必要なものの準備等、日常生活から授業まで自分で何とかして解決しなければならない多くのことに直面しました。そこで、積極性や行動力、自分で解決方法を模索する力などが大きく養われました。このプログラムに参加してから自らさまざまなことにチャレンジしてみようという姿勢に変わりました。またもし難しいことに直面したとしてもチャレンジする姿勢が大切だと学びました。

私は将来、海外で働きたいという夢があります。今回の研修で語学力、行動力、積極的な姿勢の大切さをとても実感しました。まずは研修で自分の英語力が今どのくらいなのかよく分かったので、英語の勉強を頑張りたいです。そしてこれから自分のインターンシップや就職活動などの時期が来るのでその時に今回学んだ自分から動いていく行動力や積極的な姿勢を生かしたいと思います。

所属学部学科 | 現代文化学部　国際ファッション文化学科

▶ 履修の目的･目標

今私英語でのコミニュケーション力は高くないのでまずはコミニュケーション力をつけたいと思います。

それ以外にも英単語などの基礎的な部分も個人で時間がある時などにも学びたいと思います。また、自分を英語で表現する力なども同時に身につけられればと思っています。

ハワイについては私は初めて行くのでとても楽しみな部分が多いです。

歴史や、食文化、現地の人々などとも交流があれば良いなと思っています。特にハワイの洋服、ブランドなどに積極的に触れていきたいと思います。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

今回、ハワイ留学で印象に残ったことはハワイの人々の優しさです。私はあまり英語を上手にはなすことができなかったのですが、いつも笑顔で話しかけてくれたり、授業で英文を書いたときにはいつも確認して間違っていたらなおしてくれました。週末にはバスでは行けないようなところに車で連れて行ってくれました。車で移動しているときも「今日はなにしたの？」など簡単な英文で質問してくてたりしました。私のできる範囲で現地の学生達と会話することができました。他にはみんなで交流するために海でバーベキューなどを企画してくれたり交流をたくさんすることができてとても感謝しています。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

今回、ハワイ留学に参加して思ったことはまず、自分の英語の学習能力の低さをとても感じました。また、自分の英語に自信がないため現地の学生に簡単な英語で話しかけられても焦ってしまったりすることがおおくありました。語学の面ではこれから取り組まなければならない課題をみつけることができました。また、ハワイの文化をたくさん感じることができました。現地の人にウクレレやフラダンスを教えてもらうことができてとても貴重な経験をすることができました。日本ではあまり知られていないハワイの言葉や料理などにもふれることができてよかったです。行かないと気づかなかったことが多かったのでこれからは自分の目で見たり、直接ふれたりしていきたいと思いました。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

自信を持つだけでなくて自信をつけるためにはそれなりの努力をしなければいけないなと思いました。それと同時に失敗を恐れないことも大事だと学びました。現地の学生たちは私が間違った英語を使っても優しく教えてくれたり、わからない単語があったら調べたりしてくれました。失敗をおそれないで挑戦することで間違えに気づくことができ、間違えではなかったときは自信にもつながると思います。これからも失敗を恐れず挑戦し、様々なことを吸収していきたいと思います。

所属学部学科 | 造形学部　デザイン･造形学科

▶ 履修の目的･目標

まずは実践的な日常会話を使えるようにすること。海外でコミュニケーションを取るために重要である英語を使えなければ何も出来ないので最低限のコミュニケーション能力を身につけること。もうひとつは今後の自分のキャリアで活かせるような経験にすること。今後の人生で国内だけではなく海外の経験や、繋がりを持つことでより有利であり、新しい繋がりが出来れば良いと思っている。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

第一印象に地元の学生の反応に違いを感じられた。ハワイの学生は日本の学生とは違い、とても積極的であった。自ら進んでコミュニケーションを取る姿勢を感じることができ恥ずかしがらずに日本語で話す学生もいた。自分は不安ではあったが地元の学生のサポートのおかげで楽しくコミュニケーションを取ることができた。授業のスタイルも日本とは違い、学生の意見を聞くスタイルを作っていた。先生は一方的な講義にするのではなく学生に意見を聞いたりしたり、ただ答えを求めるだけでなく学生に話題を作らせたりしていた。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

自分の意見を積極的に言うことの大切さを学んだ。ハワイの学生はとても積極的で日本人はシャイであまり意見を言わない印象を持っているという話を聞いた。自分も日本人は遠回しな言い方をするがアメリカ人は自分の言いたいことをはっきり言う印象を持った。また現地の人々とコミュニケーションを取ってわかったのが日本人が使うような遠回しな言い方は勘違いを生むと言うことだ。場合によってはトラブルの原因となる。はっきりした意見を言った方が相手の思っていることが鮮明に伝りプラスになることが多いと思った。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

何事にも積極的に取り組む姿勢を大切にしていこうと思う。この研修に参加する際も自分は躊躇いや不安があった。自分は失敗を恐れて何もやらないことが多かったがそれは何のためにもならないし逆に損するだけである。今後の自分のキャリアに関しても視野がもっと広げられたのではないかと思った。コミュニケーションを積極的に取ることにより自分とのつながりや可能性が増える上にまた新しいなにかができると思った。今後の自分のためにも何事にも自ら積極的に物事に取り組んでいきたいと思う。

所属学部学科 | 造形学部　デザイン造形学科

▶ 履修の目的･目標

私は、この研修でコミュニケーション力の向上に特化したいです。海外が好きで、アメリカにもよく訪れるのですが、いつも親に頼ってしまうので、今回は自立した3週間を過ごしたいです。私は将来的にアメリカに住み、仕事をしたいと考えているのでコミュニケーションを積極的に行い、慣れたいと思います。あと、観光ではないので、現地の暮らしを実際に体験してたくさんのことを経験して今後の将来の考えに繋げていきたいです。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

ただの旅行では体験できないようなまた違う、ハワイを観れたことです。私が旅行で訪れた時は、人もたくさんいて、日本人もたくさんいて設備がしっかりしているところばかりで不便することはありませんでした。移動もレンタカーなど困ることはありませんでした。しかし、今回の研修では全く違うハワイをみれたきがします。旅行だけでみたハワイでの思い描いていた､生活とはとても違いました。とても田舎だったので人も歩いておらず､移動も少し治安の悪いバスに乗り、ダウンタウンに出るには1時間30分ほどかけて行くことしかできませんでした。なのでいつも、ダウンタウンに行くと落ち着く事もありました。学校の周りにスーパーなどもなく食べ物にも始めて困りました。しかし、やはり現地の学生のおかげで観光では行けないような場所などをたくさん知る事ができそれはとても素敵な経験ができました。なので、良い面と悪い面のハワイを見るとができ、またさらにハワイを好きになる事が出来ました。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

助け合いと、人の優しさをとても感じられました。日本とは全く違う慣れない環境の中で生活をするということはとても大変な事だと感じました。たくさんの不便な事や問題が生まれました。その中でルームメイト達とお互いに助け合い、困ったらすぐにルームメイトに相談しみんなで一緒になって考えてくれ、解決をしてきました。日本では恵まれた環境いるため、そのような状況には中々ならないので大変でしたが、かなりいい経験ができたと感じています。そして、現地の学生、人々の優しさが本当に感じられました。学生の方々は、私達を受け入れてくれてとても良くしてくれました。私達の不慣れな必死な英語をしっかり理解してくれようとしてくれ、話すときも簡単にわかりやすく話してくれてそれでも私達が分からなければ日本語を調べてくれたり、写真を見せてくれたりと、私達の英語の勉強のサポートしてくれました。放課後や休日には、プランを考えてくれ私達を色んな素敵な場所に連れて行ってくれました。本当にハワイの人たちの心の広さを感じることができ、そして助け合いを学び、ハワイに行ってから物事に対する考え方が自分の中で色々変わったと思いました。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

私の将来の夢はアメリカで働く事なので､その気持ちは研修に行ってさらに増し､英語力､コミュニケーション力をしっかり身に着けたいという気持ちを強く持つことができました。また研修中は、人の話していることが理解できても、自分が伝えたいことが伝えられなかったという悔しい思いもしました。そこで今後は、自ら積極的に英語に触れ合う機会を見つけることで英語でのアウトプット量を増やし、卒業するまでにコミュニケーションができる程度の英語力をつけたいです。そして、この研修に参加し、やってみなくては気づけない事がたくさんあるので、何事も積極的に経験してみる事が大切だと実感しました。これからの学生生活でも、何か迷うことがあればまずは挑戦をしてみようと思います。そこでまた新しい経験をし、成長していきたいです。

所属学部学科 | 現代文化学部　国際ファッション文化学科

▶ 履修の目的･目標

今までハワイオアフ島には何度か家族旅行で訪れましたが、娯楽として訪れたのみだったので、今回の研修を通して、ハワイの伝統や文化について詳しく学びたいと思います。自分の英語力が試される良い機会でもあると思うので積極的に行動して、自分で意味のある研修にしていきたいと思います。また、友人と1ヶ月共同生活をするというのも初めての機会であるので、楽しみつつも身の回りに気を使い、視野を広く持って行動することを心掛けたいと思います。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

わたしが今回の研修で最も印象に残っていることは平日の午後のカルチャークラスです。毎日センテンスを書いた後、ハワイについての歴史を学んだりウクレレやフラダンス、レイ作りを体験しました。最初は時間がかかって大変だったセンテンスの作成も毎日書くことで最後の方は慣れて、書きたいことが山程出て来るほどでした。現地の生徒さんたちに手伝ってもらいながらセンテンスをつくりました。少し英語慣れして来た頃にはプレゼンテーションもあり、数チームに分かれてハワイの神話について調べ、パワーポイントを作ってプレゼンテーションを行いました。ハワイの文化に多く触れることができたこの授業が楽しかったです。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

今回の研修での多くの人との交流を通して、伝えたいことを伝えてみようとすることの大切さを学びました。文法的には成り立っていなくても知っている単語を組み合わせるだけで相手に言いたいことが伝わる嬉しさを実感しました。時々相手が話していることが聞き取れずもどかしい思いをすることも多々ありましたが、そのような時はもう少しゆっくり話してもらったり、もう一度言ってもらうように頼んだりして会話をしました。日本の学生とは異なり、積極的に話しかけて来てくれたり、休日は車を出してドライブに連れて行ってくれたりと、フレンドリーで明るく、親切な人が多く感じました。また、家族と観光で訪れたハワイとは全く違う、ローカルなハワイを見ることも出来ました。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

今回の3週間の研修期間で身につけ、学んだことで1番今後の学生生活で生かしたいと思うことは、積極性と広い視野を持つこと、です。私は実家暮らしで、このような長い期間家を空けること自体も初めてでした。慣れない言語と集団生活に戸惑いながらも、そのような時重要視されるのは、積極性とまず周りに気を使うように心がける視野の広さだと感じました。これらは学生生活だけでなく、今後の人生でも重要な事だと思うので学ぶことが出来て良かったと思います。また、自分の英語力も今回の研修で分かり知る事が出来たので、2年生に進級しても気を抜かず、英語の勉強を怠らないようにしたいと思いました。

所属学部学科 | 服装学部　ファッション社会学科

▶ 履修の目的･目標

英語に触れる機会が授業でしかなく、実際に会話の中で使われている英語に触れてみたいと思った。アルバイト先の面接でバックグラウンドが違う人と関わった経験を教えてと言われた時にバックグラウンドというものに触れる経験があまりなかった為、経験のために長期間海外に出てそれを知り、理解する力を養いたいと思ったのがきっかけで良いチャンスだと思いこのプログラムへの履修を決めた。

▶ 研修で最も印象にのこったことについて

私が行く前までに感じていたハワイと今回経験したハワイの間にあったギャップが一番印象に残った。今までに想像していたハワイは観光客で賑わいすごく都会でその中にある自然は綺麗で暮らしている方達は温和でのんびりしているというようなものを勝手に想像していましたが実際に生活してみるとそれらは一部分のみでその他の場所では色々な文化が混ざりあって色々な人たちが共存している場所であることを体感することが出来た。観光地で有名な場所はとても平和で賑わう場所であったが少し離れると住んでいる人達の様子やお店などの雰囲気もガラッと変わりリアルなハワイを見ることが出来たと感じている。日本で感じるよりも強く貧富の差を感じ、アメリカという国について考える機会にもなった。

▶ 研修を通して気づいたこと･学んだこと

今回のこのプログラムで始めて寮というもので生活し学校では言葉の壁があり、文化の違いを感じ、私にとってこの3週間はとても色々な事を初めて体験する機会でもあった。その中で学んだのは、文化や言葉の違いがある中での人と人との助け合いや、お互いの文化や人柄を理解しようとする気持ちの大切さを学んだ。このプログラムに参加してくれたハワイの学生達もみんな持っている人柄や文化の違いがあり、初めの1週間はそれを強く感じその学生達が生活する中で生活してみるととても良い方向に刺激になることが多く、その中でもみんなで助け合いながら生活している事が色濃く分かってふと3週間を振り返ると自然と私自身もそれを学び、感じて実践していたような気がする。

▶ 今後の学生生活に生かしたいこと

今回のハワイ研修を経て、日本を含めた文化や国柄について興味が湧く様になりそれらを三年生からの卒業研究に生かしたい。そして前にも述べたがハワイの人達の人柄や助け合いの精神はとても尊敬でき、学生生活はもちろん私生活でも生かしていかなくてはならないものだと考える。それは自分に置き換えて考えてみると、私達の学んでいるファッションも一人ひとり考える形や色などが違ってそれらは理解するだけでなく、そこから学ぶ事や取り入れられるものがあるという事を改めて考えさせられた。そしてファッションを文化学園大学という環境に恵まれた場所で勉強できている事を誇りに思い、このプログラムで培うことのできた積極性や目標としていたバックグラウンドを知り、理解するという力を使って残りの学校での授業や学外活動、そして就職活動に生かしていきたい。

グローバルファッションマネジメント実習

授業概要

服装学部服装社会学科グローバルファッションマネジメントコース3年生を対象に、本授業では、実際に企業で働くことを通して、グローバルファッションマネジメントを体験する。国内の企業もしくは海外提携先大学（香港およびオーストラリア）の紹介企業等で中期（8週間）にわたって研修を行う。

到達目標

グローバルファッションマネジメントのために必要なマインド、知識、スキルを実際の企業研修から体得し、これからの大学生活においてどのような学習や研究をしていくのか、また自分たちのキャリアデザインのための基礎的プロセスとして認識できるようになることを目標とする。

実施地域

ブリスベン、シドニー、香港、東京、ロンドン

期間／スケジュール

2017年10月9日（月）～12月1日（金） 8週間（※1名のみ2017年8月8日～2017年12月29日　5ヶ月間）
学生の希望やスキル等に合わせて、複数のパターンを組合せて実施した
・語学研修(4週間)＋企業研修(4週間)
・企業研修(8週間～5か月)

成果と課題

実施地域が海外であるか国内であるかを問わず、コミュニケーション能力の重要性を実感したという感想が多くの学生から出ていたことは、語学力を過剰に重視する姿勢を相対化する効果が企業研修にあったことを示すものである。また、語学力の不足を自覚し、その改善を今後の課題に挙げている学生も多く、今後のキャリアデザインの方向性を認識する機会として有益であったと考えられる。

本年度は学生によるインターンシップ先の自己開拓が2件あり、本実習に対して自発的かつ主体的に臨む姿勢が学生の間に浸透しつつあることは、プログラムの継続的実施の成果といえる。一方で、事前準備が不十分で目的をはっきりと意識できないままに実習にはいった学生もいたため、来年度以降は、実習の成果を最大化するためにも、事前準備の段階で実習に対する目的意識の明確化をはかるべく、指導を行っていく必要があると考えられる。

所属学部学科 | 服装学部　服装社会学科　グローバルファッションマネジメントコース

▶ 実習企業名･部署と実習期間

VF Corporation（香港）　2017年10月9日(月)～12月1日（金）(8週間)

▶ インターンの目的･目標

To learn the knowledge of fashion and economic skills.
VF is the 2nd largest apparel company, so I thought I was able to gain wide range of business experiences working at VF.

▶ 業務内容

During the 1st month, I was in the Product Design and the Product Development team working with the Design Director on the project of “Understanding how Chinese millennials adopt global fashion trend and what is fashion means to them”.
I was asked to attend an essential meeting with VF New York team and representative of Cotton Incorporated where we went through SS19 fashion and fabic trend. I also cooperated with marketing team on Hypebeast Studio shooting.
In the 2nd month I was in the Product Management working closely with Product Management Director and his teams on the project of “Bringing the understanding to the X-Line from concept to consumer with translate of the trend and brand point of view to online millennial consumer for FW18 collection”.

▶ 学んだこと

I worked in house in the production department and was eager to learn as much as possible. After second months into the inership, I asked my boss if I could assist in a few other departments. My boss was thrilled that I wanted to take on more and then started giving me more important assignments because he knew I was capable and cared, so I learn that never be afraid to speak up. Always take time to meet new people and learn from their experience, because you never know where it could lead. Thats mean network plays a very imprtant role during the internship.

▶ 反省点･課題

During internship, I was fortunate enough to have experienced firsthand and learned many different sides of what goes into a project, the general process of how a project is initially planned, developed and completed.
I found that the workplace itself was relatively diverse from what I had observed working at “company”. This large range of people with different background and they work together and organize their work efficiently depend on respect.

▶ 後輩に伝えたいこと

Do your research before an intern interview because you want to make it clear that you know about their products well. If you want to work in the design team, you should refer to their last few collections.

▶ かかった経費

宿泊費… VTC学生寮200HKD/一泊×8週間（56日）＝11,200HKD
交通費… バス＋地下鉄 約40HKD/寮～オフィス往復×勤務日数（平日・40日）＝約1,600HKD
食費… 昼：50HKD前後（主に会社の方と一緒に外食）夜：平均100HKD前後（個人差アリ）

所属学部学科 | 服装学部　服装社会学科　グローバルファッションマネジメントコース

▶ 実習企業名･部署と実習期間

BRAND NEWS 2017年10月10日～12月1日
（1ヶ月と3週間）

▶ インターンの目的･目標

- 今まで学校で学んだ内容を基に業務に適用してやりこなす。
- 日本のアパレル企業を経験して理解する。
- 自分が持っている力や長所を活かして
  インターンシップの作業をする。

▶ 業務内容

- ショールームにあるサンプルの商品の整理。
- F/Wのサンプルにタグ付き。NARSやChristian Louboutinの化粧品の整理や貸し出し。
- 2018 S/Sのファッションショーや展示会のお手伝い。
- ファッションショーに関したSNSや記事などをまとめてPPTやEXCELを作る作業。
- SAMPLE SALEの準備。
- 2018 S/Sサンプルの商品に入れ替える作業。

▶ 学んだこと

インターンを通じて海外のブランドをどうやって日本市場で成功するかについて学ぶことができた。
ブランドを理解して、ブランドがターゲットする顧客とのコミュニケーションや色々なビジネスプランを立案し、ブランド価値を高めることについても理解できた。
また、アパレルのPR&マーケティングの仕事を現場でみて経験したのでもっと分かるようになった。
EXCELやPPTの実践的な使い方を体験することもできた。

▶ 反省点･課題

インターンシップが始まる前は不安や緊張感があったが、心の中では自分に凄く良い機会だと思って積極的にインターンに臨んでいた。ほぼ2ヶ月間は長くも感じたが、あっという間だった。
最初は慣れてなかったため任された仕事がよく理解出来なかった。だんだん慣れてきてやりこなす自分がみえて良かった。その日に任される勤務が事前には決まっていなかったので、前もって決まっていれば良かったなと思った。
インターンを経て見つけた新たな目標は、社会人としてのコミュニケーション能力を高めて、もっと積極的に行動することだ。例えば、任される勤務以外にも自らできる仕事を探して行動すれば、色々なことが経験できると思う。今後コミュニケーション能力を高めるために、もっと自分から前向き姿勢で相手とのコミュニケーションをしようと思う。
今回､国内でのインターンを通じて､自分を振り返る機会になり､社会人としてのマナーや日本のアパレル業界の全体の流れを知り､PRの仕事に関して興味を持つきっかけにもなった。今後就活にも役に立つと思うのでこの経験を活かして就活に進みたい。

▶ 後輩に伝えたいこと

インターンシップに臨む前に自分の目標をちゃんと立てて参加した方がいい。
インターンを通じて、感じた心がけるべき態度はコミュニケーション力や積極的に行動することだと思う。

▶ かかった経費

交通費、食事代。

所属学部学科 | 服装学部　服装社会学科　グローバルファッションマネジメントコース

▶ 実習企業名･部署と実習期間

KOYO(香港)　2017年10月9日(月)～12月1日（金）(8週間)

▶ インターンの目的･目標

この海外インターンシップを経験するにあたり、私が自身に掲げた目標は次のである。一つ目はデザイナーズブランド会社のビジネスがどのような流れで行われているのか全体の概要を掴むこと、二つ目は日常的に英語を使用することで語彙数や会話力を伸ばすこと、三つ目は自分がどのような仕事をしたいのかを見極めること、そして最後に何事も勇気を出して積極的に取り組むことである。

▶ 業務内容

第1週：KOYOの持つ3ブランド(KOYO, Avenue1218, Marcket Liberty)の店舗で実際に飾るクリスマス装飾のアイディアを練り、写真を集め、最終的にPPTにまとめて提出する。
第2週：2018SSのKOYOコレクションに関する画像を集め、PPTでまとめて提出する。
第3週：マネージャーであるジェファニーから『KOYO日本進出のための方法を考えてほしい』と言われたので、何を調べるべきかを考え、情報を収集。
第4週：第3週に続き、日本におけるEコマース情報の収集およびPPTの製作開始。
第5週：第3、4週に引き続きPPTを作成、およびPhotoshopによる広告用画像の処理。
第6週：日本におけるSNS、各種メディア、ファッションイベントに関する情報収集
第7週：日本のセレクトショップを選出し、そこへメールおよび電話でアプローチ。
第8週：KOYO日本進出のためのPPTを作成、提出。12月5日に行われるファッションショーのモデル審査における受付、カメラ、および審査補助。
追記　12月5日に行われるファッションショーにおける受付、雑用

▶ 学んだこと

今回のインターンにおいて、私は先に定めておいた目的・目標をおおよそ達成できたと感じている。会社のビジネスが流れるためには常に目標と締め切りを設定して分業していることを学び、ファッション界・ビジネス・マネジメントの英語に慣れ、そして今後自分がどのような仕事がしたいのかも見えてきたためだ。しかし､私がこのインターンシップで最も強く学び､感じたことは「自分がこんなにも実力不足なのか」ということである。というのも『KOYOが日本進出するための情報を集めてほしい』という仕事に私は非常に時間をかけてしまったが、本当にその必要があったのか今では疑問に思うからだ。恐らくKOYO側はあくまでその情報を集めることまでを私に求めていたのにも関わらず、私はそれが実現できるようにしなければいけないと思い込んでいた。この仕事をもっと短時間で終わらせられていれば他の業務や仕事も経験できたのではないかと思うと、そこが少し残念である。

▶ 反省点･課題

このインターンを通じて見つかった私の反省点、課題は、『勝手に盛り上がって独り善がりな仕事をしてはいけないということ』である。私はできるだけ先を読んで行動できるようになることを目指しているが、今回はそんな深読みをし過ぎて一人で勝手に悩んで深みにはまってしまった。今後この弱点を克服するには、以下のことを心がけていこうと考えている。必ず締め切りを設定すること、大局の目標と直近の目標を見極めること、そして悩みだしたら必ず誰かに相談することだ。締め切りを設けなければ仕事に無駄が増えやすい。また大局の目標ばかりを見ていると目前の仕事が疎かになってしまいがちだ。そして自分では越えられない悩みも、他の人のアドバイスで簡単に抜けられることがある。この3点を達成することで、私は様々な視点から自分の仕事や会社の現状を把握できる人間になっていきたい。また補足となるが、英語のみならず語学力をもっと伸ばしていきたい。

▶ 後輩に伝えたいこと

仕事には真面目に全力で取り組むことが必要不可欠だ。しかし求められている以上のことをする必要はない。相手が求める以上のことをするのは、時に相手に余計な負担をかけてしまうこともあるからだ。何が自分に求められているのか、どこまでが自分に出来る範囲なのか、正しく見極めることが重要である。

所属学部学科 | 服装学部　服装社会学科　グローバルファッションマネジメントコース

▶ 実習企業名･部署と実習期間

Otis Jaxon Ltd.（イギリス・ロンドン）
2017年8月8日～ 2017年12月29日（5ヶ月間）

▶ インターンの目的･目標

世界5大ファッションショーも行われているイギリス・ロンドンにおいて、実際に現地ではどのようなファッションマーケティングが行われているのかを学ぶ。そして、日本との違いを考え、日本文化の長所を活かしたマーケティング戦略の企画、提案できるようにする。

また、現在では主流となってきているEコマース業だが、その経験がなかったため、どのような商売方法、ビジネス戦略、顧客ターゲットなどを本場の英語で習得することを目的とした。

▶ 業務内容

Otis Jaxon Ltd.は、ロンドンにあるEコマース ファッションジュエリー 英国籍企業である。社員は4名、インターン生が4～6名在籍。

主な業務として、オンラインにおいて受けたオーダー商品（通常1日約60件、クリスマス時期は1日に200件ほど）をイギリス国内及び海外へ発送すること。また、インド、タイまたはメキシコからの商品の受注入荷作業、ホールセール処理を行う。

3ヶ月目よりインターンシップリーダー、フラッシュセールリーダー、カスタマーサービス担当となる。リーダーとして他のインターン生にその日の様々な仕事を振り分けた。フラッシュセールとはイギリスにおいて短期間（3日間ほど）で行われるオンラインのセールのことであり、私は商品選別から商品管理、価格設定、及び発送と、最初から最後まで責任を持って対応した。

その他に、メキシコへの商品発注の際のスペイン語翻訳･通訳、SNS担当（Instagram, Pinterest, Facebook)、展示会準備及び運営である。

▶ 学んだこと

インターネットを使った商売では、実際に顔が見えないお客様を相手にするので、自分では丁寧な対応をしたとしても伝わりづらいところがある。しかしながら、メールひとつに対しても、温かい文章や言葉遣いに気をつけることで相手に信頼され、ブランドへの信用が高くなる。Eコマースでは購入してくださったお客様からのレビューは一番のブランド信用を証明できるところであるので、返品・交換の対応が一番大事である。すぐに丁寧に対応し、蔑ろにしないからこそ、例え購入した商品に不信があったとしても、挽回できるチャンスがある。

ロンドンのほとんどのカスタマーサービスはあまり丁寧な対応をとってはいなく、そこに目をつけた私は、日本人らしいおもてなしの心で対応したおかげでレビュー評価がさらに上がり、売上貢献に繋がった。日本文化に沿ったマーケティング戦略を考える力を学んだ。

▶ 反省点･課題

課題として、まだ環境に慣れていないにも関わらず、日本人らしく働きすぎて、当日欠勤をしてしまったことが3日間ほどあった。これは、休日である土日も出かけたり、違う場所で働いたりしてしまい、しっかりと休養をとっていなかったことが原因である。イギリス人上司より、日本人は働き者でとても感心するが、いきなり体調を崩されるとやはり心配してしまうし、また人が急に足りなくなってしまうと、対応できるものにも対応できなくなり、ブランド評価が落ちてしまう可能性がある。せっかく積み上げてきたのに、壊れるときは一瞬であるため、常にスケジュール管理と体調管理は社会人としての常識であるため、これを心がけて行きたいと思う。休むときは休み、働くときはしっかりと働くメリハリの付け方をもっと学んで行く。

▶ 後輩に伝えたいこと

最初から最後まで自分のインターンシップを計画・実行したため、とても充実のあるインターンとなった。自分が今までにやってきてないことに挑戦することでたくさんの発見や学びを得られるので、すでに敷かれたレールの上を歩くべきなのかはしっかりと考えた方が良いと思う。

▶ かかった経費

滞在期間：5ヶ月間
合計約1,200,000円～ 1,500,000円
旅費：110,000円
宿泊費：約750,000円（1ヶ月家賃約147,000円/900ポンド）
※Airbnbにおいて契約、シェアハウス（外国人4人共暮らし、キッチン風呂トイレ共有)、プライベートルーム、庭付き）
交通費：150,000円（3ヶ月定期券：70,000円ほど）
食費：月30,000円
その他雑費：医療費、日用品、娯楽費

当時レート：1ポンド155 ～ 160円とする。

所属学部学科 | 服装学部　服装社会学科　グローバルファッションマネジメントコース

実習企業名･部署と実習期間

語学学校：ELS Sydney(シドニー)　2017年10月9日(月)～11月3日(金)(4週間)
提携校：Whitehouse(シドニー)　2017年11月6日(月)～12月1日(金)(4週間)
企業１：APG&Co.(シドニー)　2017年11月6日(月)(1日)
企業２：Akira Isogawa(シドニー)　2017年11月14日(火)～11月18日(土)(4日間)
企業３：CUE Clothing Co.(シドニー)　2017年11月20日(月)～11月23日(木)(3日間)
企業４：Helen Kaminski(シドニー)　2017年11月27日(月)～11月30日(木)(3日間)

インターンの目的･目標

仕事をする上で日本とオーストラリアの違いを自分なりに理解すること、海外で働くことの理想と現実を知ること、自分の実力を知るということがインターンの主な目的でした。語学の面ではネイティヴの話すスピードでも内容を大まかに理解できるようになること、自分から積極的に英語を使って話すことを目標にしました。また、このような機会を得ることができたので後悔をしないように過ごそうと思って取り組みました。

業務内容

語学学校終了後は基本的に週三でインターン、残りの日は提携校のWhitehouseで講義を受けたり卒業イベントのお手伝いをしました。APGではマーケティング部署でライバル会社の商品を各カテゴリーの値段(高い・中間・安い)に分けその写真を整理する作業や、自分の好きな日本のブランドについて説明するシートを作りました。どちらもワードを使いましたが使えることが当たり前という感じでした。Akira Isogawaは個人なので部署はなく、週末に倉庫販売を控えていたため主にアイロンがけやボタン付けなど、商品を売れる状態にする作業を行いました。一年時の実習の授業がここで役に立ちました。販売日は商品をたたむ作業と売り場のサポートをしました。CUEではデザイン部署で商品に使われる布をもとにデザイン画を描いたり、倉庫整理などを行いました。Helen Kaminskiではデザイナーのためのインスピレーションボードを作ったり、倉庫販売の商品にマークをつける作業を行いました。

学んだこと

企業によって差はありますが帰宅時間が日本より早く、その分お店が閉まる時間も早かったです。またAkira Isogawaでは倉庫販売の日に合わせて全ての商品を完成させるのではなく未完成でも値段を下げて販売していました。仕事を怠っているのではなくプライベートとの時間のメリハリがしっかりしているように感じました。

また私の拙い英語で何度も質問しても、どの人も嫌な顔ひとつせずに答えてくれたので正直日本よりも質問がしやすかったです。質問することで自分が最初に解釈したことと相手が言いたかったことの違いに気づくこともあり、積極的に質問することは大事だと思いました。反対にAPGでは私の英語力のためにインターンを一日で断られてしまい、この企業が求めていることと自分の実力の差を痛切に実感しました。四企業でのインターンを通して、海外で理想通りに働くためには英語ができたら確かに良いですが必要なスキルを身に付けていることが大事だと感じました。

反省点･課題

事前準備ついて、英語は日常で使える英会話の勉強をした方が役にたったのかなと思います。また、コミュニケーションをとる上で日本のことや自分の大学のことについてもちゃんと知っておいた方が良いと思いました。オーストラリアは歯科の保険が効かないので親不知は抜いておくべきでした。インターン中は、衣服に関する英単語を辞書で引いたりしていたのでそれも事前に知っていたらスムーズに作業ができたと思います。

今後の課題としては現地で英語を聞き取ることに時間がかかったので特にリスニングに力を入れて継続的に英語の勉強を続けていきます。また積極的に会話などをしたつもりでしたが、日本に帰ってきて改めて自分は積極性が足りないと思いました。なのでこれから就職活動をするにあたり積極的に物事に取り組めるように心がけたいです。そしてその積極性に伴いコミュニケーション能力も自分には足りないので今後鍛えていきたいと思いました。

後輩に伝えたいこと

後悔しないで過ごすために事前準備は本当に大事です。仮につらいことがあってもそれを楽しむくらいの気持ちでいた方がいいかもしれません。自分の選択で起きた良いことも悪いことも、全て経験だと考えて今後にどう生かせるかが重要だと思います。

かかった経費

航空券代（総合）：約160,000円
ホームステイ費（斡旋料含む）：約400,000円
語学学校研修費：約160,000円
食費：約30,000/月
その他娯楽費等：150,000円

所属学部学科 | 服装学部　服装社会学科　グローバルファッションマネジメントコース

▶ 実習企業名･部署と実習期間

KOYO 2017年10月9日(月)～12月1日(金)(8週間)

▶ インターンの目的･目標

まずひとつめの目的及び目標は、英語と中国語の両方が使える香港に滞在することで現段階の自分の語学力を把握し、二ヶ月間で伸ばすこと。

そしてもうひとつは、将来的に東アジア(特に中華圏)で働きたいと考えているので、インターナショナルな香港で仕事面と生活面両方において多国籍文化を体感し、将来のビジョンをより明確にすること。

▶ 業務内容

特に決まった部署には配属されず、8週間で様々な業務を行った。

まず最初の一週間は、KOYOとAVENUE1218,Market Liberty(いずれもKOYOプロデュースのセレクトショップ)3ブランドのクリスマスシーズンのVMDを構想し、パワーポイント で発表した。その次の週からは三週間程時間をかけて、KOYOの日本進出に向けた調査を行った。会社のパソコンと自分のスマートフォンを使い、主に【KOYOのような系統のスタイルで影響力のある日本人(インフルエンサー)】【KOYOのような海外ブランドが参加できるような日本のファッションイベント】【KOYOのスタイルに合ったセレクトショップ】の三つを一週間毎に調べた。その調査の合間にKOYO2017年秋冬のオーダーシートに掲載するアイテム画の撮影を、KOYO専属カメラマンのアシスタントとして補助をしたりしながら、インターン前半は終了。

インターン後半初週(5週目)は､中国の広州へKOYO2018年春季ファッションショーのため社員全員と二泊三日の出張をした。出張初日はモデルオーディションから始まり、選考及びSNSに掲載する写真とウォーキング動画の撮影を担当した。二日目のショーリハーサルでは30コーディネート分の衣装のセッティングとモデルのフィッティングを担当、三日目のショー本番でも舞台裏でモデルのフィッティングを担当した。またショー終了後にショー会場で行ったKOYO2018年夏秋新作発表会の準備も行った。三日目の中国出張が終わり香港に戻ってからは、12月5日に開催した次のファッションショー、KOYO2017年イブニングドレスショーの準備に取り掛かった。こちらもモデルオーディションから始まり、選考用写真とウォーキング動画の撮影、モデルのフィッティングとドレスの撮影を担当した。そしてインターン最終日にはMarket Libertyの店舗へ行き、私が構想したVMDの飾り付け・ディスプレイを行った。

▶ 学んだこと

最初のVMD構想でプレゼンテーション力の大切さを学んだ。ただでさえ自分の頭の中にあるイメージを他人に伝えることは難しいのに、その上当然ながら日本語が通じないため多言語で説明しなければならなかったので、自分の語学力の足りなさも痛感した。その次のKOYO日本進出に向けた調査では、自分ではなかなか良いと思った案が却下されることが多々あり少し落ち込んだが、どうしてダメなのか納得のいく理由を聞いて視野を広く持つことを学んだ。またこの調査はインターネットのみを利用した調査だったので調べられる範囲に限界があり、それに三週間も費やすのが勿体無く思ったことをマネージャーに正直に話したら、他の業務も任せてもらえるようになった。そこで改めて何事も口に出して伝えなければ伝わらない、(その環境を)自分で変えようとしなければ変わらないという当たり前だけど大事なことに気づくことができた。中国出張のファッションショー参加も、自分から参加したいと申し出たからこそ経験できたことなので、当たり前のようで難しい「口に出す」ことを意識して過ごした。ファッションショーではスタッフ皆がとても忙しそうだったので、常に目を配り気づいたことは言われる前に進んで行うことを意識して行動した。そしてショー後の新作発表会で、普段同じオフィスにいながら業務ではなかなか関わることのないデザイナーたちの新作一点一点に対する工夫や想い、こだわり等を知ることができた。その中でもどのデザイナーにも共通していた「顧客のニーズに応える」という姿勢が本当に素晴らしく、その大切さを感じた。香港に戻ってからまた新たなショーに向けて一から準備をしたことでショーまでの流れも学ぶことができたし、その中でモデルとのコミュニケーションの取り方や大切さも学んだ。最後に行ったMarket Libertyの店舗のVMDは自分が構想した案が採用され、それを実際に自分の手で形にするということができ、大きな達成感を得て8週間のインターンを終えることができた。

▶ 反省点･課題

事前準備としてphoto shopを使えるようになるため講座を受けたが、それだけで満足してしまいその後個人で練習をほとんどしなかったため、インターン先でスタッフに使えるかと聞かれたときに､自信を持って使えると言えなかった｡もっと使えるようにしておけばまた違った業務をさせてもらえたかもしれなかったのでその点は悔しく思う。またKOYO日本進出に向けた調査を三週間かけて行ったが、インターネットでの調査にそんな長時間をかけることに最初から疑問を持ちつつもなかなか言い出すことが出来ず、貴重なインターンの時間を本当にやりたいことをせずに過ごしてしまった気がする。最終的には本心を伝えたことで良い方向には向かったが、もう少し早くそうすべきだったのではないかという気持ちもある。

今後の課題としては、やはり今回一番強く感じたのは語学力の大切さなので英語と中国語の習得を一層努力しなければならないということが最大の課題である。今までのようにただ漠然と勉強するのではなく明確な目標を持って取り組むべきだと改めて思ったので、まずは自分のレベルを形に表すために検定やテストを積極的に受験しようと思う。8週間のインターン中ほとんど中国語を使ったため中国語が伸びたと思えたので、手始めにHSK(中国政府認定の中国語検定)を帰国後に受験した。このモチベーションを今後も維持し続けたいと思う。

▶ 後輩に伝えたいこと

わからないこと、疑問に思うこと、思ったようにいかないこと、海外でのインターンでは特にこのようなことがたくさんあると思うが、難しいことだったら一人で悩んで解決しようとしないで､インターン先の方だけでなく日本にいる先生方等にも相談するのも手だと思う。そして一番の解決策はやはり「自分の想い･考えを相手にはっきり伝える」ということなので、それを忘れずに限られた短い時間を有意義に過ごして欲しい。

▶ かかった経費

宿泊費… VTC学生寮200HKD/一泊×8週間（56日）＝11,200HKD
交通費… バス＋地下鉄 約40HKD/寮～オフィス往復×勤務日数（平日・40日）＝約1,600HKD
食費… 昼：50HKD前後（主に会社の方と一緒に外食）夜：平均100HKD前後（個人差アリ）

所属学部学科 | 服装学部　服装社会学科　グローバルファッションマネジメントコース

▶ 実習企業名･部署と実習期間

ELS Sydney (シドニー)　　2017年10月9日(月)～11月2日（木）(4週間)
H.P.FRANCE (表参道)　　2017年11月6日(月)～12月8日（金）(5週間)

▶ インターンの目的･目標

私は日本で就職すると決めていたので、シドニーの語学学校に4週間通った後、国外ではなく国内でのインターンシップを選択しました。 5週間のインターンシップに臨むにあたり、以下の4つの目標を立てました。 業界について知り、広報の仕事を学び、それによって得たものを生かし、就職活動に向けての軸を探す、というものです。

▶ 業務内容

【ある1日の流れ】9:30出社。出社後はまず清掃をします。会議や商談もプレスルームで行うことがあるので、常に清潔を保っています。
10:00からプレスミーティングがあります。毎週月曜は全社員でのミーティングを行います。
10:30くらいになると、スタイリストさんが雑誌やテレビの撮影用に商品のピックアップにいらっしゃいます。
13:00から1時間のお昼休憩をはさみ、
14:00にはSNS用の撮影をしました。
15:00からは、ほぼ毎日出版社から雑誌が届きくので、リースした商品の掲載確認をします。商品のページはスキャンをした後、各ブランドにお送りします。また、掲載情報のインフォメーションもします。
16:00になると、今回のインターンシップ期間に2018年春夏の内覧会の時期と重なったので、その準備をしました。
18:00に退社 というルーティーンでした。

▶ 学んだこと

私がインターンシップを通じて学んだこと、プレスという職業に必要だと感じたことは以下の4点です。
1つ目は「記憶力」です。プレスは本当に多くの人と接します。特にサンプルセールや内覧会の期間中は毎日異なる人の接客をするのですが、上司はお客様一人一人の性格や好みを隅々まで熟知されていました。
2つ目は「対話力」です。プレスルームには、この業界では知らない人がいないような大御所の方や、ライターさん、エディターさん、スタイリストさんなどの関係者が多くお越しくださいます。そのような方々とも円滑なコミュニケーションを取れる対話力が必要だと感じました。
3つ目に「対応力」です。仕事をしていると、ときどき予想もし得ないハプニングが起こります。例をあげると、内覧会では媒体撮影へのリース対応も兼ねているのですが、1つしか用意されてない商品を2つの媒体からほぼ同じ期間にリースの注文が入ったことがありました。このとき、両者の特集の内容を見極めたり、迅速な対応をする力が求められると思いました。
4つめに、「商品知識」です。インターンシップを通して、忘れられない上司の言葉があります。それは「私たちプレスは誰よりも商品への知識がなければならない。さらに言えば、誰よりも自信を持って強い愛情を持っていると胸を張れることが必要だ」というものです。これは直接私が言われた言葉ではないのですが、日常のなかでこのような会話があることはとても素敵だと思いました。

▶ 反省点･課題

今回のインターンシップにおける反省は、業界のシステムや専門用語、商品知識に関する事柄を“より深く”ブラッシュアップしておけばよかったという点です。
オーストラリア留学の準備に時間を割いた結果、国内インターンの準備を怠ってしまったと思います。H.P.FRANCEは、洋服よりもジュエリーやアクセサリーの取り合いが多く、授業で学んだ項目の他に“その会社の特性に沿った知識”をインプットしておく必要があったと思います。

▶ 後輩に伝えたいこと

このインターンシップは11月に終わるので、12月以降は他コースの学生がテストやレポートに追われている時期に就職活動の準備に専念することができます。この時期に自己分析や面接練習、OB/OG訪問や他社のワンデーインターンシップなどを経験しておくと就職活動に向けて良いスタートダッシュが切れると思います。是非インターンシップで学んだことを無駄にせず、将来のビジョンを明確にし、道を切り開いてください。

▶ かかった経費

経費以外で現地で使ったお金は総額約200,000円程度だったと思います。 ※フェスの出店では、セキュリティの関係でカードの支払いのみという日本では珍しいシチュエーションがありました。クレジットカードは常備しておくと安心です。

所属学部学科 | 服装学部　服装社会学科　グローバルファッションマネジメント

▶ 実習企業名･部署と実習期間

語学研修：ELS（シドニー)10月9日～11月17日　(6週間)
ファッション研修：WHITE HOUSE(シドニー）11月20日～12月1日（2週間　週2日）
企業研修：CUE(シドニー）11月20日～11月26日（1週間）　HELEN KAMINSKI(シドニー）11月27日～12月1日（1週間）

▶ インターンの目的･目標

今回の研修で海外が初めてで、英語力に自信がなかったので常に積極性を持ってコミュニケーションをすることを目標にしました。語学学校では私と同じように英語を学びに来ている人が沢山いるので、私から話しかけるように意識していました。また将来自分が何をやりたいのか具体的に決まっていなかったので、様々な経験をして視野を広げられることを目標にしました。

▶ 業務内容

CUEでのインターンでは主に本社で作業することが多かったです。デザイナーさんのお手伝いや生産管理、パタンナーさんのアシスタント、テキスタイルや副資材の管理など短期間しかなかったので幅広いジャンルの仕事をやらせていただきました。また来季のコレクションのミーティングにも参加させてもらい実物を拝見させていただきました。
HELEN KAMINSKIではEコマースや市場調査などアジアの人たちからの人気が強いのでそのようなことを中心にしていました。また年に数回しかないハウスセールのお手伝いもして貴重経験ができました。

▶ 学んだこと

インターンに置いて学んだことは、どの企業もグローバルに特化したマーケテグやPRを重視していることが分かりました。自分たちのブランド価値にとらわれるのではなく、他国の消費者は何を求めていて、どのように商品をPRしていけばよいのか国ごとの文化や流行などもリサーチして企画することが重要だと思いました。また全体として言えることは、一人一人が意見を持ち常に発言していくことが大切なことだと考えさせられました。ミーティングでも上下関係関係なく物事をはっきり言い合っているのが印象的でした。同じ目的に向かってやり遂げようとする姿勢が私の「仕事」という意識が変わりました。

▶ 反省点･課題

英語の勉強は単語だけでもいいから知識を沢山学んでおくべきだと思いました。もちろん文法とかも大事ですが、語学学校の人たちは会話をするときに分かりやすい単語で伝えたり、簡素にまとめて発言している印象があったのでもっと力をつけておけばよかったです。また、積極性は本当に大事だと思いました。意識はしていましたが、学校の人たちは常に発言をし、質問をしていたので私ももっとこうすればよかったと後悔する時もありました。なので大学の講義やゼミ活動で分からないところがあった時は迷わずに発言していきたいと思いました。就活でも先輩などに積極的にお話するなど、この経験を力にして様々のことに挑戦していきたいです。

▶ 後輩に伝えたいこと

今回の経験で何事も挑戦することが大切だと気付きました。最初から諦めるのではなく、まずはやってみてそこから何を得られるのか、どう自分に活かせていけばよいのか、きっと見つかると思うので何かしてみたいことがあるならやってみることを薦めます。自分次第で変われるのでこれから沢山のことを経験して楽しんでください。

▶ かかった経費

航空代　160,000円
ホームステイ代311,000円
語学研修165,000円
交通費25,000円
食費40,000円
携帯代10,000円
雑費50,000円

所属学部学科 | 服装学部　服装社会学科　グローバルファッションマネジメントコース

▶ 実習企業名･部署と実習期間

ラフォーレ原宿　2017年10月10日～12月1日(8週間)

▶ インターンの目的･目標

私がラフォーレ原宿にインターンへ行きたいと思った目的は、ディベロッパーという世界を体験してみたかったこと、体験した上で自分の就職先をどうしていこうか明確にするためです。 ディベロッパー目線から見えてくるアパレルの現状、ディベロッパーの仕事内容の理解をすること､職場の人と少しでも多く話すこと､分からないことはすぐに聞きにいくことを目標として行きました。

▶ 業務内容

前半1ヶ月間はオペレーションという、今現在ラフォーレ館内に出店して頂いているブランドさんと1番関わる部署で、イベントに向けての相談、売り上げを取っていくための反省などを店長さんや社長さんなどと会議する場に同席させて頂いたり、展示会やコレクションへ同行させて頂いたり、イベントをやるに際してブランドさんへ参加していただくための説明会のお手伝い、覆面調査などをさせて頂きました。 後半は、施設管理というラフォーレのビルを管理していく部署へ行き、ラフォーレが1年間で使う光熱費の勉強から、ブランドさんがお店を出店したり退店したりする際の工事の説明会への同席、ラフォーレ館内にいらっしゃる防災センターや内装工事の専門の方々と同行して仕事内容を見せてもらいました。事務的なこととしてはデスクにいる間は電話を取っていました。

▶ 学んだこと

私は今回インターンに行く上でわからないことをうやむやにせず積極的に質問すること、社員さんが話しかけてくれるのを待つのではなく自分からなるべく話しかけに行くことを目標にしていました。できなくても電話を取り続けましたし、最初は全てわからないので取って聞きながら覚えて行きました。その姿勢をすごく褒めていただきました。 インターンは良くも悪くも会社を見せて頂く上でお客さまのような扱いだと私は思っていて、インターンであったから色々なところをくまなく見せて頂けたと思っています。なので、積極的に色々な部分を見せて頂いてください。見に行ってください。私はアルバイトとして継続させて頂いている、というのもありますがインターン中に色々見せて頂いたものがアルバイトですごく役に立っていますし、アルバイトとなるとやはり参加できない部分も多く、インターンの2ヶ月間は本当に貴重な期間であったと再認識しました。

▶ 反省点･課題

なるべく沢山の社員さんとお話しするように心がけていましたが、やはり関わりがあまりない方だとお話しすることも少なかったりして話せない方も沢山いらっしゃいました。今、幸いにアルバイトとしてインターンの時とは違う部署にいるため多くの方とお話していますが一番の反省点はもっとお昼を沢山皆さんと食べに行き、お話しを沢山聞かせて頂けばよかったと思います。自分から誘うのが気後れしてしまったというのもありますが､やはり仕事場を離れたところで聞けるお話しで発見になることも沢山あったなと思っています。 パソコンのスキルはやはり最低限必要なように感じました。加えてビジネスのメールの送り方も全て見ておけばよかったと思います。また、今回インターンを通して分からないことをすぐ聞くようにするという目標がありましたが、気をつけてはいても物怖じしてしまい中々聞きに行けなかった部分が沢山ありました。今思うともっと早く聞いておけば、と思うことが沢山あります。(パソコンの使い方など特に。聞いておけばもっと効率よく作業出来たと思うので)なので、これから先働く上で分からないことは怖がらずすぐにどんどん聞いていくことを今以上に心がけたいと思いました。

▶ 後輩に伝えたいこと

2ヶ月インターン、その後今現在もアルバイトとして働かせて頂くけるということはとても貴重な機会ですし私にとってはプラスでしかないことだと思っています。悔いのない選択をしてください。

▶ かかった経費

・ランチ代　1,000円 （毎日の平均の値段）　・交通費　約300円 (1日の値段)

所属学部学科 | 服装学部　服装社会学科　グローバルファッションマネジメントコース

▶ 実習企業名･部署と実習期間

語学学校：Tafe（South bank）　　2017年10月9日（月）～11月3日（月）（4週間）
企業名：Adrift（woolloongabba）　2017年11月6日（月）～12月1日（月）（4週間）

▶ インターンの目的･目標

一番の目標は大学へ入ってから衰えてしまった英語力を向上させることです。また、海外の人はどのようにファッションを楽しんでいるのかを知り、もっとファッションの視野を広げたいと思いました。そして、オーストラリアは移民が多いことでも知られているので他の国の方と関わる機会も多く、異文化を感じ、知ることを目的としました。

▶ 業務内容

インターンを行ったのは月曜日から金曜日の午前10時から午後4時までの間です。１つのオフィスで全ての作業を行うところだったので､その日に手伝いを必要とするスタッフと一緒に行うことが多かったです。1ヶ月の期間中､最も行った作業は梱包の作業です。オンラインで受注を受けた商品を１つずつ手作業で梱包します。月曜日は日曜日に入った受注分も梱包したため､量が多かったです。次に多く行った作業は検品作業です。バイヤーが海外でセレクトしたアイテムが届くと、オーダーしたアイテムの型番や色などをチェックして、各店舗へ振り分ける作業です。また、金曜日はお店の営業日だったので、開店前に商品にアイロンがけをしたり、品出しをしたり、軽い清掃なども行いました。

▶ 学んだこと

学校ではマーケティングやビジネスなどを学ぶ機会が多かったですが、このインターン期間は製作する側を見ることができたのでよかったです。タグの付け替えや完成品のサイズ違いを正規のサイズに合わせたり、簡単な作業ですが、商品を実際に手に取ることができたのも良い経験になりました。そのおかげで商品には人の想いやアイディアが沢山詰まっているということがわかりました。このインターンシップで得られたものはこれが一番大きかったです。また、語学に関しては英語を流暢に話せるわけではなかったのですが、わかる単語だけでも伝えようとするのがとても大事なことだと思いました。文法通りの文章で伝えるのではなく、伝えようとする思いは相手にも伝わるし、それをわかりやすく伝えたいと思うことによって語学力も上がったと思います。

▶ 反省点･課題

事前に英語力をつけておくのも大事だと思ったが、海外へ行ってからのことをもっと考えるべきだと思いました。英語の本、参考書などをひとつも持参しなかったため、携帯ばかり頼ってしまいました。携帯だとわからない単語をその度に調べることができるので、あまり学習できなかったのが後悔です。また、私はファッション企業でのインターンシップだったため、普段あまり使わない言葉が多かったので、英語でのファッション用語や動作も覚えておけばよかったと思います。今後の課題としては、英語力がどれほど向上したのか確かめることです。その為、今後はTOEICを受け、550点以上を目標に頑張りたいと思います。また、このインターンシップで吸収したことを忘れたり、低下させたりしないよう、より向上心を持って、英語の勉強に力を入れていきたいです。

▶ 後輩に伝えたいこと

一番お金がかかったのが食費でした。日本とは違い、500円でお昼が買えるということはなく、毎日お昼だけで1,000円程度かかりました。ホームステイ、学生アパート、どちらに住んだとしてもお昼は自分で用意しなければならない為、日本からカップラーメンなどを持っていけばよかったなと思いました。あと一番大切だと思ったのは自分から行動することだと思います！

▶ かかった経費

飛行機代（手数料等込み）：約140,000円
ホームステイ代＋学生アパート代:約250,000円
語学学校（授業料）：約100,000円
食費：10,000円／週

所属学部学科 | 服装学部　服装社会学科　グローバルファッションマネジメントコース

▶ 実習企業名･部署と実習期間

語学学校：ELS(地域：シドニー)　2017年10月9日(月)～11月3日（金）(4週間)
企業名：PLOTZ(地域：香港)　2017年11月7日(火)～12月1日（金）(4週間)

▶ インターンの目的･目標

まず、私はシドニーでの語学研修があった為、そこでは、なるべく英語に慣れ、積極的に使うことを目標としました。
香港でのインターンシップは、シドニーで得た英語のコミュニケーションスキルを生かすこと、また自分の技術面においての能力向上を目的としました。インターン先の香港では、その国のリアルなファッション事情を知ることも目的の一つでした。

▶ 業務内容

シドニーの語学学校ELSは、基本的に月曜日から金曜日まで、現地時間8時45分から13時45分までで、火、水、木のみの参加自由の放課後のクラスは15時までありました。少人数のクラスで、テキストを使い文法やリスニング等勉強しました。ディスカッションを色々な人とするので、ずっと席に座って講義を聞いているような授業ではありませんでした。宿題は大体毎日出ました。授業中にミニテスト、月末にクラス決めのテスト、たまに校外学習がありました。香港のインターンシップ先であるPLOTZでは、私は主にスタジオに出勤していました。勤務時間は大体、平日の現地時間で10時半から18時半までです。スタジオは、お客さんが来ることは殆ど無く、商品の開発や製作をする場所です。私が行った業務は、リサーリ、ミシンを使った縫製、手縫い、生地の裁断、パターンの作成、トレース展開、デザイン、生地のリサーチ、考案、資材の購入、フィッティング(フィッターとして)等でした。

▶ 学んだこと

まず語学研修では、授業に加え、学校で外国人の友人、そしてホームステイをした為、目標であった英語に慣れることは出来ました。また、日本で生活している時と違い学校が終わったら夕方には帰宅していた為、日々英語の自習をすることができ、時間の使い方の大切さに気づかされました。英語の基礎的な学習や国によってのイントネーションや言い回しの違いも改めてしっかり勉強出来たと思います。香港のインターンシップでは、職場でコミュニケーションを取っているうちに仕事で使える英語や自分の意見を伝えたい時に使う英語が実践的に覚えられると思いました。また、学びたいことや、やりたい事等、私の意見を親身に聞いて下さる職場だった為、色々な業務に挑戦でき、経験できたので目標にしていた技術的能力の向上に繋がると思いました。また、デザイナーの発想や背景にあるものを感じることができました。香港のファッション事情に関しても、業務で外部の人と関わったり、デザイナーと話したり、他のインターン先の友人と話すこと、実際に市場を見たりすることで、体感できました。

▶ 反省点･課題

シドニーでの反省点は、学校とホームステイ先での過ごし方です。日本人の友人と行動する事がやっぱり多くなってしまった為、もう少し他言語で生活していた友人と積極的に英語でコミュニケーションが取れたのではないかなと思いました。香港での反省点は、英語と少し疎遠になってしまった点です。香港では公用語が英語ではない為、英語を聞く機会もシドニーに比べるとやはり少ないです。通じないこともありました。仕事の方の課題に追われたり、そちらに気が向いてしまって、自身の英語の自習も殆ど出来なかったところもいけなかったと思います。その為、やはり課題として一番に挙げられるものは、やはり語学力です。事前にもっと語学力が身に付いていれば解決される問題は多いです。海外で生活してみて自分の英語力の無さをより感じたし、日本にいても現代社会では本当に必要なものなので、引き続き勉強したいと思います。

▶ 後輩に伝えたいこと

いざ海外で生活を始めると思っていたより緊張すると思います。しかし、自分の意思の軸がしかっりと保たれ、それを伝える為に行動すれば大丈夫です。意見は、はっきりと伝えましょう。相手側も、それを求めている事が多いです。GFMのインターンシップは自分の挑戦次第で色々な事ができます。貴方次第で善し悪しが分かれます。そして、帰国したら就職活動は始まっていると考えた方が良いです。就活にも生かせる良い経験になるように頑張って下さい!

▶ かかった経費

・飛行機代→日本からシドニー（ゴールドコースト経由）：57,620円／シドニーから香港（シンガポール経由）：33,974円／香港から日本：21,734円
・宿泊費→ホームステイ（シドニー）：約20,000円（食事付き）／寮（香港）：82,228円（200HK$/1泊)
・語学学校代→約70,000円
・通信費(シムカード代)→シドニー：3,550円／香港：1,134円
・交通費→シドニー：16,223円／香港：約10,000円
・食費→シドニー：約70,000円／香港：38,780円
・雑費→シドニー：231,883円／香港：293,848円

所属学部学科 | 服装学部　服装社会学科　グローバルファッションマネジメントコース

▶ 実習企業名･部署と実習期間

ELS Universal English College(シドニー)　2017年10月９日～ 11月３日(4週間)
WHOSTHAT(香港)　2017年11月６日～ 12月１日(４週間)

▶ インターンの目的･目標

目標は以前に短期留学に行った時にあまり英語を話せなく悔いがあったので今回は積極的に会話をしていくことです。目的は日本でのアパレルでのバイト経験や大学で学んだことを踏まえて、海外と日本アパレルの類似点と相違点を知ることです。

▶ 業務内容

WHOSTHATはレディースのアパレルブランドで店舗とオフィスがあります。私は主に店舗での出勤でした。最初の二日間はデザイナーさんが大学でのプレゼンがあり、その準備としてモデルさんの撮影を手伝いました。1日の仕事は主に販売員でプラス他の仕事をしました。オンラインショップ用とインスタグラムの写真撮影と編集、インスタグラムのフォロアーの増加、検索エンジンの設定、店舗のVMD作り、ここではクリスマス用のデコレーションを企画しました。材料調達、アクセサリーの製作、マーケティング調査といった仕事です。オフィスにも行く機会が何回かあり、衣装の修復作業も手伝いました。様々仕事をさせていただきましたが、積極性は常に求められ、心がけて仕事をしました。

▶ 学んだこと

目標としている語学では語学学校の授業はグループワークが多いのと英語のレベルごとにクラスが別れているので、同じ目線で会話をすることが出来、次第に積極性も身についていきました。目的としていた海外と日本のアパレルの違いは、時間に対してはゆとりがある部分はありましたが仕事は厳しい面もあり、メリハリがしっかりしていました。今回のインターシップを通して自分の意見をしっかり持つことの大切さを学びました。最初はデザイナーさんの好みに合わせようという考えで作業をしていましたが、デザイナーさんは私自身の考えを提案することを求めていました。これから働いて行く際にも自分の意見を発言する場面が増えてくると思うので、創造性を大事にしていきたいです。

▶ 反省点･課題

この2ヶ月間のインターンでは語学力の無さをとても痛感しました。インターンシップでは主に店舗に立ち接客を行っていたので、伝えたいことがあるのに言葉が出てこなく伝えられない時が多かったので、行く前に単語の予習をして臨んでおけばよかったと思いました。英語が話せることで仕事の範囲も大きく広がるのでこれからも英語の勉強を続けて行きたいです。また、生地を買いに行った際に細かいところまで見ていなく、生地の厚さが違い、サンプルで切られた生地の部分がそのままで無駄にしてしまいました。これが実際の現場であったら会社の損失になってしまうので、細かいところまでの確認をしっかりすることをこれからの課題です。すぐに身につくことではないと思うので日常の生活から課題点を意識して行動して行きたいと思います。今回の海外での経験で学んだことや見つけた課題点を無駄にしないように仕事の現場で発揮して行きたいです。

▶ 後輩に伝えたいこと

海外の文化を知ることも大切ですが、現地に行くと自分の国について聞かれることが多いので、自分の国を知っておいたほうが会話にもつながると思います。海外での2ヶ月間はなかなか出来ない経験です。行く前の準備をしっかりすることでより良いインターンシップになると思います。

▶ かかった経費

旅費：11,0000 ホームステイ・寮：20,0000、語学学校：160,000、生活費：200,000

ニューヨークパターン研修

授業概要

ニューヨークの大丸製作所２にて、ニューヨークコレクションに参加するブランドのパターン製作・縫製のアシスタント業務に取り組みコレクションショーが行われるまでの一連の業務を経験する。

到達目標

5週間にわたり大丸製作所２にてパタンナーの知識や技術力や仕事に対するスキルを身に付けコレクションに向けての作業内容やファッションショーに向けての準備作業を経験しグローバル社会における視野を身に付けファッション分野で発揮できる能力を身に付ける。

期間／スケジュール

第1週：企業オリエンテーション　　企業研修（パタンナーチーム）業務内容の説明
第2週：企業研修（パタンナーチーム）　CADデータパターン出力作業、パターンチェック作業など
第3週：企業研修（縫製チーム）　表地の地直し・裁断作業など
第4週：ニューヨークコレクション準備　　プレス・附属等の確認作業、サンプル搬入作業
第5週：ニューヨークコレクションバックヤード研修　OUR　CORT用　表地の地直し・裁断作業

成果と課題

インターンシップ後にミーティング行い次のようなことを確認した。
（成果）
日本人のパタンナーはグローバルでは非常に高度で繊細な仕事が認められている理由は、基本的な作業を的確に行い、正確にこなす能力の高さであることが身を持って経験することができたことにより、物を作り上げる上で重要な要素を知ることができ自身に必要であるスキルを今後の学生生活の中で培う取り組みができると感じている。
部署ごとに仕事内容を説明して頂いていたが、インターン先の企業理念や仕事の大まかな流れを事前教育して頂き、概要を把握することによりインターンの内容を深く理解することができていることを感じている。

（課題）
インターンシップ用のカリキュラムに合わせた仕事の内容ではなく、お引き受け頂く企業の仕事のスケジュールに合わせた内容となり、講義頂くカリキュラムの検討を先方と協議していく必要がある。またこれらの事を担当教員が現場を見ていないためインターンシップでどこまでどのようなことをお願いできるのか確認できていないのが現状であるため、今後どのように溝を埋めることができるのかが課題である。

所属学部学科 | 服装学部　服装造形学科　テキスタイル企画コース

実習企業名･部署と実習期間

企業名　　大丸製作所２
実習期間　　2017年8月7日～2017年9月14日(38日間)

インターンの目的･目標

今回このプログラムに参加した一番大きな理由として、服作りの工程においてパターンメイキングという職に興味があり、ファッション業界において欠かせないポジションだと考えているからです。デザイナーが描いたデザインをもとに構造、縫製工程などを具体的に考えリアルを構築的に作り出す方々の現場を直接見てみたいと思いました。

業務内容

大丸制作所２は主にパターン制作からショーで実際使うサンプル縫製をメインの仕事にしているため、パターンチーム、ソーイングチーム、裁断チームの大きく３つのチームで仕事を分担していました。僕らインターンは基本的に裁断チームで、具体的な仕事内容としてパタンナーが上げたパターンのパターンチェック、生地の地直し、当て込み、表地、裏地、接着芯などのパーツ裁断が主な仕事でした。他には33thにある生地屋に接着芯やボタンを買い出しに行ける機会もあった。パターンチェックは裁断前の重要な工程で１㎜の誤差や、合印の位置、縫い代分量などを正確にみる必要のある仕事でした。裁断前の工程で最も重要だと思った仕事は生地の地直しでした。普段学校で服を作る時はその工程にあまり力は入れずなんとなくやっているだけでした。ただプロの世界では地直しをする際スチームで変わる縮率を図ることから始め、布の寄れを直すだけでなく、当て込みの際、布の必要寸法になることまで計算されてのことでした。

学んだこと

一番学んだことは今まで重要だと思っていなかった工程が服作りにおいてもっとも重要なことだったということです。
服作りにおいて私は地直しや裁断よりパターン、作図に視点を置いており、いい服、構築的な服とはパターンによってすべて左右されると思っていました。ただ現場では布の処理に長い時間をかけ、裁断時も曲尺定規を何本も使い地の目を合わせ、ハサミでなく、ローラーカッターを使い定規を当て裁断していました。パターンがすべてと思っていた私には衝撃的で服が綺麗に見える要因はパターンだけではなくこういった丁寧な工程があったからです。こういったことをするブランドは世界で見ても日本が最も多くMade in Japanがなぜ世界で評価なぜ評価されているのか理解することができました。

反省点･課題

今回研修が終わり真っ先に感じたことは服作りのことではなく言葉でした。
日常会話や生活する上での英語は全く問題ないですが、専門的なファッション英語となると一切わかりませんでした。テキスタイルからパターンから何から何まで未熟さを感じ、今後の一番大きな課題となりました。また具体的にきれいな服とは何だろうと考えるようになり、今までパターンが全てでしたが、縫製までの準備に目を置き、よりクオリティの高い服を作ってみたいと強く思っています。そのためにも力のある会社でそれぞれのやり方をしっかり学び、自身の力を発揮できる場所で活躍したいと思います。

後輩に伝えたいこと

まずパターンを知らないとこのインターンに行けないということではなくて、行って学べることもたくさんあり、服ができる実際の工程を自ら行い、服ができ、それをモデルさんがきてランウェーを歩いてる姿を見ると、なんとも言えない達成感に見舞われます。
しかもそれを日本ではなく、アメリカで経験できるのでこの上越したことないです。

かかった経費

シェアルーム　Total　2,000$
食費　105$/週
その他　1,000$

所属学部学科 | 服装学部　服装造形学科

▶ 実習企業名･部署と実習期間

oomaruseisakusyo2.inc　パターン・縫製　2017年8月9日～9月15日

▶ インターンの目的･目標

世界中の様々なブランドからパターン製作の依頼を受けるパターンメーカーの大丸製作所２では、パタンナーはどのような役割でどのような業務をしているのかを実際に見たり仕事をして学ぶ。またファッションウィークに向けてのパターンメーカーの仕事の様子や、日本と違いアメリカニューヨークでの働き方はどのようなものなのかを実際に働いて知る。

▶ 業務内容

大丸製作所２の業務内容としてはパターン製作とサンプル縫製がメインであった。業務全体の流れは、まずクライアントからのパターン製作の依頼を受けたら着用するモデルとクライアントとともにフィッティングなどを行いパタンナーがパターンを製作、パターンチェックをする。このとき同時進行でサンプル用の布地の地直しをする。パターンチェックの終わったものから裁断や接着芯貼り、印付けをしてソーワ―がサンプル縫製をする。インターンシップではパターンチェックや布地の地直しや裁断、接着芯貼り、印付けの他にボタン付けや縫製中のアイロン掛けなどを行った。

▶ 学んだこと

パタンナーの仕事として、最初に出したパターンはパターンチェックや裁断、縫製していくとどこかで訂正箇所が出てくることが多い。それは初めから予想できたこともあれば実際の布地で縫製したからこそわかったこともある。いずれにしてもより訂正箇所の少ない完璧なパターンを作るにはパターンの知識の他に布地の特性や縫製に関する知識まで幅広い知識が必要であると感じた。また、インターンシップの学生は決められた仕事をするだけでなく会社全体の業務の様子を見て滞っている作業のアシストをしたり、来客への対応、備品のチェックなどをする必要があった。そのため業務の様子を把握できるような視野の広さと臨機応変に対応できる柔軟さやコミュニケーション能力が必要不可欠だと感じた。

▶ 反省点･課題

大学で基本的なパターンの知識や縫製技術を身につけたつもりでインターンシップに臨んだが、実際にアパレルの現場で働いてみると学んだことのないアイテムのパターンや縫製方法が多く、分からないことばかりだった。また裁断や接着芯貼りでは地の目や柄合わせ、布地に合わせたアイロン掛けなど大丸製作所２ではより丁寧で正確な作業が求められたが、大学の授業や課題でやり方は知っていても普段はあまり細かいところまで意識せず作業をしていたのでスムーズに作業できず戸惑った。大学ではあくまで基本的なことしか学べていなかったり裁断などの細かな作業は自己判断だけで作業していることが多かったと感じた。そのため大学の授業内にとどまらずもっと広い視野を持って沢山のパターンやテキスタイルに触れて、普段から丁寧に正確な作業をしていくべきだと感じた。

▶ 後輩に伝えたいこと

より多くのパターンやテキスタイルをみてその特徴を知っておくことや、縫製の知識は勉強しておくと仕事がしやすくなると感じた。仕事をスムーズに行ったり色んな話を聞くために現地の人とよりコミュニケーションがとれるよう積極的な態度で臨むといいと思う。

▶ かかった経費

宿泊費39泊約＄1,600　航空券約＄200　海外旅行保険や海外携帯料金約＄400　食費約＄500（外食含め）　その他約＄1,000（交通費、観光・お土産代など）

長期学外学修プログラム

平成29年度報告書

発行日：平成30年4月30日

発　行：文化学園大学
〒151-8523 渋谷区代々木3-22-1
03（3299）2019

編　集：松田祐之（服装社会学研究室）

工藤雅人（服装社会学研究室）

エドワーズ沙織（文化学園大学USR推進室）

鈴木あかり（文化学園大学USR推進室）

文化学園大学

Bunka Gakuen University